

小郡市
地域福祉に関する市民意識調査
結果報告書

平成 31 年 3 月

小郡市・小郡市社会福祉協議会

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	2
2.	調査の概要	2
3.	報告書の見方	3
II	結果の概要	5
1.	結果の概要	6
III	調査結果	15
1.	調査対象者について	16
2.	「福祉」について	24
3.	社会福祉協議会や民生委員・児童委員について	37
4.	地域での生活について	47
5.	地域活動やボランティア活動について	79
6.	福祉サービスについて	104
7.	これからの福祉のあり方について	113
IV	調査票	125

I 調査の概要

1. 調査の目的

「地域福祉」とは、地域社会でともに暮らす人々が、障がいの有無や年齢に関係なく、互いに支え合い、助け合いながら、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるような地域社会をみんなで築いていく取り組みのことです。人と人とのつながりを基本として、福祉サービスを必要とする人たちの社会参加を促す「ともに支え合う社会づくり」のために、地域福祉の推進が求められています。

法律においても、平成 29 年の社会福祉法の改正においては、「支える側」「支えられる側」の別なくすべての人々が、地域の困りごとを「我が事・丸ごと」と捉え、誰もが住み慣れた地域で、生きがいをもって暮らし、共に支え合う「地域共生社会」の実現に向けた方向性が明記されました。

本調査は、次期「小郡市地域福祉計画・地域福祉活動計画」の策定にあたり、市内にお住まいの方々の福祉観、地域活動への参加状況などの実態を把握するとともに、市民の方々のご意見やご提言を広くお聞きし、同計画に反映していくことを目的に実施しました。

2. 調査の概要

- ・調査地域 : 小郡市全域
- ・調査対象者 : 小郡市在住の 20 歳以上 2,000 名を無作為抽出
- ・調査期間 : 平成 30 年 10 月～
- ・調査方法 : 郵送による配布・回収

配布数	回収票数	有効回収票数	有効回収率
2,000	940	937	46.9%

3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- その他回答などで、個人等が特定される可能性のある内容については、一部修正をして掲載しています。

II 結果の概要

1. 結果の概要

「福祉」について（24～36 ページ）

- 【問1】福祉への関心についてみると、「とても関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある層』は、前回の調査結果と比較して増加していますが、「とても関心がある」は約5ポイント減少しています。
- 年齢別にみると、「とても関心がある」は概ね、年齢が上がるにつれて割合が増加し、70歳以上が、35.6%と最も高くなりますが、「やや関心がある」を合わせた『関心がある層』は50歳代が最も割合が高くなっています。
- 「とても関心がある」と回答した方は、問2の「住民相互の自主的な支え合い、助け合い」では「とても必要だと思う」、問9の地域の人との交流の機会では「以前より多くなった」、問10のこの1年間での地区の集会所や公民館の利用の有無では、「利用した」と回答する傾向が高くなっています。

⇒50歳代は地域の福祉課題での自主的な支え合いの必要性（問2）についても「とても必要」との回答が2番目に多い世代でした。現役世代であり、社会的責任も大きな忙しい世代とのイメージがありますが、親の介護の中心世代、セカンドライフや地域を意識しだす年代と考えることができるのかもしれませんが。

⇒50歳代をターゲットにした福祉サービスの情報提供の重要性と地域活動のPRが将来の担い手の確保につながる可能性が考えられます。

- 【問2】地域の福祉課題に対する住民相互の自主的な支え合いの必要性に関する問では、『必要だと思う層』が90%以上を占めています。
- 福祉への関心別にみると、福祉に関心があるほど、支え合い・助け合いが必要と考える人の割合が高くなり、「とても関心がある」と『関心がない層』では、「とても必要だと思う」の割合が、40ポイント以上の大きな差が開いています。
- 一方で、福祉に関心がない層でも「ある程度必要」が50%以上を占めています。
- 「とても必要だと思う」割合を年齢別でみると、30歳代が最も低く、20歳代が最も高くなっています。

⇒現役まっただなかで仕事が生活の中心である30歳代と学生を含む20歳代の若者の違いと考えることができます。（20歳代は80%が10年以上本市に居住、70.7%が二世代の家族構成であり、小郡市で育ち、親と同居の二世代が多いと推測。30歳代は35%が居住年数10年未満、14.6%が夫婦のみの家族構成、66%が二世代の家族構成であり、小郡に転入してきた夫婦と子供の世帯も多いと推測）

○【問3】福祉について理解を深めるために必要な機会についてみると、『学ぶこと』が65.6%と最も多く、『気軽に話し合える場をつくること』39.8%、「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流すること」32.8%が続きます。

⇒福祉が一部の人のだけのものとならないよう、全ての人が我が事と捉えるための取組が必要です。支え合い・助け合いは概ね共通認識と受け入れられており、より多くの人を巻き込むためには、まずはご近所での身近な支え合いの仕組みをつくっていくことが有効と考えられます。その際には各年齢層の状況に配慮する視点が重要です。20歳代の若者に適した時間帯や役割を提示できれば、若い人の参加も見込める可能性があります。

社会福祉協議会や民生委員・児童委員について（37～46 ページ）

○【問4】社会福祉協議会（以下社協）の認知状況をみると、「名前だけ知っている」が55.6%で、「知らない」が26.1%、「よく知っている」が13.1%が続きます。

○活動内容の認知状況をみると、「赤い羽根共同募金」が最も高く、「高齢者などへの見守り訪問や声かけ等（ふれあいネットワーク活動）」、「福祉バス」が続きます。

⇒広く市民に関わりのある活動ほど認知度が高いと考えられます。

○【問5】民生委員児童委員制度の認知状況についてみると、「聞いたことはある」が55.6%で、「よく知っている」が24.2%、「知らない」が13.9%が続きます。

○年齢別では、若年層では「知らない」がおおよそ3～4割と高くなっていますが、年齢が上がるに連れて制度の認知度が上がり、70歳以上では、4割以上が「よく知っている」と答えています。また、この設問でも、「よく知っている」と「聞いたことはある」を合わせた『知っている層』が最も多いのは50歳代でした。

⇒社協、民生委員児童委員とも、制度の認知度は年齢が上がるにつれて高くなり、高齢者の取組の中でかかわりが生れるにつれて、認知度が上がっていると考えられます。50歳代は親の介護の関係で認知度が高いとも考えられますが、PRのあり方によっては、将来の民生委員児童委員の担い手の確保に繋がる可能性があります。

○【問6、問7】地区担当の民生委員・児童委員の認知状況についてみると、「知らない」が53.9%と最も多く、校区担当の主任児童委員については、「知らない」が82.6%で突出しています。

⇒社協、民生委員児童委員とも制度の認知は一定程度進んでいますが、地区担当の民生委員児童委員を知っているのは、かかわりがある高齢者など一部に限られている状況です。

⇒主任児童委員についても、年齢が上がるにつれて認知度が上がりますが、民生委員児童委員と比較すると低く、まずはかかわりが深い子育て世代の認知度を上げる取組が必要です。地域別にみると、東野校区と立石校区での認知度が比較的に高く、取組の参考となるかもしれません。

⇒社協と民生委員児童委員は地域福祉推進の中心となる存在です。その認知度を高めることは、身近な相談体制の拡充だけでなく、地域福祉活動の進めやすさや民生委員児童委員の担い手確保にもつながる重要な課題です。

地域での生活について（47～78 ページ）

○【問8】近所とのつきあいの程度についてみると、「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」と「たまに立ち話をする程度」がともに約35%で多数を占めています。「親しくおつきあいしているお宅がある」は17.5%で続きますが、前回調査の結果と比較すると割合が減少しており、若干近所づきあいの程度は低くなっています。

○性別にみると女性の方が近所づきあいの程度が高くなっています。年齢別では年齢が高くなるほど、近所づきあいの程度も高くなっていき、40歳代で大きく高まっています。居住地区別では若干の違いはあるものの大きな差異はみられませんでした。

○つきあいが無い理由としては、「関わる機会や時間がないから」が多数を占めています。

⇒近所づきあいの程度については、『地域性』（ニュータウンか農村地域か等）よりも、『年齢』が及ぼす影響が大きいと言えます。そして、転入者により人口を伸ばしてきた小郡市の特徴を踏まえると、『年齢』による違いとは、『居住年数の違い』や『住まいの違い』（借家は若い層が多く、持家は年齢が高い層に多い）であると推測できます。本調査では裏付けできませんが、40歳代で近所づきあいの程度が高まるのも、自宅の購入や子どもを通して自治会やPTAなど地域を意識し始めることが理由と考えられます。

⇒以上から、小郡をすみよいまちだと思ってもらい、長く住んでいただくことが近所づきあいを深めるためにも重要です。

○【問9】地域の人との交流の機会についてみると、「特に変わらない」が60.0%で多数を占めますが、「以前より多くなった」「以前より少なくなった」も一定の割合が存在しています。

⇒性別、地域別に大きな違いはありませんが、年齢別にみると、30～40歳代で「以前より多くなった」が増加し、50歳代で「以前より少なくなった」が増加します。子ども会やPTAを通して地域との交流が生まれ、子どもが大きくなることで交流の機会がなくなる様子を推測できます。

○【問 10】この1年間で地域の集会所や公民館の利用の有無についてみると、「利用していない」57.2%「利用した」39.8%となっています。

⇒年齢別でみると40歳代と70歳以上で「利用した」が比較的多く、子どもと高齢者関係での利用が推測できます。公民館での各種取組や情報提供に当たっては、これらの年代をターゲットにすると効果的と考えられます。

⇒問8～10をみると、30～40歳代は現役の忙しい世代ですが、転入を契機に地域に関心がある層や子どもを通して地域とかかわりがある層が一定程度存在することが考えられます。

○【問 14、問 15】必要な支援を受けられず、地域から孤立し、生活上の諸課題を抱えている人たちが、自分の暮らす地域にいるか知っているかについては、「知らない」が79.5%で突出していますが、困りごとを抱える人たちから助けの求めがあった時の対応についてみると、「できるだけ対応したい」が64.0%を占めています。

○「できれば避けたい」と「かかわりたくない」の理由をみると、「対応の方法が分からず不安だから」の34.2%、「対応したいが忙しいから」の27.3%が多数を占めています。

⇒「方法が分からず不安」だから助けの求めがあっても「対応したいができれば避けたい」「かかわりたくない」層が約34%存在します。一方で、障がいのある人や認知症の人、妊娠している人などへの声かけ、手助けの仕方などを身につけたいと思うか（問13）をみると、「機会があれば身につけたい」が63.8%を占めています。「対応したいができれば避けたい」の57.4%は「機会があれば身につけたい」と回答しており、PRや情報提供により、『対応したい層』に変わっていただくことが可能だと考えられます。

○【問 18】災害発生時に気になる人の有無についてみると、「知らない」が39.0%で最も高いものの、「いる」が36.1%で続いています。

○【問 19】災害発生時の備えとしてどのようなことが重要だと思うかをみると、「自分や家族の避難方法の確認」が71.7%で突出していますが、前回調査の結果と比較すると、大きな傾向に変わりはないものの、避難の際に手助けが必要な人への配慮の割合が比較的增加しています。

⇒支援を受けられず生活上の諸課題を抱えている人たちを知っているか（問14）では、「知らない」が大半を占めますが、災害発生時に気になる人の有無（問18）では「知らない」は39%、「いる」が36.1%と結果が違っています。近年続く大規模な自然災害や九州北部豪雨などにより、災害に対する市民の関心が高まっていると考えられます。問14についても、身近な問題として考えてもらえるようになれば、「いる」が増える可能性があります。

○【問 22】身近なところで困っている人にどのような支援ができると思うかをみると「安否確認の声かけ」が 68.5%で突出し、「災害時の手助け」39.2%「ゴミ出しの手伝い」25.3%「買物の手伝い」20.5%「心配ごとなどの相談相手」20.1%が続きます。

⇒あなたや家族に助けが必要な時、どのような支援をしてほしいと思うか(問 16)と比較すると、「安否確認の声かけ」と「災害時の手助け」は支援してほしいという求めに対して、支援できるという声が多く、地域での支え合いとして成立すると考えられます。一方で、「急病になった時の看病」「介護を必要とする人の短時間の預かり」などは、地域での対応は難しく、公的な福祉サービスなどによる対応が必要と考えられます。

⇒地域福祉の基本となる地域での交流については、あまり活性化していない状況ですが、困りごとを抱えた際や緊急時に手助けしたい意識は多くの方にみられます。支え合いの仕組みづくりや情報提供、PRにより、手を差し伸べやすい環境と助けを求めやすい環境をつくっていくことが必要です。

地域活動やボランティア活動について (79~103 ページ)

○【問 23】地域活動の有無についてみると、「活動したことがない」が 44.4%で最も高くなっていますが、「活動したことがあるが、現在はしていない」31.4%、「現在活動している」21.8%が続きます。

⇒「活動したことがあるが、現在はしていない」と「現在活動している」を『経験者』と捉えると、53.2%、回答者の約半数は何らかの地域活動の経験があるということが出来ます。

○現在活動している方の活動内容についてみると、「自治会（行政区）の活動」が 45.8%で最も高くなっています。

○年齢別にみると、20~30 歳代は「活動したことがない」が約 65%で多数を占めます。「現在活動している」では、30~40 歳代が約 25~30%と最も多く、「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」では、50 歳代が 40.2%と最も多くなっています。

⇒30~40 歳代と 50 歳代の状況は、問 9 の地域の人との交流の機会と似ており、子ども関係の他、行政区などでの活動も考えられます。60 歳代以上では、行政区や老人クラブなどの活動が考えられます。

○前回調査の結果と比較すると、前回は「消防団の活動」は 1.4%でしたが、今回は「消防団・自主防災組織の活動」と選択肢の幅を広げた影響もあってか、5.4%に増加しています。

⇒自主防災組織の活動が根付いてきていると考えられます。

○【問 24】個人的なボランティア活動への参加の有無についてみると、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が 31.6%で最も高くなっていますが、「参加したことはないが、今後参加したい」28.8%、「参加したことがあるが、現在参加していない」20.9%が続きます。

⇒「参加したことはないが、今後参加したい」と「参加したことがあるが、現在参加していない」を『参加の意欲や見込みのある人』と捉えると回答者の約半数（49.7%）はボランティア活動への参加の見込みがあると考えることが出来ます。

○ボランティア経験者の活動内容についてみると、「スポーツ・文化や生涯学習に関する活動」31.6%と「地域づくりに関する活動」30.5%が特に多くなっています。

○前回調査の結果と比較すると、大きな傾向に変化はありませんが、「災害ボランティア活動」が 6.7%から 17.7%と大きく増加しています。

⇒近年続く大規模な自然災害により、災害に対する市民の関心が高まっていることと、昨年の九州北部豪雨では、多くの市民が災害ボランティア活動に携わっていただいた可能性が考えられます。

⇒一方で、問 24 でみる『ボランティア経験者』に大幅な増加は見られず、同じ人が複数の活動をしている可能性や高齢化による引退と新たな加入者による入れ替わりが進んでいる可能性などが考えられます。

○ボランティア活動に参加したきっかけをみると、「町内会、団体、学校などの活動の一環」が 49.6%で最も高く、「自発的に行動した」が 31.9%が続きます。

○この傾向は性別でみても同じですが、男性はこの傾向がより強く、女性は「家族や友人、知人からの誘い」が比較的高くなっています。

⇒ボランティア活動の PR では、男性に対しては「活動の必要性や組織的な役回り」、女性に対しては「知り合いからの紹介や一緒に活動」なども考慮に入れると効果的かもしれません。

○ボランティア活動に参加してよかった点についてみると、「新しい経験が出来た」52.8%が最も多く、「多くの人と知り合いになれた」40.1%が続き多数を占めます。前回調査の結果も同じですが、「やりがいや生きがいを感じた」と「新しい知識や技術が身についた」がそれぞれ約 6 ポイント増加しており、比較的大きな変化ということが出来ます。

○【問 25】今後、各福祉分野に関わる地域活動やボランティア活動などに参加したいと思うかについてみると、前回調査から新たに追加した「参加できない」が 28.1%で最も高くなっています。次いで「高齢者福祉」21.6%、「防災・防犯」18.2%が続きます。

○前回調査と比較すると、「高齢者福祉」「障がい福祉」「青少年健全育成」「健康づくり」がややポイントを下げ、「防災・防犯」がポイントを上げています。

⇒今回の調査から「参加したくない」に加えて「参加できない」の選択肢を追加したため、この選択肢に回答が流れたことと、防災に対する関心の高まりを推測できます。

○「参加したくない」「参加できない」理由をみると、「時間的に余裕がないから」が52.0%で突出しています。

⇒地域活動やボランティアへの参加意欲がある人は少なくありませんが、実際に参加している人は多くはありません。しかし、活動経験者が新たな活動を始めている可能性や世代交代が進んでいる可能性もあり、引き続きPRや活動の情報提供などの支援は重要です。

⇒情報提供にあたっては、活動の必要性ややりがいなどのPRや、ターゲットを明確にするなどの工夫が求められます。また、災害や防災への関心の高まりを実際の活動に繋げていく視点が必要です。

⇒多数を占める時間的に余裕がない方への対応は困難ですが、参加することのメリットをつくることや阻害要因を分析して除去することが求められます。

福祉サービスについて（104～112 ページ）

○【問 27】福祉サービス情報の入手先についてみると、「広報おごおり」が58.2%と多数を占め、「回覧板」30.1%「インターネット」20.2%が続きます。特にインターネットは前回調査と比較して約2倍にポイント数が増加しています。

○年齢別にみると、ほとんどの世代で「広報おごおり」が大多数を占める中、20歳代では、「インターネット」が最も高くなっています。

○【問 29】福祉サービスの利用に際して不都合を感じたり、不満に思った点についてみると、「どこに申し込めばよいか分からなかった」51.6%「サービスに関する情報が入手しづらかった」46.7%「利用手続きがわずらわしかった」38.5%が多数を占めています。

○前回調査との比較では、「金銭的負担が大きい」「利用したいサービスが利用できなかった」「サービスの内容に満足できなかった」は約10ポイント減少していますが、「どこに申し込めばよいか分からなかった」「サービスに関する情報が入手しづらかった」は5～6ポイント増加しています。

○【問 30】福祉サービスを利用しやすくするために、市が取り組むべきことについてみると、「福祉サービスに関する情報提供を充実する」が70.4%で突出しています。

⇒福祉サービスの情報について不満を感じている人が多くなっています。『より分かりやすい情報』（内容と見せ方）を『いかに入手しやすい方法』（発信手段）で発信するか検討が求められます。年齢層別などのターゲットを明確にするなどの工夫が必要と考えられます。

これからの福祉のあり方について（113～124 ページ）

○【問 31】子どもたちやその家族が住みよいまちをつくるために重要なことについてみると、「安心して出産や育児が出来る母子保健や医療サービスの充実」が 31.6%で最も高くなっています。

○前回調査の結果と比較すると、「男性向け育児教室など男女ともに家事・育児に参加する意識づくり」は約 12 ポイント減少していますが、「気軽に子育ての悩みごとなどに関する相談ができる窓口・相談体制の充実」は約 9 ポイント増加しています。

⇒各種福祉サービスや休暇制度、金銭的支援、相談体制など、より具体的な生活支援が重要と考える方が多いようです。

○【問 32】高齢者が住みよいまちをつくるために重要なことについてみると、「健康づくりや医療体制の充実」が 38.5%で最も高くなっています。

○前回調査の結果と比較すると、「健康づくりや医療体制の充実」「公共施設・道路・交通機関の改善（バリアフリー）」「隣近所など身近な地域で高齢者を支える取組の充実」が約 4 ポイント増加しています。

⇒各種福祉サービスの充実が重要との意見が最も多く、次いで、バリアフリーや支え合いなど、身近な生活上の課題への対応が重要と考える方が多いようです。

○【問 33】障がいのある人たちが住みよいまちをつくるために重要なことについてみると、「自立した生活を送るための教育や生活訓練の充実」40.6%「職業訓練や働く場の充実」40.4%「障がいのある人に対する理解の促進」38.1%の3つが特に高くなっています。

○前回調査の結果と比較すると、「障がいのある人に対する理解の促進」「困ったときの相談体制や情報提供の充実」が約 7 ポイント増加しています。

⇒生活訓練や職業に関する自立支援と障害についての理解促進（啓発）が重要と考える方が多いようです。

○【問 34】生活困窮者が自立するため、また継続して自立した生活を営めるようにするために、重要なことについてみると、「ハローワーク等との連携による就労支援の充実」が 49.4%で最も高くなっています。

○【問 35】地域で健康づくりを進めていくために重要なことについてみると、「運動やレクリエーション施設の整備」が 44.7%で最も高く、「地域ぐるみの健康づくり運動の推進」36.6%が続きます。

○前回調査の結果と比較すると、「運動やレクリエーション施設の整備」が約 7 ポイント、「地域ぐるみの健康づくり運動の推進」「地域で健康づくりを推進する人の要請」が約 4 ポイント増加しています。

⇒「運動やレクリエーション施設の整備」については、市民ワークショップでも多くの意見が聞かれました。散歩しやすいバリアフリーの歩道やベンチの設置なども含んでいるようであり、高齢化の影響を考えることが出来ます。

○【問 36】ひとり親家庭の人たちが住みよいまちをつくるために重要なことについてみると、「多様な働き方ができる労働環境の整備促進」が41.8%で最も高く、「保育サービスのメニュー（乳児保育、一時保育、延長保育など）の充実」30.5%「ハローワーク等との連携による就労支援の充実」28.8%が続きます。

⇒生活困窮者(問 34)とひとり親家庭(問 36)については今回初めておたずねしましたが、就労に関する支援が重要との意見が多くなっています。

○【問 37】市民が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切だと思う福祉のあり方についてみると、「身近なところでの相談窓口の充実」が50.5%を占め、「福祉に関する情報提供の充実」39.7%が続きます。

○【問 38】一人ひとりが安心して地域のなかで暮らしていくために、自分ができることについてみると、「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」が52.8%を占めています。

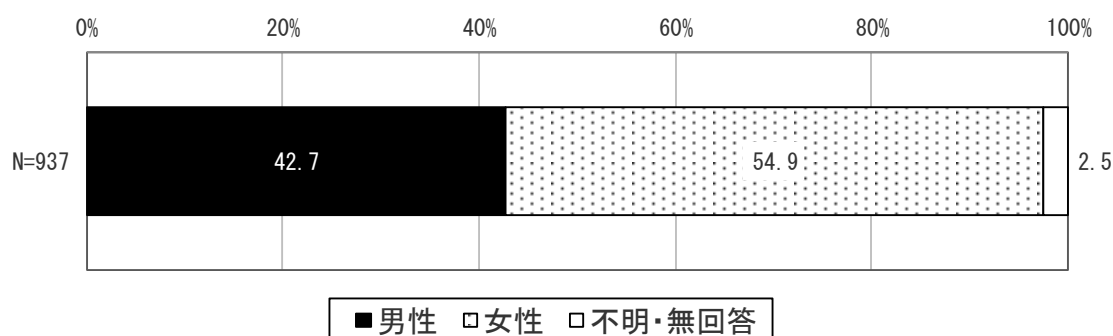
⇒福祉の各分野と健康分野で市民の皆さんが重要と考えることで、各分野に共通する項目としては、身近なところでの相談窓口の充実と誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるための支え合いを進めるための啓発などが挙げられます。市民ひとり一人ができるだけ地域での出来事に関心を持てるようにする取り組みが求められます。

III 調査結果

1. 調査対象者について

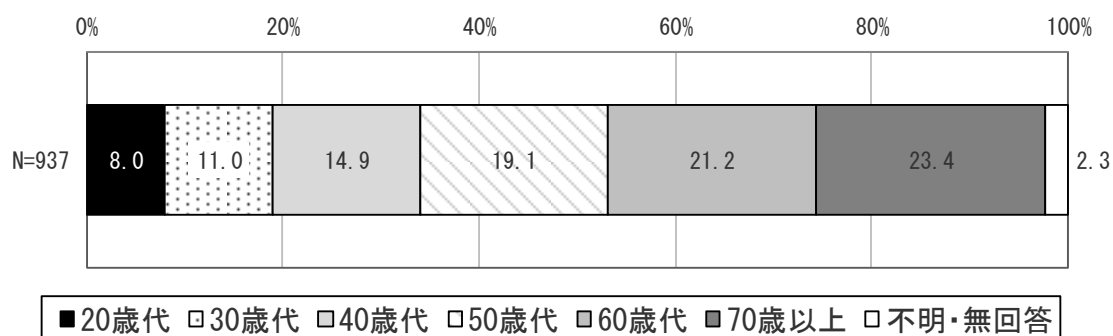
○ あなたの性別は？〈単数回答〉

「女性」が54.9%を占めています。「男性」が42.7%で続いています。



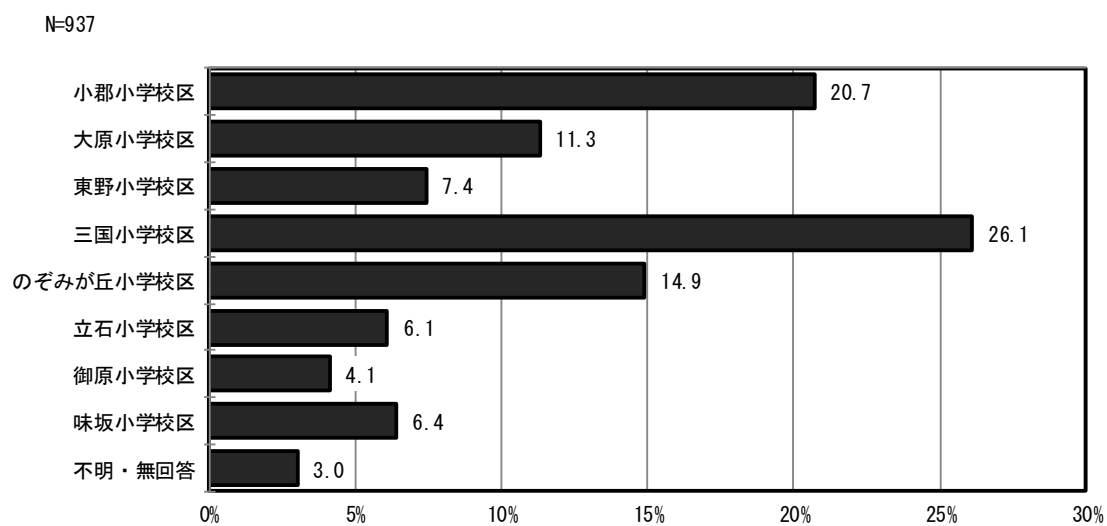
○ あなたの年齢は、何歳ですか。〈単数回答〉

「70歳以上」が23.4%で最も高くなっています。次いで「60歳代」が21.2%、「50歳代」が19.1%で続いています。



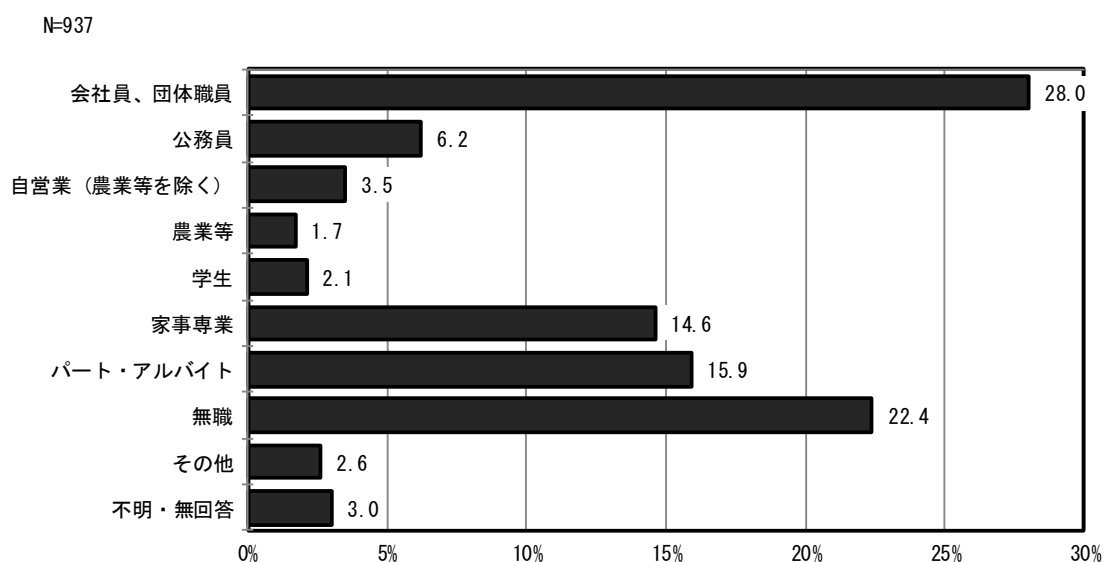
○ あなたが住んでいる小学校区はどちらですか。〈単数回答〉

「三国小学校区」が 26.1%で最も高くなっています。次いで「小郡小学校区」が 20.7%、「のぞみが丘小学校区」が 14.9%が続いています。



○ あなたの主な職業は何ですか。〈単数回答〉

「会社員、団体職員」が28%で最も高くなっています。次いで「無職」が22.4%、「パート・アルバイト」が15.9%が続いています。

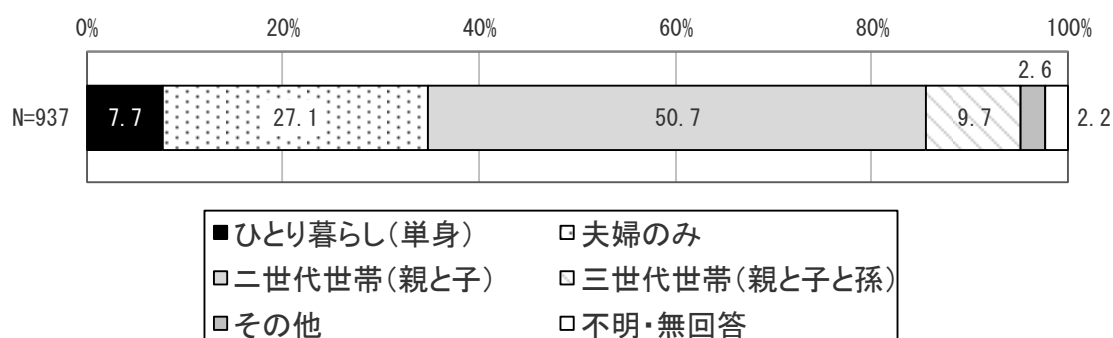


その他回答

- ・ 看護師（4）
- ・ 派遣（2）
- ・ 法人理事長
- ・ 接客
- ・ 年金（4）
- ・ 派遣就労支援施設通所
- ・ 医療関係
- ・ 主婦

○ あなたの家族構成はどのようになっていますか。〈単数回答〉

「二世世代世帯（親と子）」が50.7%を占めています。「夫婦のみ」が27.1%、「三世世代世帯（親と子と孫）」が9.7%が続いています。



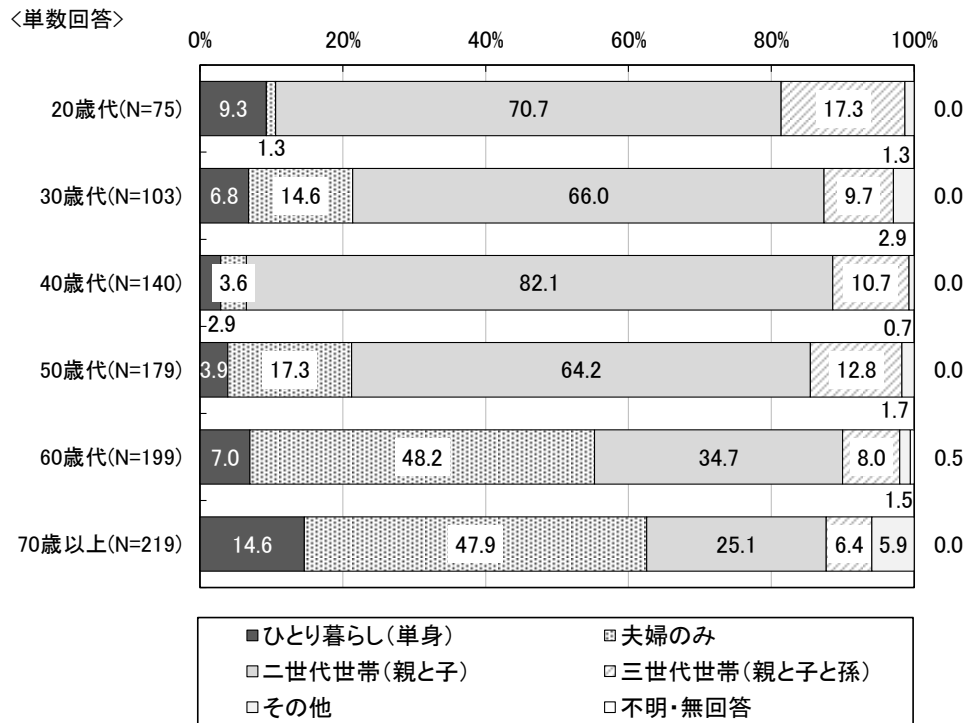
その他回答

- ・ 夫婦と子と孫（2）
- ・ 親、子、孫、姪、姉
- ・ 妹との2人暮らし
- ・ 夫婦と義弟
- ・ 施設入所
- ・ 親、子
- ・ 2人
- ・ 寮
- ・ 4世代（祖母、親、自分、子）
- ・ 単身赴任をしている
- ・ 親、子、甥
- ・ 夫婦と孫
- ・ 夫婦と妹
- ・ 姉と弟
- ・ 義姉

【クロス集計】

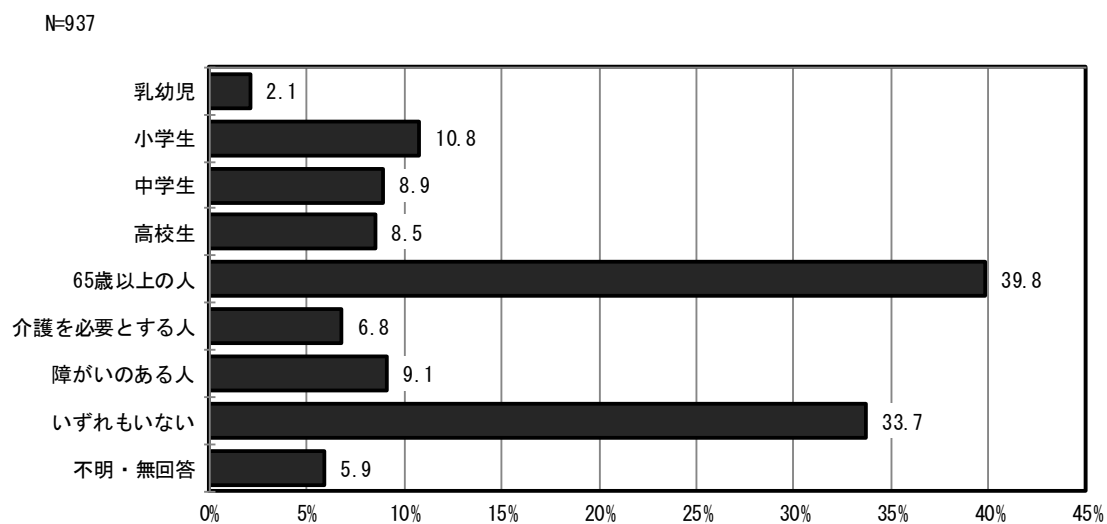
- あなたの家族構成はどのようになっていますか。
- あなたの年齢は、何歳ですか。

20歳代から50歳代では「二世世代世帯（親と子）」が、60歳代、70歳以上では「夫婦のみ」が最も高くなっています。また、70歳以上では「ひとり暮らし（単身）」の割合が他の年齢と比較してやや高くなっています。



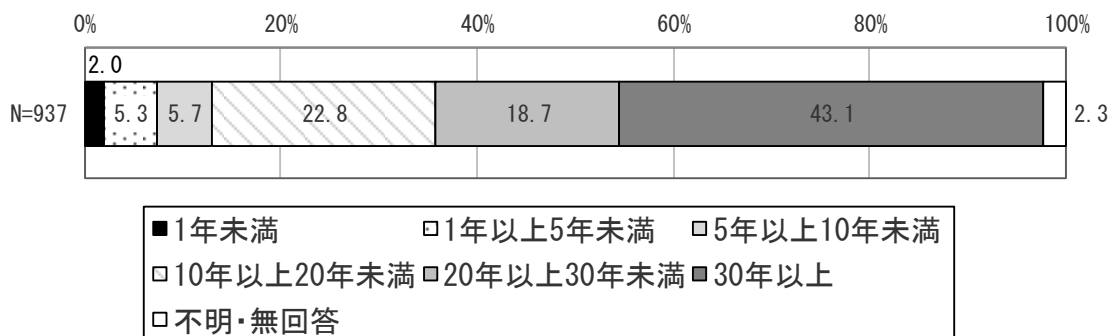
○ あなたが現在一緒に住んでいるご家族のなかに、つぎのような人(あなた自身も含みます)はいますか。〈複数回答〉

「65歳以上の人」が39.8%で最も高くなっています。次いで「いずれもない」が33.7%、「小学生」が10.8%が続いています。



○ あなたは小郡市に住んで何年になりますか。〈単数回答〉

「30年以上」が43.1%で最も高くなっています。次いで「10年以上20年未満」が22.8%、「20年以上30年未満」が18.7%が続いています。

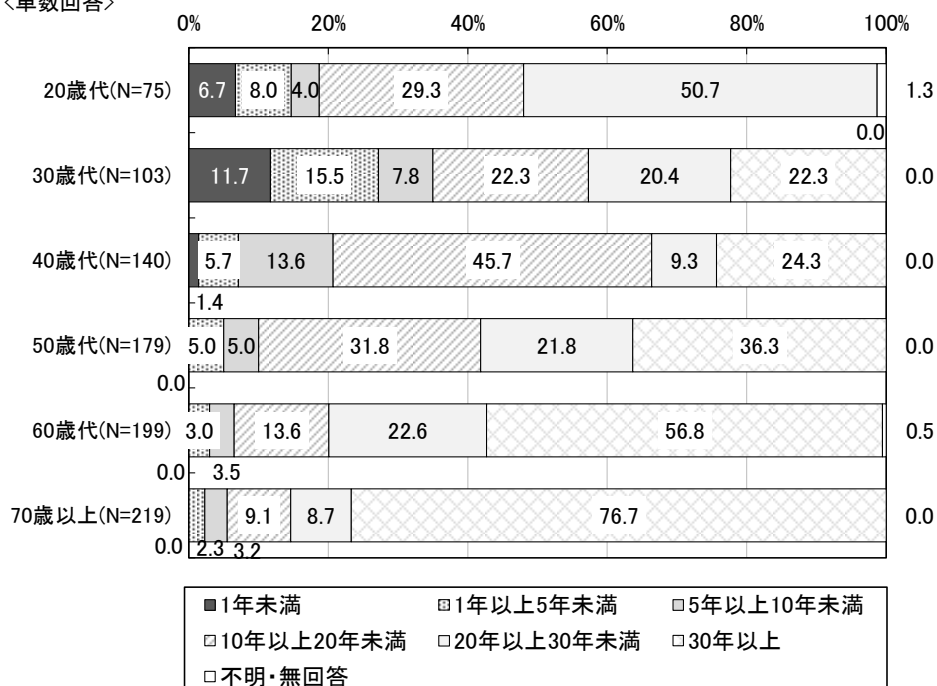


【クロス集計】

- あなたは小郡市に住んで何年になりますか。
- あなたの年齢は、何歳ですか。

年齢が上がるほど居住年数が高くなる傾向がみられ、特に70歳以上では「30年以上」が76.7%とおよそ8割を占めており、小郡市に長く住み続けられている方が多いことがうかがえます。

〈単数回答〉

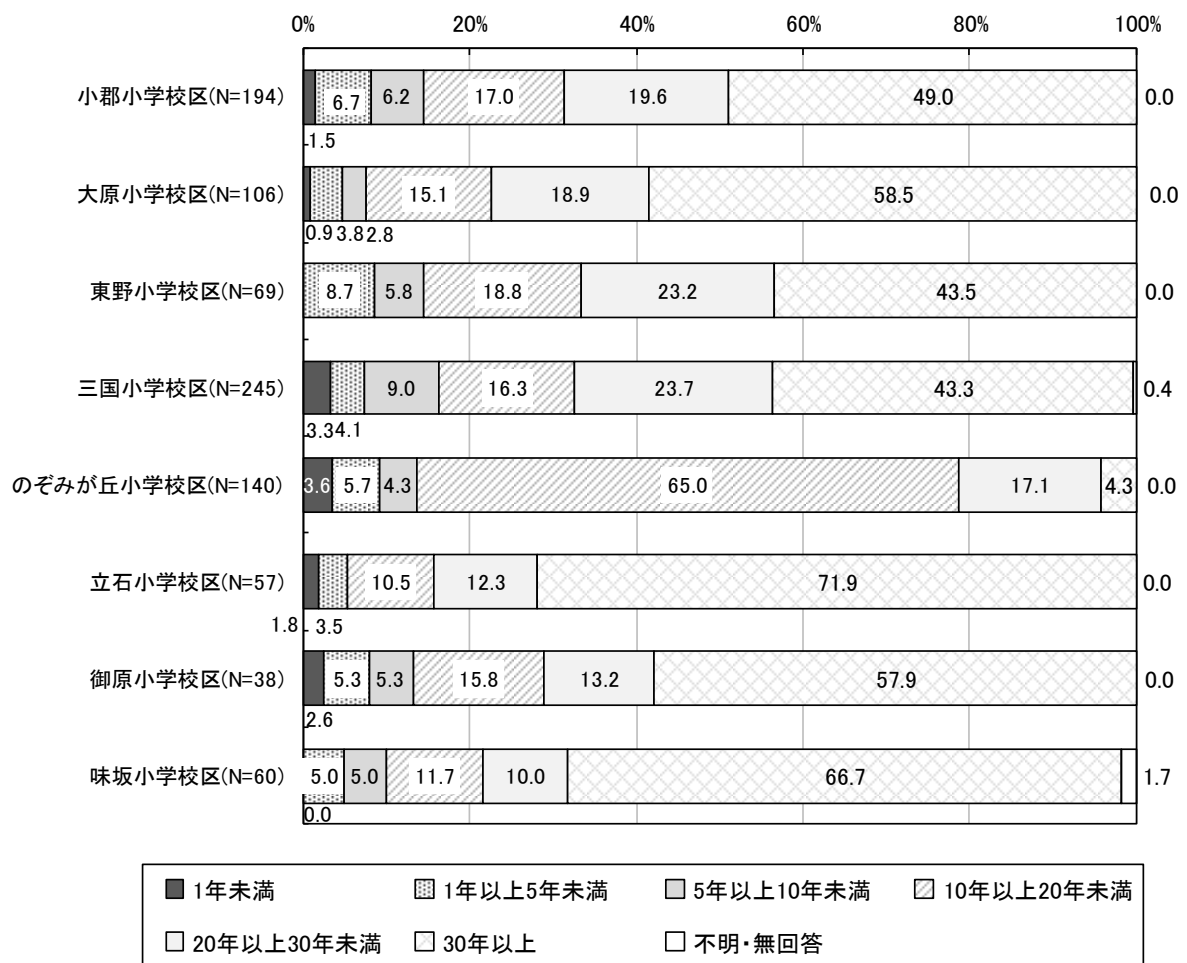


【クロス集計】

- あなたは小郡市に住んで何年になりますか。
- あなたが住んでいる小学校区はどちらですか。

のぞみが丘小学校区以外では、「30年以上」の割合が最も高く、のぞみが丘小学校区では「10年以上20年未満」が最も高くなっています。

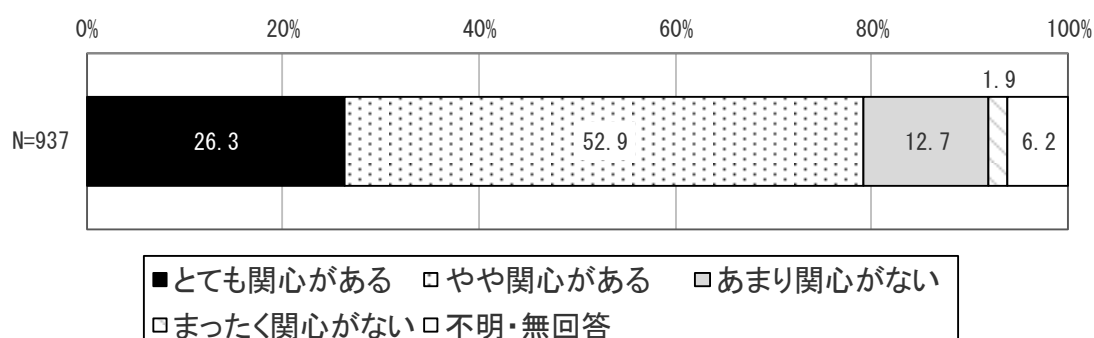
<単数回答>



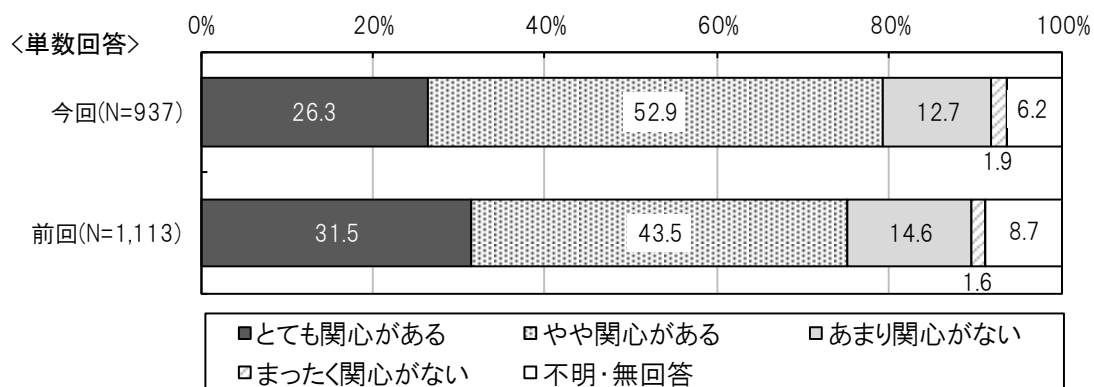
2. 「福祉」について

問1 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。〈単数回答〉

「やや関心がある」が52.9%を占めています。「とても関心がある」が26.3%、「あまり関心がない」が12.7%が続いています。



前回調査の結果と比較すると、「とても関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』は増加していますが、「とても関心がある」は約5ポイント減少しています。

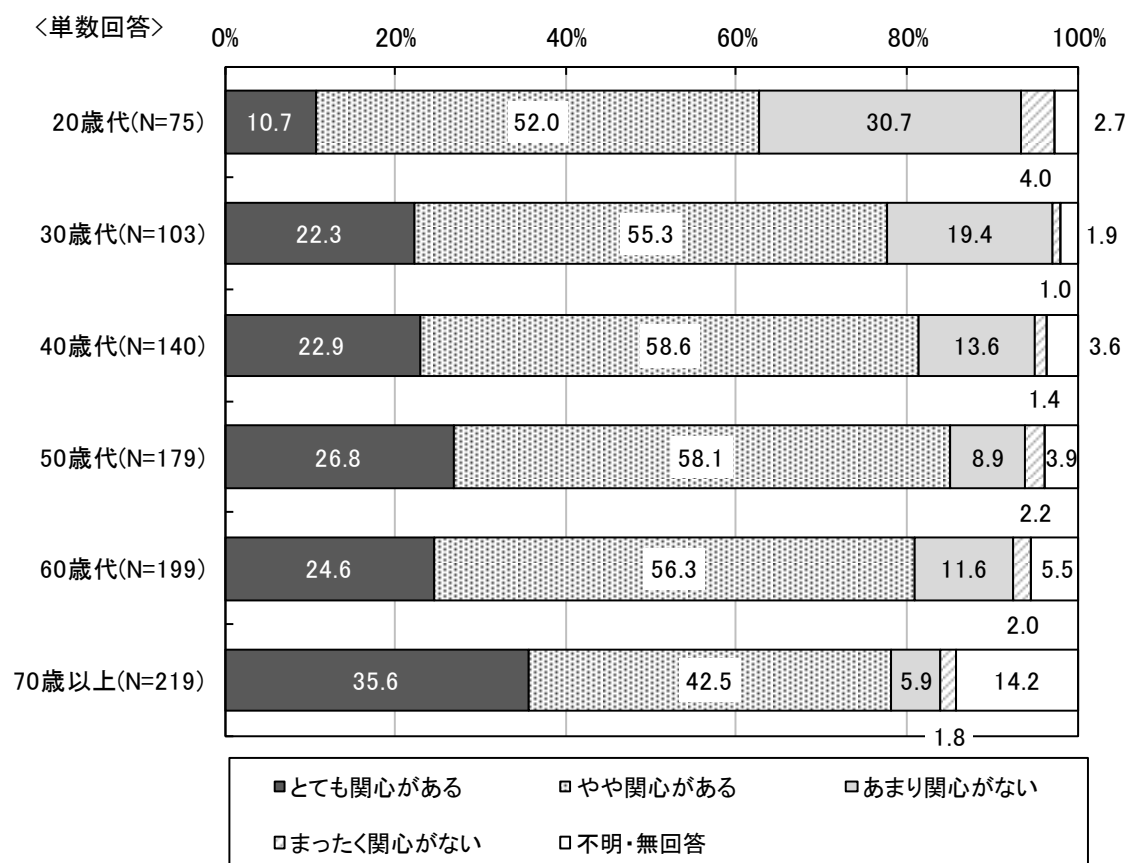


【クロス集計】

問1 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。

○ あなたの年齢は、何歳ですか。

年齢別にみると、年齢が若いほど福祉に関心のある人の割合が低くなっているものの、いずれの年代においても過半数が『関心がある』と答えています。



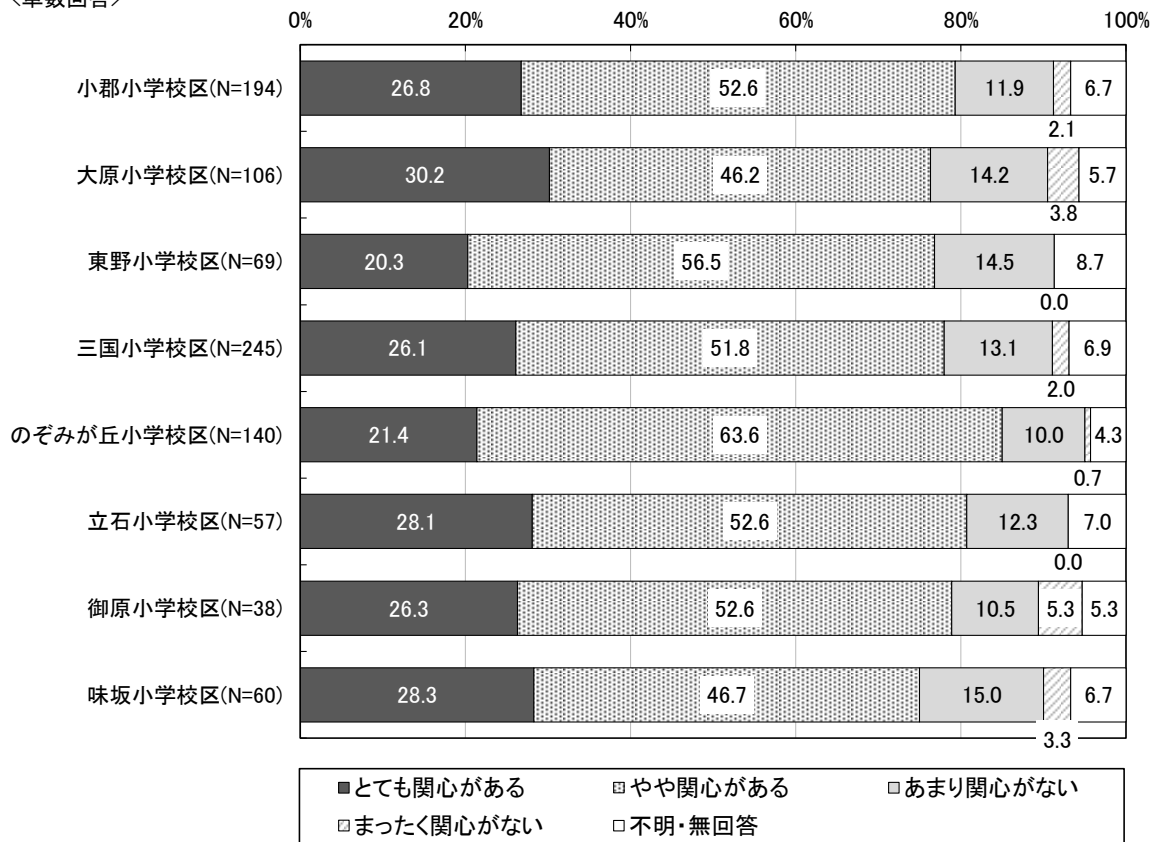
【クロス集計】

問1 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。

○ あなたが住んでいる小学校区はどちらですか。

いずれの小学校区においても「とても関心がある」と「やや関心がある」をあわせた『関心がある』と回答した人の割合が高く、およそ8割を占めています。特にのぞみが丘小学校区では他の小学校区と比較してやや高くなっています。

<単数回答>

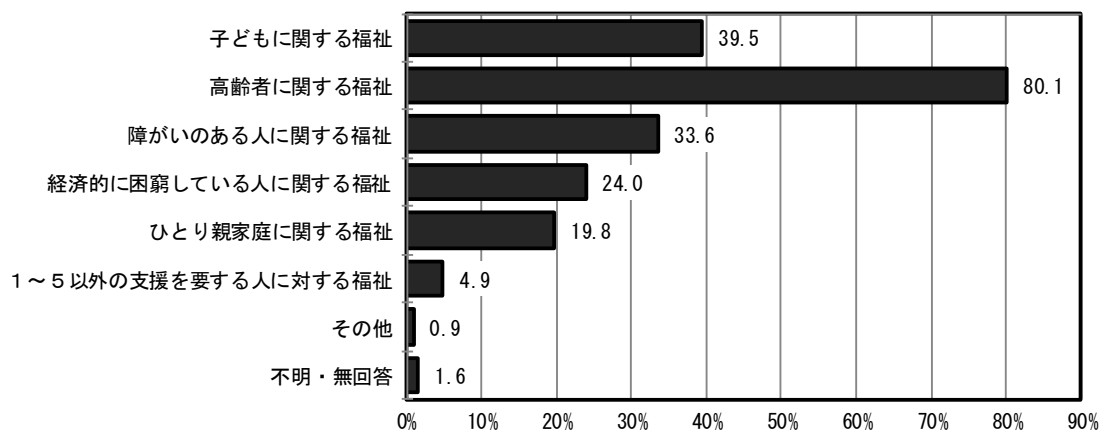


(問1で「1. とても関心がある」、「2. やや関心がある」に答えられた方)

問1-1 福祉のどのような分野に関心がありますか。〈複数回答〉

「高齢者に関する福祉」が80.1%で突出しています。

N=742



その他回答

- ・近所の人たちが気づいて区の役員に報告するも、あまり福祉課までいけないような感じを受けることがある
- ・全ての福祉を必要とする方々
- ・成人している孫2人が困窮
- ・子どもの不登校等
- ・外国人に対する福祉、共生
- ・難病指定者に関する福祉

(問1で「1. とても関心がある」、「2. やや関心がある」に答えられた方)

問1-2 問1でそのように答えた理由を教えてください。

● 自分の活動や経験からの理由

- ・福祉に関する仕事をしていたり、仕事上で福祉に関わることがあるため。(22)
- ・福祉に関して学んでいる、学びたいから。(5)
- ・福祉に関するボランティア活動をしている、したことがあるから。(4)
- ・少子高齢化社会の中、子供の成長過程、親の生活の様子を見ていく中で、関心をもつようになった。また、仕事や自分の周りで障がいがある方と接する機会があり関心をもつようになった。
- ・1、4は市が実施している学び場支援事業に関わったことがあり、とても重要な取組みだと考えている。3は共生社会を実現していくことが大切だと思う為。
- ・介護福祉士の資格を有しており、職業として、あるいはボランティアとして自分のできる範囲で役立てたいと思っている。

● 家族や知人の状況からの理由

- ・自分自身が高齢者だったり、家族、身近な人に高齢者や介護が必要な高齢者がいたりするので心配もあり、感心もある。(85)
- ・自分自身や身近な人(家族、親戚、友人知人)が障がい者だから。(35)
- ・家族、身近な人が福祉サービスを受けているか、対象になるかもしれないから。(30)
- ・子育てをしている(これから子育てをするので)関心がある。(22)
- ・自分自身に関係するか、現在福祉サービスを利用しているから(10)
- ・1人暮らしや独りになったときのことが心配なため。(5)
- ・親の問題があるから。(3)
- ・実際に家に高齢者がいるから。ひとり親で育ててもらったから。障害のある人ともうまく付き合いたいから。これからのことを考えると子どもの福祉についても興味があり、知識を生かしたいから。
- ・民間の福祉会社が運営する事務所への通所や、関係病院に入院させた父が、病院で肺炎から多臓器不全で亡くなった。民間ではコスト低減で冬の夜にエアコンを切っている。
- ・将来私たち夫婦は、一方が亡くなった時どうすれば良いか思い悩んでいる。相談する方等、事前に決める必要があると考える。
- ・子どもの福祉は現在小学生がいるため。高齢者は、これからこのまま住んでいくうえで、住みやすいかどうか。
- ・周りにボランティアをしている人がいる。自分も活動しなければと思うことが度々あるから。

- ・親が保育士だから。近所にお年寄りが住んでいるから。看護師志望だから。
- ・1, 2 自分に関係がある。3, 4 周りの人の相談にのることがある。
- ・家族を通して身近に感じている為。また、その必要性を感じる為。
- ・配偶者が障がい者施設に勤務しているので多少関心があるから。
- ・母親の健康のことや、医療費のことが心配だから。
- ・自分たちの立場から直接関係があると思うから。
- ・周りで生活が大変そうな人がいるから。
- ・経済的に困窮したことがあるから。
- ・自分が一人親だから。
- ・生活が苦しい。
- ・自分の境遇。

● 要望

- ・高齢者福祉を充実させてほしい。(6)
- ・交通（コミュニティバス）の本数の便を増やし、金銭面の援助もしてほしい。(5)
- ・低所得施設を作してほしい。(2)
- ・小さい子供の教育をもっともっと充実してほしい。市立の幼稚園は少なくなるようだし、子供の公務にあたっている人はもっと学んで下さい。
- ・子供、障がい者に対するメリットが他国に比べて少ない感じなので、もう少し良くなってくれればと思う。
- ・今後とも引き続き行政の皆さんの支援をお願いしたい。また各区に民生委員を、男女数名でお願いしたい。
- ・障がいのある人の雇用問題・道路の整備（安全管理）。
- ・相談する窓口を一本化に。

● 将来お世話になるからや、福祉理念的な考え

- ・小郡市の福祉サービスを充実させて、安心安全に暮らしたい。(23)
- ・すべての人が平等に暮らせる社会になるといいと思うため。(19)
- ・高齢者福祉の充実。(6)
- ・他県に離れて生活する子供、親のことに対して、健康面や経済面で心配している。また、定年が近くなり、経済的な不安がはっきり分からない分、余計に心配。
- ・子供の減少、超高齢化社会（一人暮らし）に対する市政、あるいは支援体制の構築は緊急の課題である為。
- ・支援を必要とする人たちへの福祉を充実してほしい。
- ・自分で力になれることは支援に参加したい。
- ・来た道、行く道。

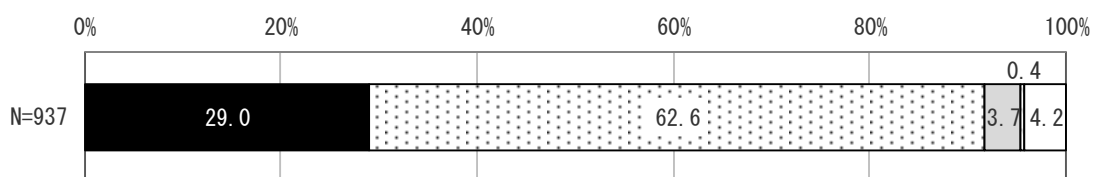
● その他

- ・高齢化への不安 (21)
- ・高齢者になるから (15)
- ・少子高齢化の問題 (12)
- ・福祉やサービスについてよくわからない (9)
- ・将来が不安だから (5)
- ・医療や生活について。(4)
- ・経済的に困窮している人、一人親家庭、この中には不当に恩恵を受けている人がいる。安易な保護で、働くこと、自立することから逃げている人もいる為。消去用で1、2、3を選択した。
- ・1~5 全てに関心を持つが、対象者を絞り込む作業が大変だと思う。本当に必要な人にだけ支援がなされるべきだと思う。甘やかしてはいけない。
- ・今後も小郡市で生活を続けていくべきか、福祉対策が充実している福岡市等の大都市へ移住すべきかの決定事項になりうるから。
- ・自分の生活で手一杯で余裕がない。ただ手話を習得したいという思いは昔からある。
- ・保育家庭における環境と保全・働くことでの収入、その機会の多様性の開拓。
- ・今の世界の現状を見たとき、今後どうなるのであろうかと思うので。
- ・もし近い将来、福祉のお世話になった時のことを考えているから。
- ・小郡市は税収が少ないから、自分や親の今後が心配な為。
- ・高齢者が住みやすく、生活がスムーズにできるように。
- ・適応障がい等で生活に支障があり、支援が必要な場合。
- ・小郡市では老人に対する福祉は不足していると思う。
- ・小郡市は障がい児に対しての対応がひどすぎる。
- ・今、社会的に福祉のあり方が問われているから。
- ・相談できる人、頼れる人がいるのか気になる。
- ・今後政策が変更されるかどうか(経済的にも)。
- ・自身のこれからの生活に影響があるから。
- ・将来身体的、精神的に低下していくこと。
- ・年金をもらえるかわからない世代だから。
- ・自分がお世話になるかもしれないから。
- ・まだ自分自身、実感していないから。
- ・家族以外の協力が必要だと思われる。
- ・国の政策の中で重要な案件がある為。
- ・福祉サービスの利用制度のあり方。
- ・全ての人に関わることだから。
- ・これから先のこと。病気等。

- ・介護に関する問題だから。
- ・高齢者が困窮している。
- ・不十分だと感じる為。
- ・教育は重要。
- ・身近でない。
- ・必要だから。
- ・待機児童。

問2 あなたは、地域の福祉課題に対し、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性についてどう思いますか。〈単数回答〉

「ある程度必要だと思う」が62.6%を占めています。「とても必要だと思う」が29.0%、「あまり必要だとは思わない」が3.7%で続いています。



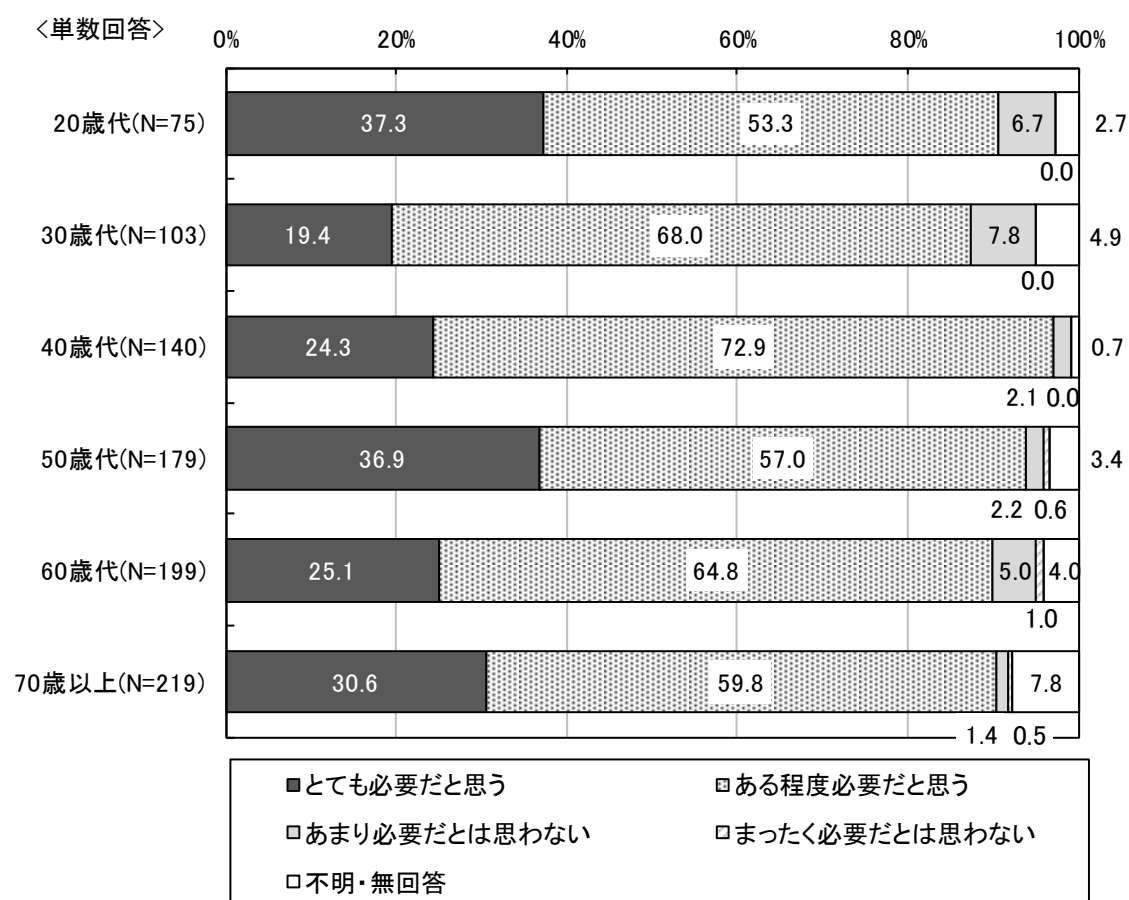
- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> とても必要だと思う | <input type="checkbox"/> ある程度必要だと思う |
| <input type="checkbox"/> あまり必要だとは思わない | <input type="checkbox"/> まったく必要だとは思わない |
| <input type="checkbox"/> 不明・無回答 | |

【クロス集計】

問2 あなたは、地域の福祉課題に対し、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性についてどう思いますか。

○ あなたの年齢は、何歳ですか。

年齢別にみると、いずれの年齢においても「ある程度必要だと思う」が最も高くなっていますが、20歳代、50歳代、70歳以上においては「とても必要だと思う」が30%以上と高くなっています。

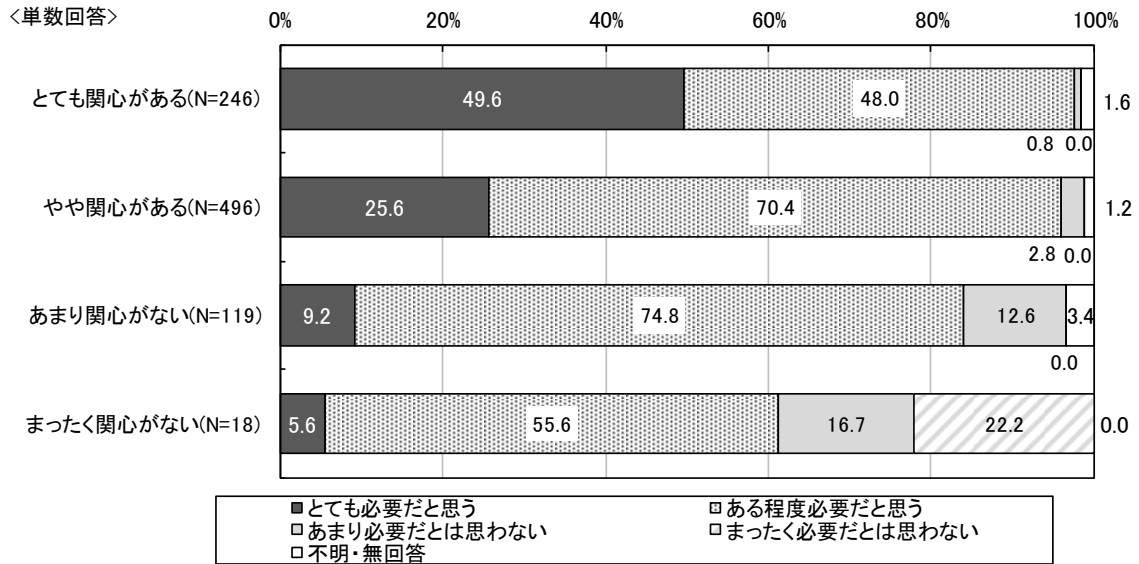


【クロス集計】

問2 あなたは、地域の福祉課題に対し、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性についてどう思いますか。

問1 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。

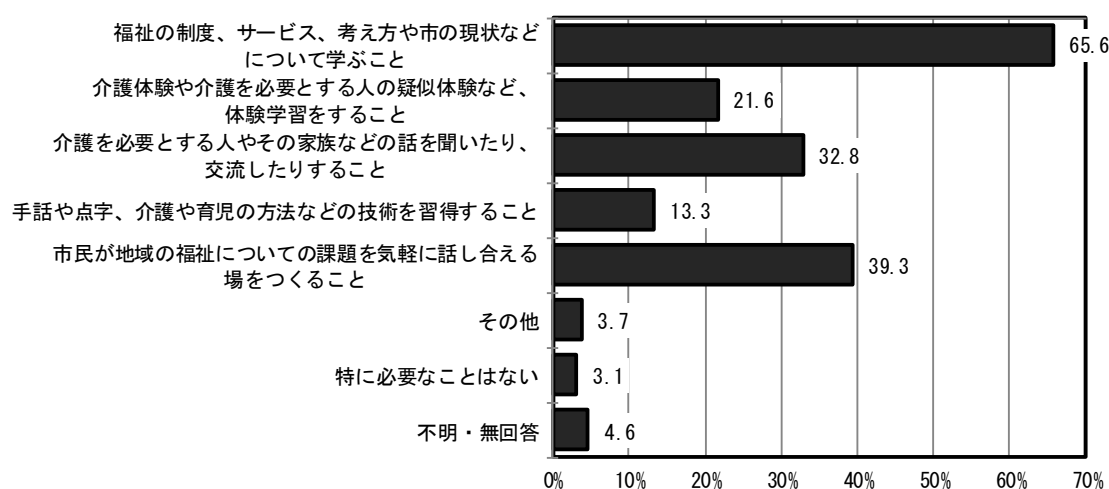
福祉への関心別にみると、福祉に関心があるほど、地域住民相互の自主的な支え合い、助け合いが必要であるとする人の割合が高くなっており、(福祉に)『とても関心がある』では「とても必要だと思う」の割合が49.6%と関心がない層より40ポイント以上高く大きな差となっています。



問3 あなたは、市民が福祉について理解を深めるためには、どのような機会が必要だと思いますか。〈複数回答〉

「福祉の制度、サービス、考え方や市の現状などについて学ぶこと」が65.6%を占めています。「市民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」が39.3%、「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」が32.8%で続いています。

N=937



その他回答

- ・福祉課の活動アピール不足だと思う。何もしていないと受け止めている。何年も昔から今でも同じことをして、前進していない感じで積極性を感じない
- ・言うだけで何の役にも立っておらず、解散すべき。北別館に統一すべき。足が不自由なのに本館と別館を行き来させられる
- ・老人クラブに入っているが、その中で公民館等での催しものに参加することでお互いを知り合っている
- ・1～5に丸をつけたが、実際にそういう場に行ったり聞いたりすることは、なかなか難しいと思う
- ・多種多様な人々が存在することを、小さいうちから見聞きして知っていく必要がある
- ・市のホームページを見ることのできない人の為に、必要な時相談できる窓口の情報
- ・高齢者、祖父母等と同居生活をすれば自然に理解、体得できることもある
- ・小、中学生の頃から上記の種々に触れる場をつくれたら良い
- ・行政が福祉に対し充実させること、しっかり広報すること

- ・近くに高齢者がいると、あいさつ等の声かけを忘れずに
- ・市に在住している外国人への理解を深める場を作ること
- ・どのような福祉があるのか、書類を作り配布する
- ・福祉に対する市の取り組みがみられない
- ・高齢者の体力向上を考える
- ・地域社会の見守りに参加
- ・情報発信が必要
- ・市の情報発信
- ・市民がわかりやすい書類提供
- ・小郡市のリーダーシップ
- ・情報提供の充実
- ・良くわからない
- ・教育

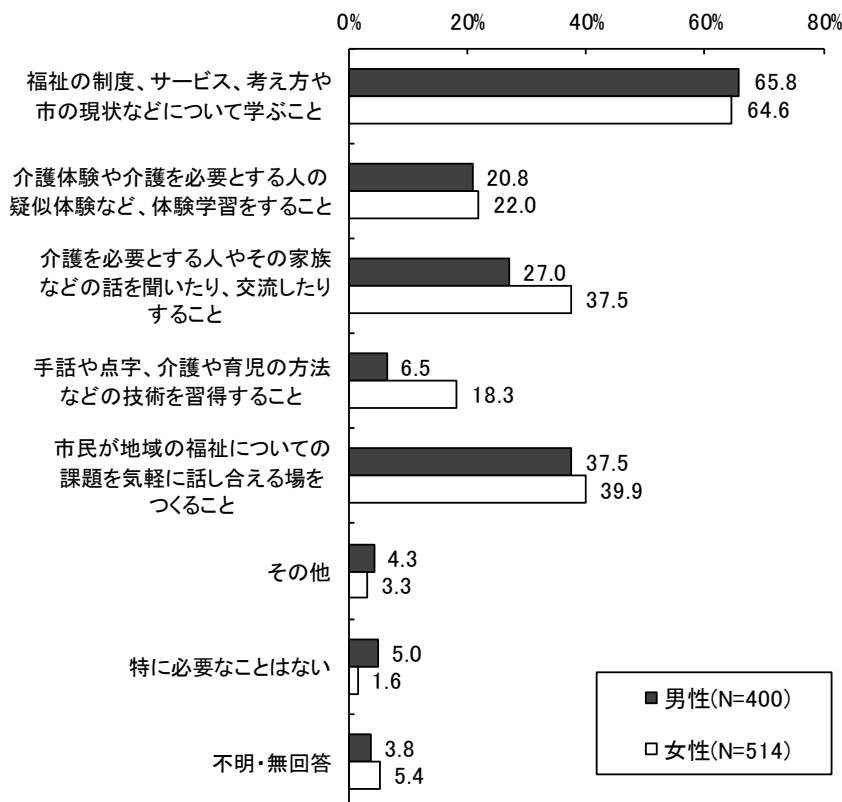
【クロス集計】

問3 あなたは、市民が福祉について理解を深めるためには、どのような機会が必要だと思いますか。

○ あなたの性別は？

性別にみると、男女ともに「福祉の制度、サービス、考え方や市の現状などについて学ぶこと」が最も高くなっています。また、「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」「手話や点字、介護や育児の方法などの技術を習得すること」では女性の方が10ポイント以上高くなっています。

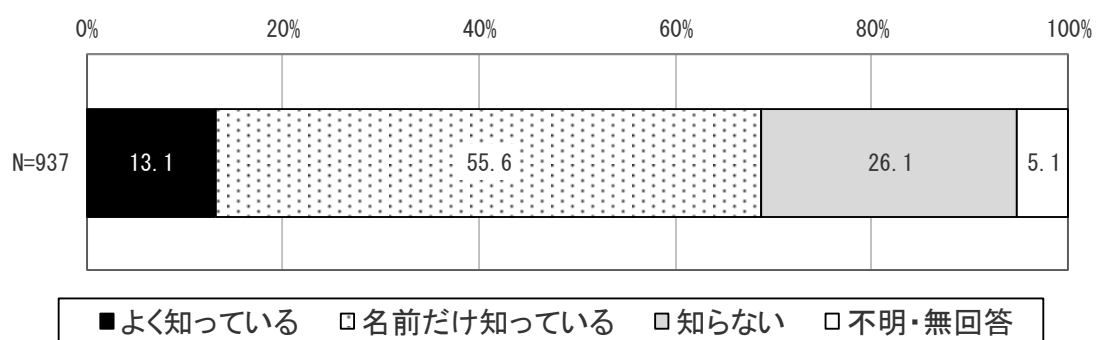
<複数回答>



3. 社会福祉協議会や民生委員・児童委員について

問4 あなたは、小郡市の社会福祉協議会を知っていますか。〈単数回答〉

「名前だけ知っている」が55.6%を占めています。「知らない」が26.1%、「よく知っている」が13.1%で続いています。

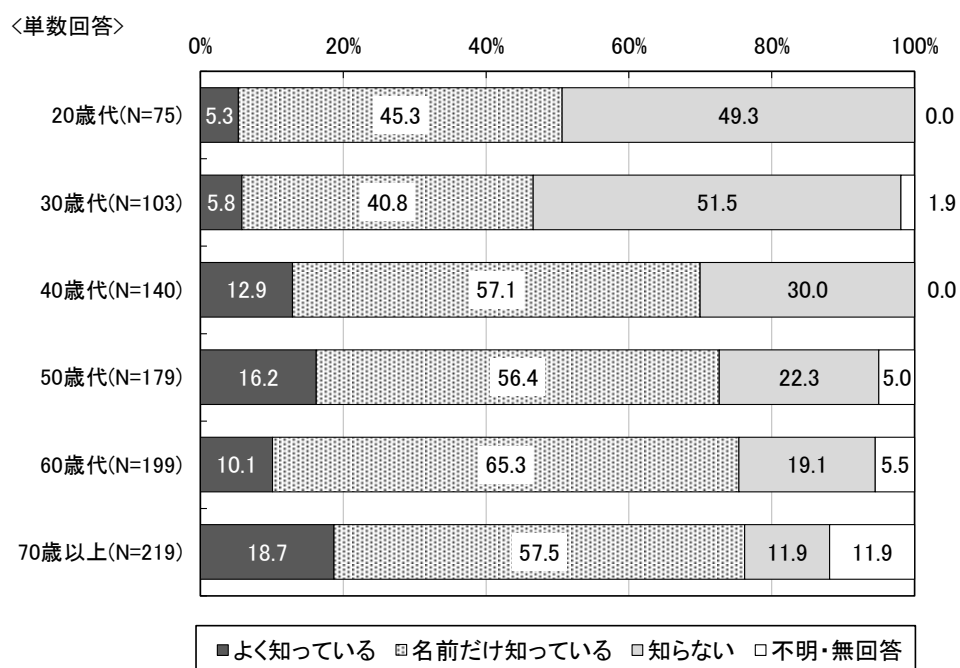


【クロス集計】

問4 あなたは、小郡市の社会福祉協議会を知っていますか。

○ あなたの年齢は、何歳ですか。

年齢が下がるほど「知らない」の割合が高くなる傾向がみられます。また、50歳代、70歳以上では「よく知っている」の割合が他の年齢と比較してやや高くなっています。

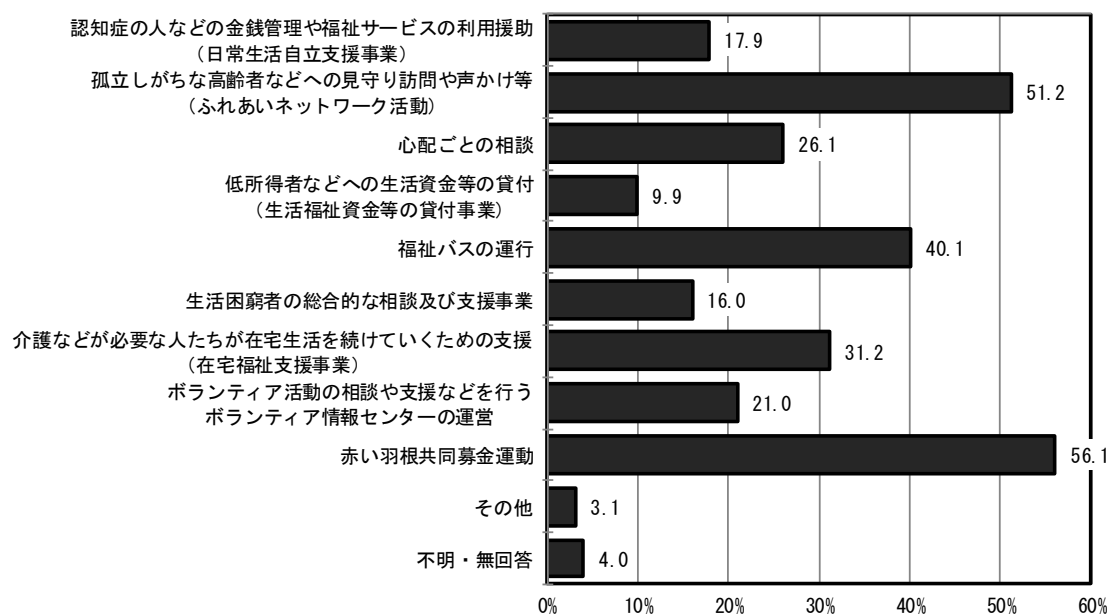


(問4で「1.よく知っている」、「2.名前だけ知っている」に答えられた方)

問4-1 あなたが知っている社会福祉協議会の活動はどれですか。〈複数回答〉

「赤い羽根共同募金運動」が56.1%を占めています。「孤立しがちな高齢者などへの見守り訪問や声かけ等（ふれあいネットワーク活動）」が51.2%、「福祉バスの運行」が40.1%で続いています。

N=644

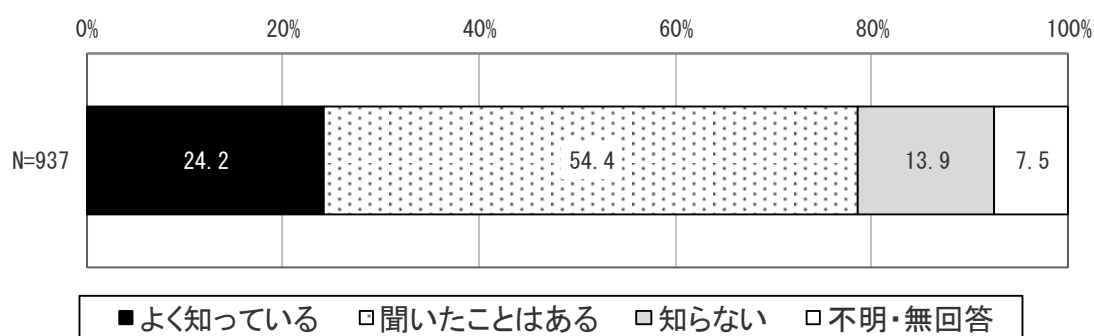


その他回答

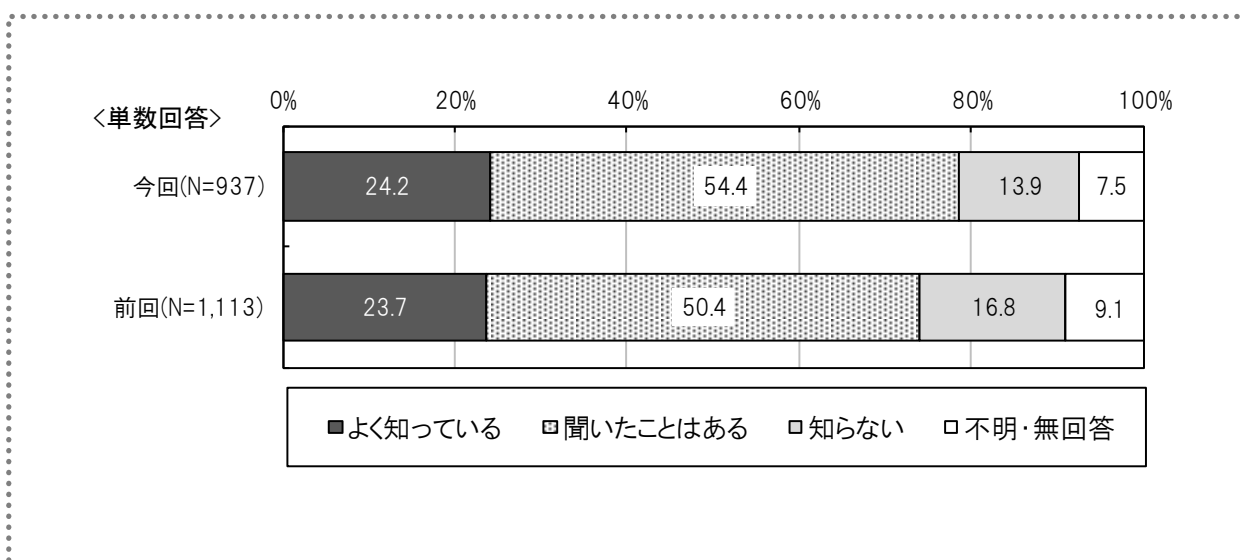
- ・具体的には知らない (4)
- ・名前しか知らない (2)
- ・市民の声より、代議士の声を大事にしているイメージ
- ・上記のすべての気もするが…
- ・タイムケア、サポネット
- ・残念だが活動を知らない
- ・わからない (4)
- ・活動内容まではわからない
- ・所詮は名ばかりだと思う
- ・全体的には不明

問5 あなたは、民生委員・児童委員の制度を知っていますか。〈単数回答〉

「聞いたことはある」が54.4%を占めています。「よく知っている」が24.2%、「知らない」が13.9%が続いています。



前回調査の結果と比較すると、「聞いたことはある」が4ポイント増加しています。

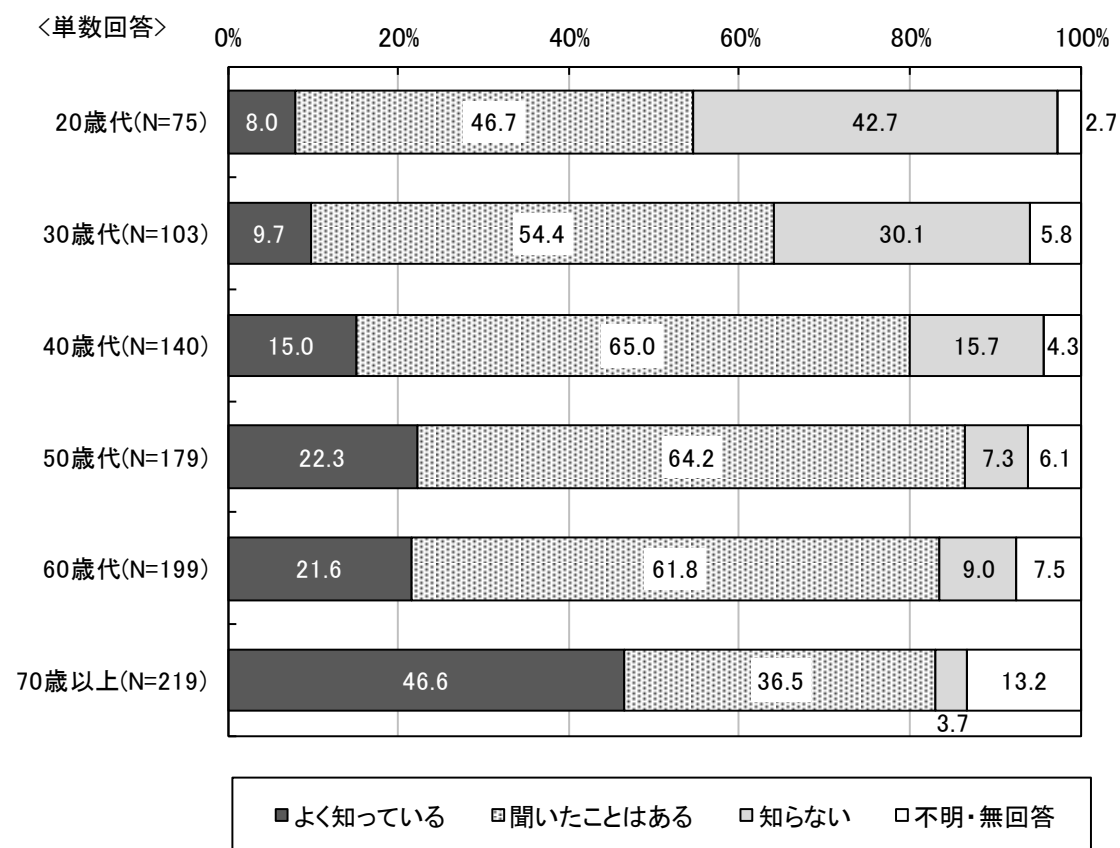


【クロス集計】

問5 あなたは、民生委員・児童委員の制度を知っていますか。

○ あなたの年齢は、何歳ですか。

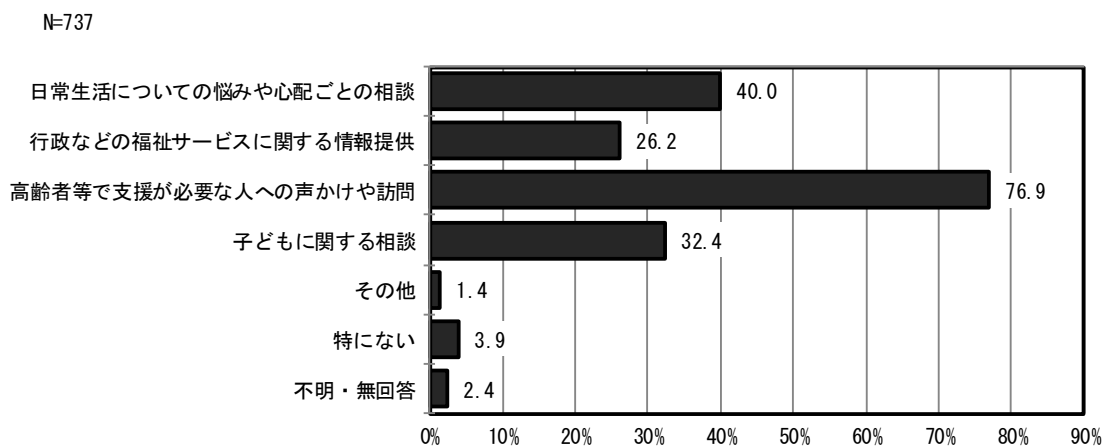
年齢別にみると、若年層では「知らない」と答えた人の割合がおよそ3～4割と高くなっています。



(問5で「1.よく知っている」、「2.聞いたことはある」に答えられた方)

問5-1 あなたが知っている地域福祉に関する民生委員・児童委員の活動はどれですか。〈複数回答〉

「高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問」が76.9%で突出しています。

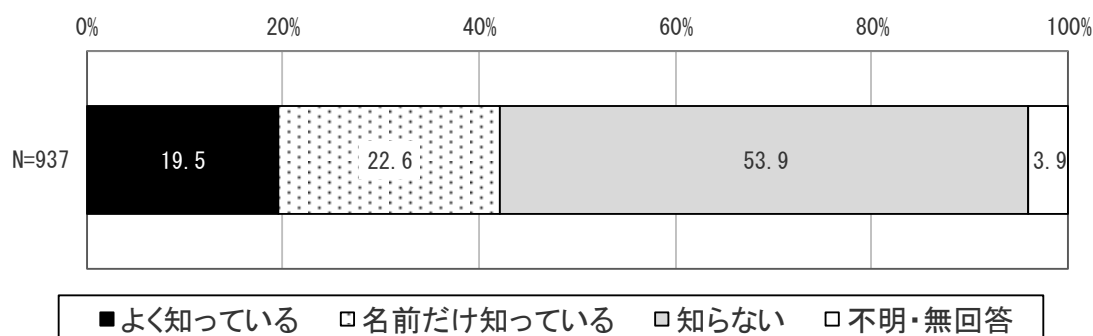


その他回答

- ・わからない (3)
- ・聞いたことがある程度
- ・生活保護の相談
- ・子ども見守り
- ・あまり活動されているとは思えない
- ・地域活動のお世話
- ・地域の行事参加
- ・知らない

問6 あなたは、お住まいの地区を担当する民生委員・児童委員を知っていますか。〈単数回答〉

「知らない」が53.9%を占めています。「名前だけ知っている」が22.6%、「よく知っている」が19.5%で続いています。

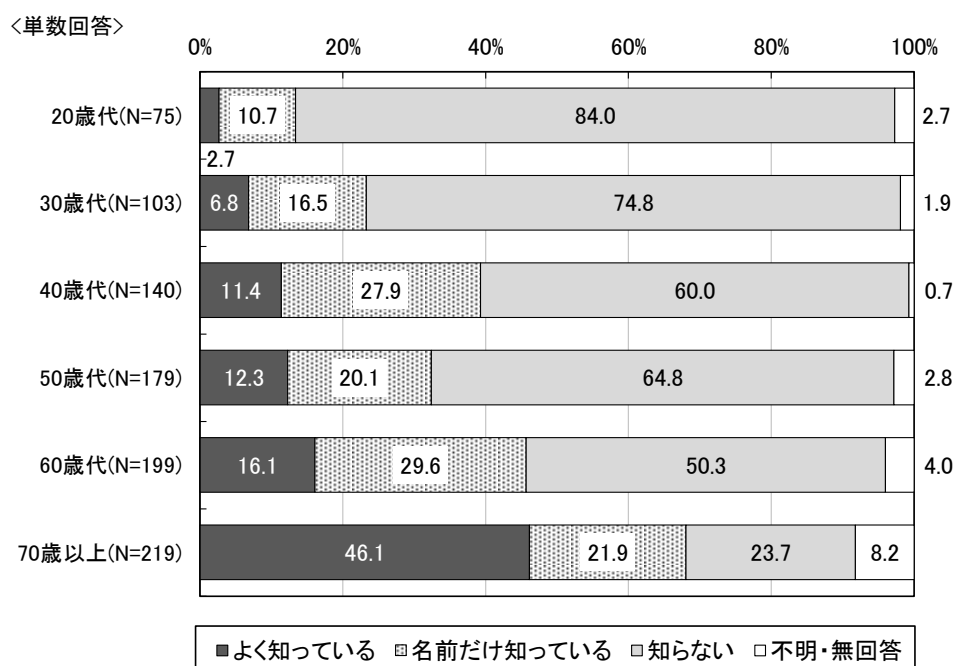


【クロス集計】

問6 あなたは、お住まいの地区を担当する民生委員・児童委員を知っていますか。

○ あなたの年齢は、何歳ですか。

年齢が上がるほど「よく知っている」の割合が高くなる傾向がみられます。特に70歳以上では46.1%と他と比較して高くなっています。



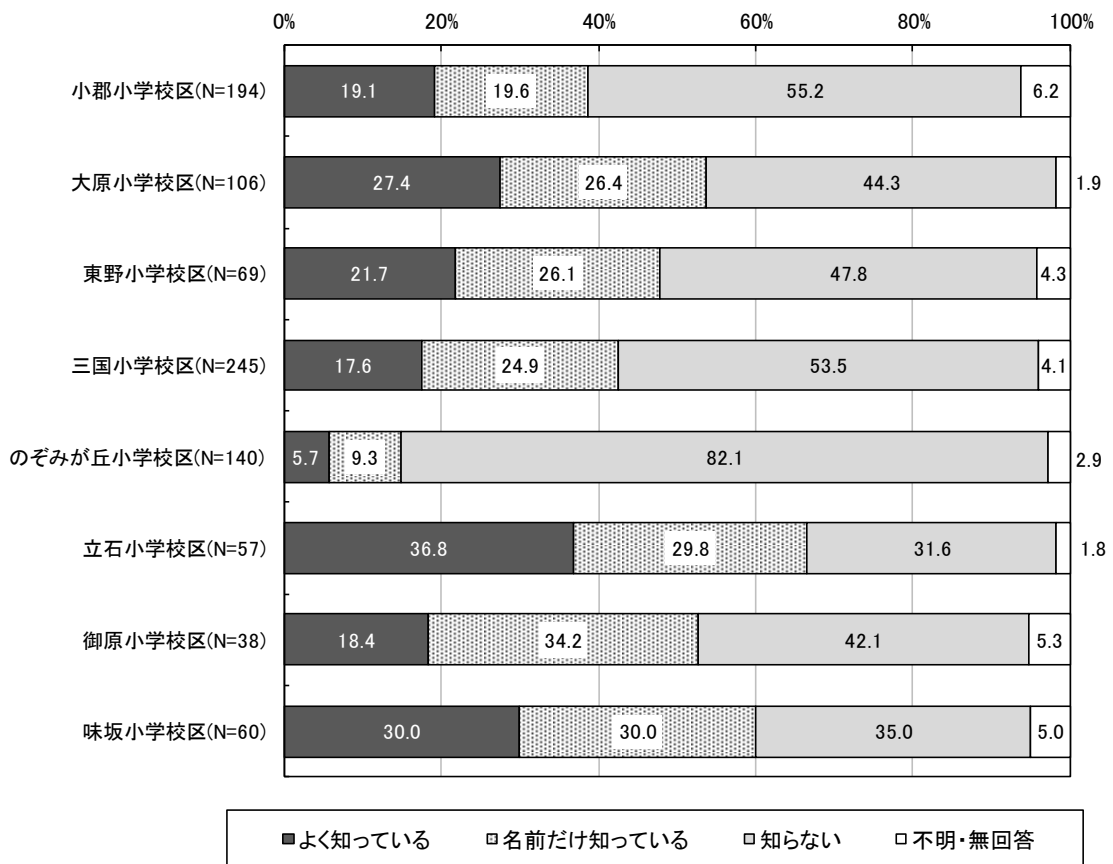
【クロス集計】

問6 あなたは、お住まいの地区を担当する民生委員・児童委員を知っていますか。

○ あなたが住んでいる小学校区はどちらですか。

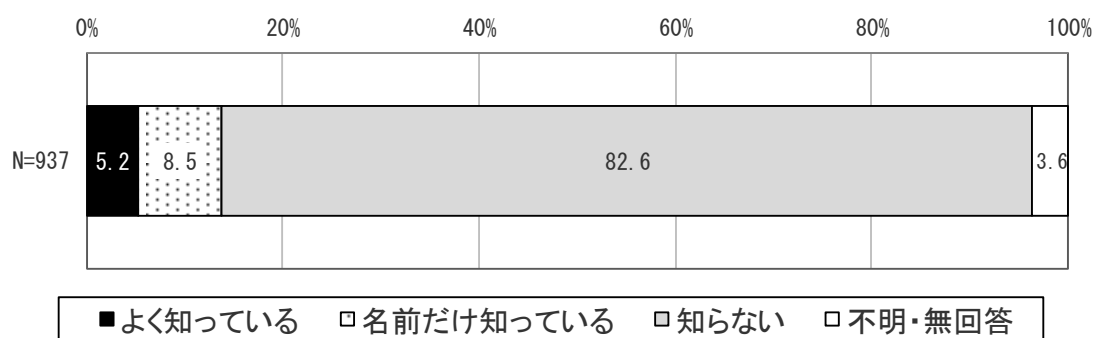
小学校区別にみると、立石小学校区で「よく知っている」の割合が最も高く 36.8%となっています。一方のぞみが丘小学校区では最も低く 5.7%となっています。

<単数回答>



問7 あなたは、お住まいの校区を担当する主任児童委員を知っていますか。〈単数回答〉

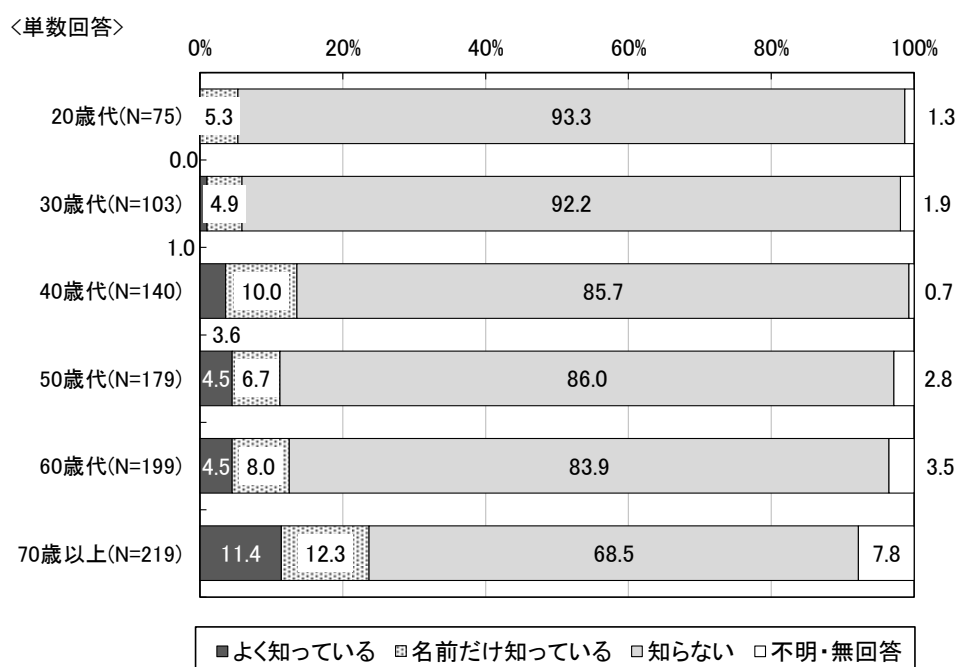
「知らない」が82.6%で突出しています。



【クロス集計】

問7 あなたは、お住まいの校区を担当する主任児童委員を知っていますか。
○ あなたの年齢は、何歳ですか。

年齢が上がるほど「よく知っている」の割合が高くなる傾向がみられます。また、70歳以上では「よく知っている」の割合が他と比較してやや高くなっています。

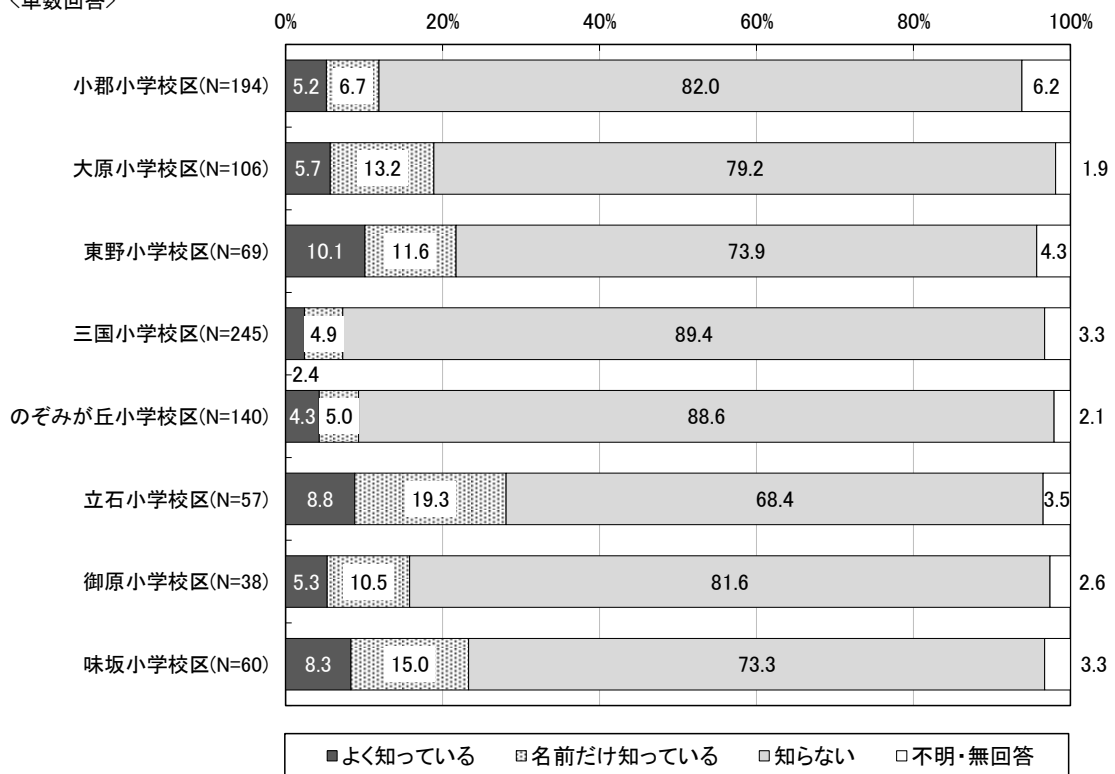


【クロス集計】

問7 あなたは、お住まいの校区を担当する主任児童委員を知っていますか。
 ○ あなたが住んでいる小学校区はどちらですか。

いずれの小学校区においても「知らない」が最も高くなっています。一方、東野小学校区、立石小学校区、味坂小学校区では「よく知っている」の割合が他の小学校区と比較してやや高くなっています。

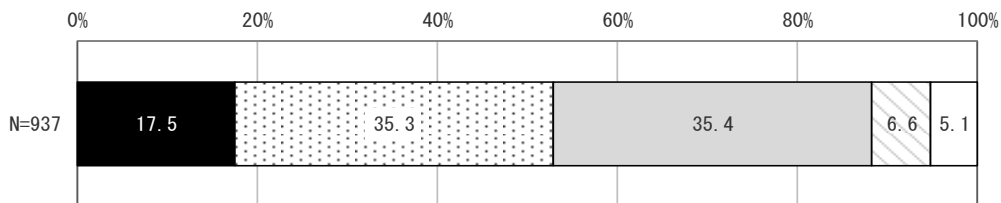
<単数回答>



4. 地域での生活について

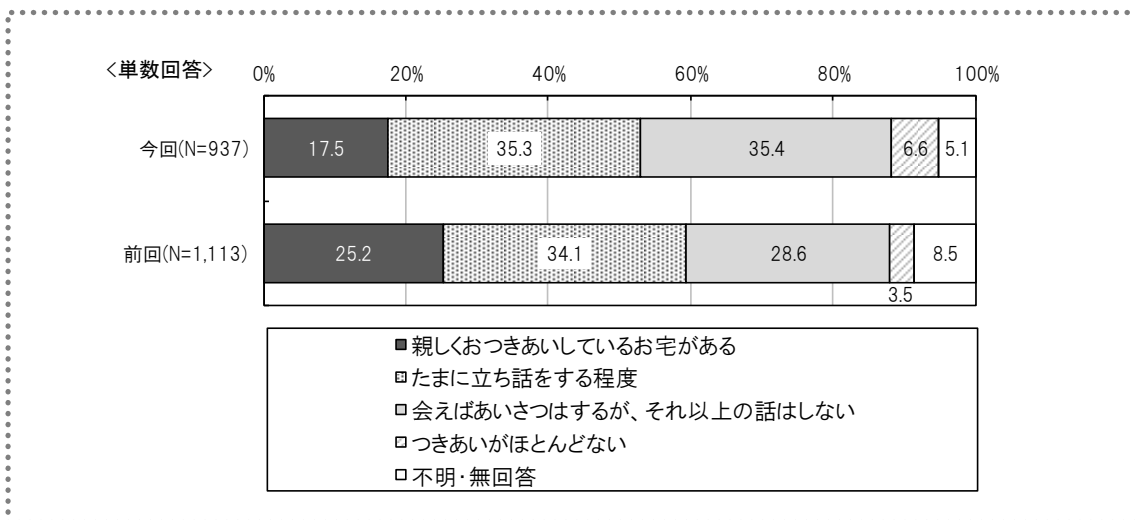
問8 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。〈単数回答〉

「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」が35.4%で最も高くなっています。次いで「たまに立ち話をする程度」が35.3%、「困っているとき（病気、悩み、事故など）に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある」が17.5%で続いています。



- 困っているとき（病気、悩み、事故など）に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある
- たまに立ち話をする程度
- 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない
- つきあいがほとんどない
- 不明・無回答

前回調査の結果と比較すると、「親しくおつきあいしているお宅がある」の割合が減少しているなど、若干近所づきあいの程度が前回より低くなっています。

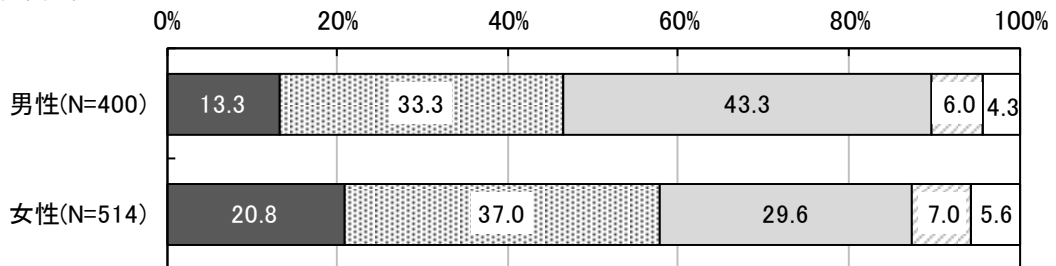


【クロス集計】

問8 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。
 ○ あなたの性別は？

性別にみると、女性では「たまに立ち話をする程度」が最も高い一方、男性では「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」が最も高く、男性の方が近所づきあいの程度が低くなっています。

＜単数回答＞



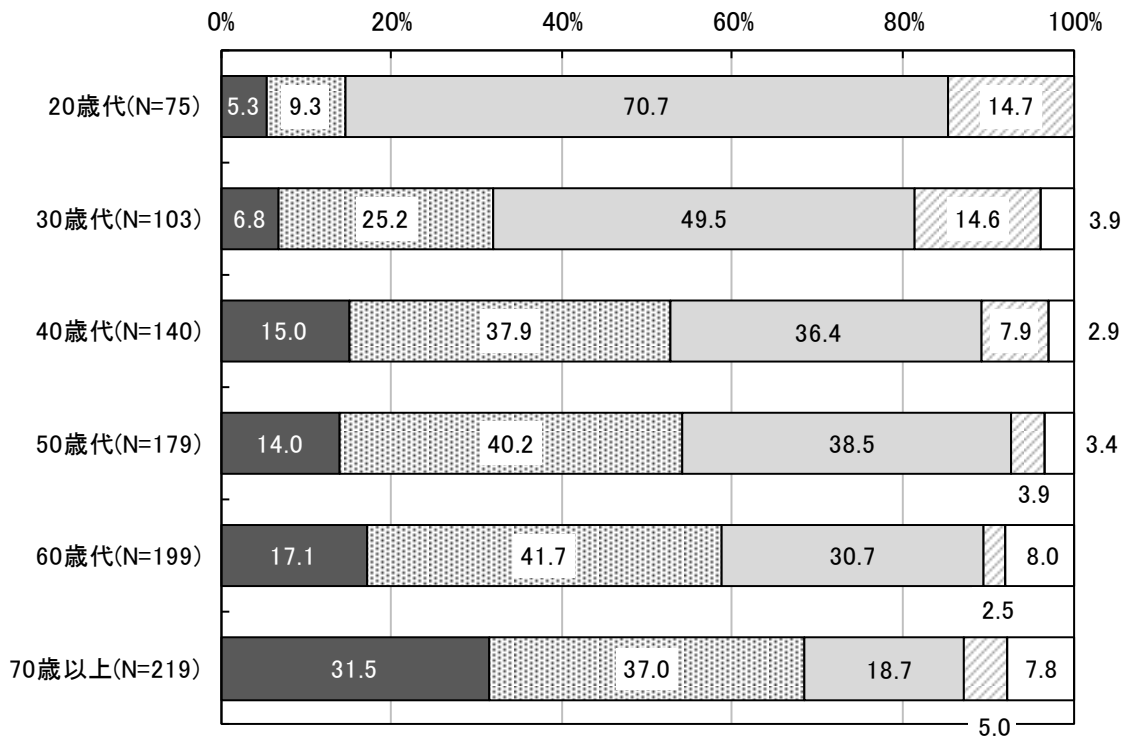
- 困っているとき(病気、悩み、事故など)に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある
- たまに立ち話をする程度
- 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない
- つきあいがほとんどない
- 不明・無回答

【クロス集計】

問8 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。
 ○ あなたの年齢は、何歳ですか。

年齢別にみると、年齢が若くなるにつれ、近所づきあいの程度が低くなっており、20歳代では「たまに立ち話をする程度」が70.7%となっています。

<単数回答>



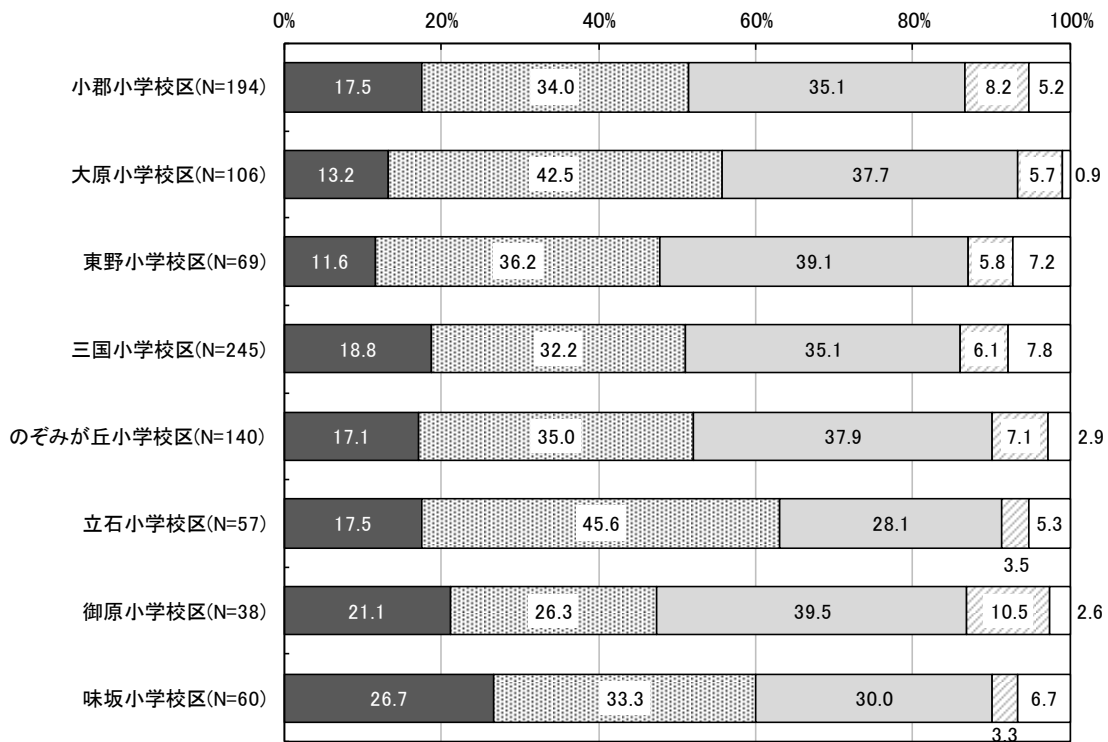
- 困っているとき(病気、悩み、事故など)に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある
- たまに立ち話をする程度
- 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない
- つきあいがほとんどない
- 不明・無回答

【クロス集計】

問8 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。
 ○ あなたが住んでいる小学校区はどちらですか。

居住地区別にみると、「大原小学校区」「立石小学校区」「味坂小学校区」で比較的近所づきあいの程度が高くなっています。

<単数回答>



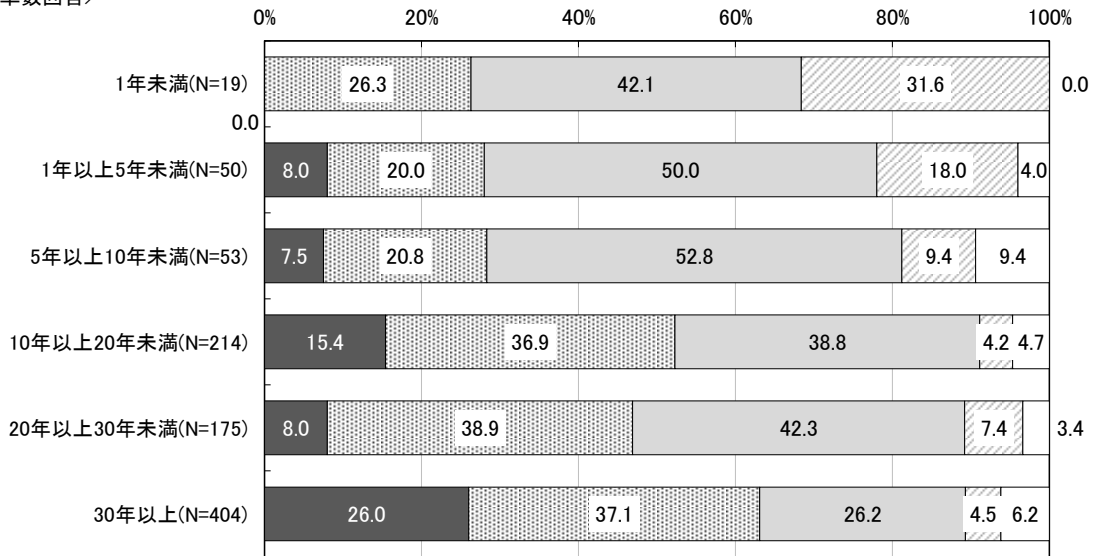
- 困っているときに、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある
- たまに立ち話をする程度
- 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない
- つきあいがほとんどない
- 不明・無回答

【クロス集計】

問8 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。
 ○ あなたは小郡市に住んで何年になりますか。

居住年数が30年以上では「困っているとき（病気、悩み、事故など）に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある」の割合が他と比較して高くなっています。

<単数回答>



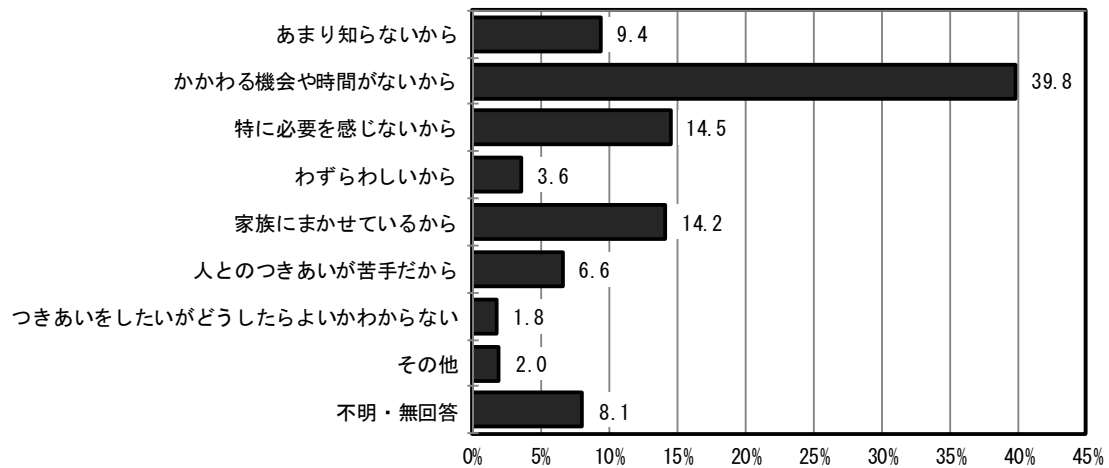
- 困っているとき（病気、悩み、事故など）に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある
- たまに立ち話をする程度
- 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない
- つきあいがほとんどない
- 不明・無回答

(問8で、③、④に答えられた方)

問8-1 つきあいがほとんどないのはなぜですか。〈単数回答〉

「かかわる機会や時間がないから」が39.8%で最も高くなっています。次いで「特に必要を感じないから」が14.5%、「家族にまかせているから」が14.2%が続いています。

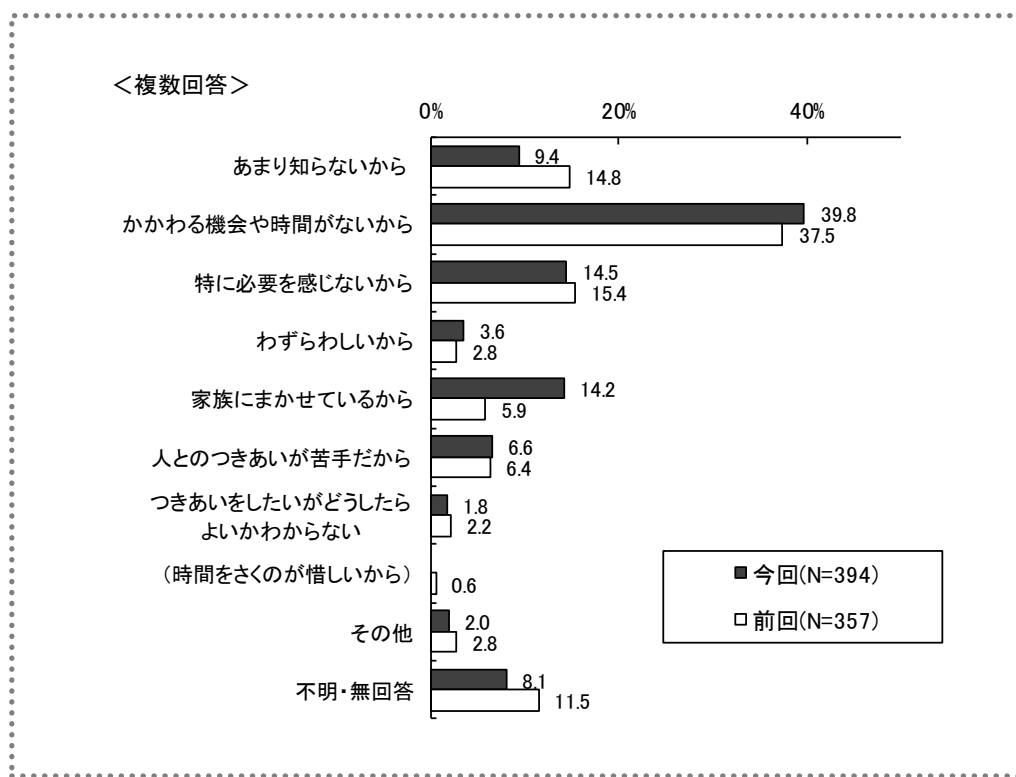
N=394



その他回答

- ・近所の人たちと顔をあわせる機会が少ない為
- ・仕事、家事で忙しいから
- ・引越したばかりだから
- ・家にあまりいない為
- ・仕事をしている関係
- ・全然知らないから
- ・単身赴任中の為
- ・施設入所

前回調査結果と比較すると、「あまり知らないから」がおよそ5ポイント減少し、「家族にまかせているから」がおよそ8ポイント増加しています。



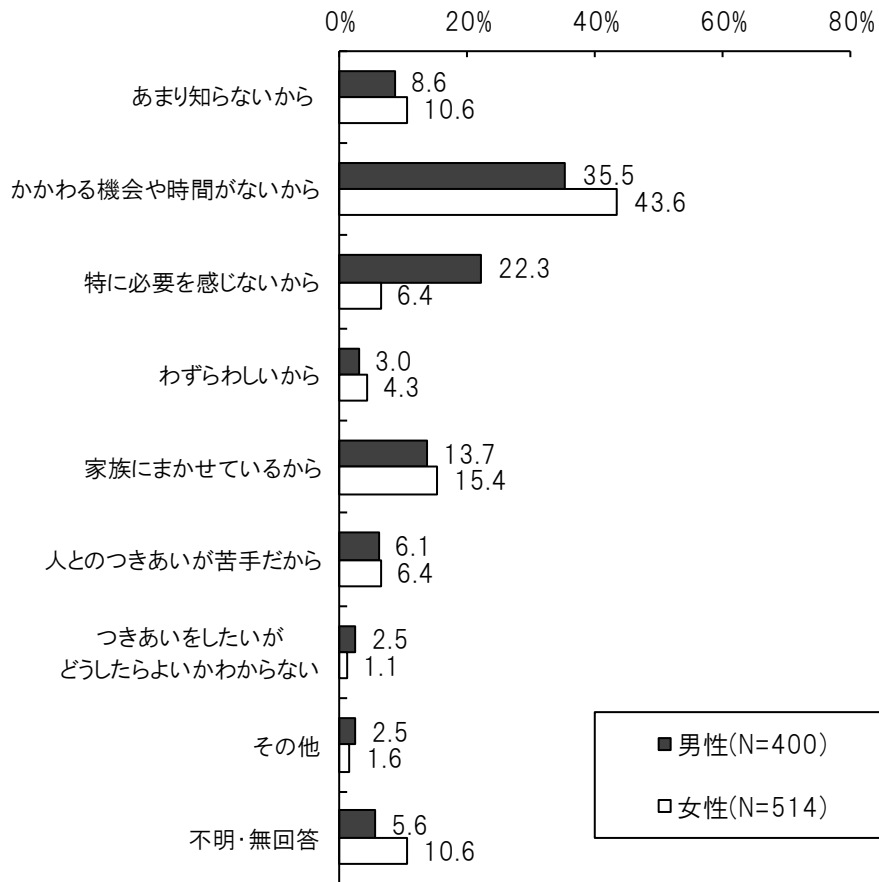
【クロス集計】

問8-1 つきあいがほとんどないのはなぜですか。

○ あなたの性別は？

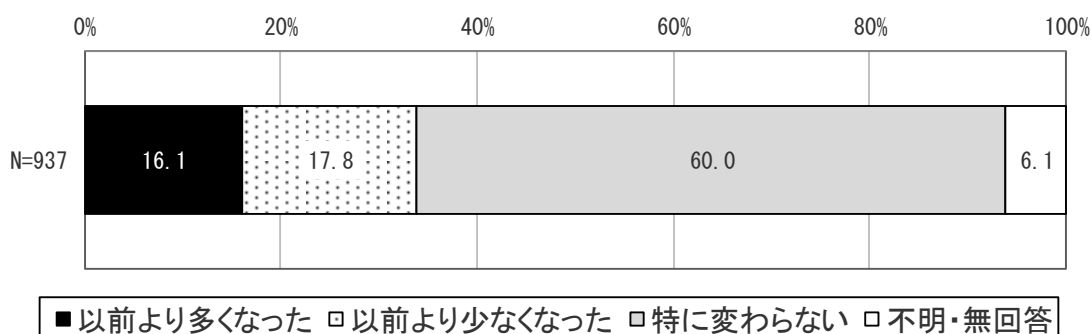
性別にみると、男女ともに「かかわる機会や時間がないから」が最も高くなっています。また、「特に必要を感じないから」では男性の方が15ポイント以上高くなっています。

<単数回答>



問9 あなたは日々の暮らしのなかで、地域の人と会話をしたり、子どもに声をかけたりすることが多くなったと思いますか。〈単数回答〉

「特に変わらない」が60.0%を占めています。「以前より少なくなった」が17.8%、「以前より多くなった」が16.1%で続いています。

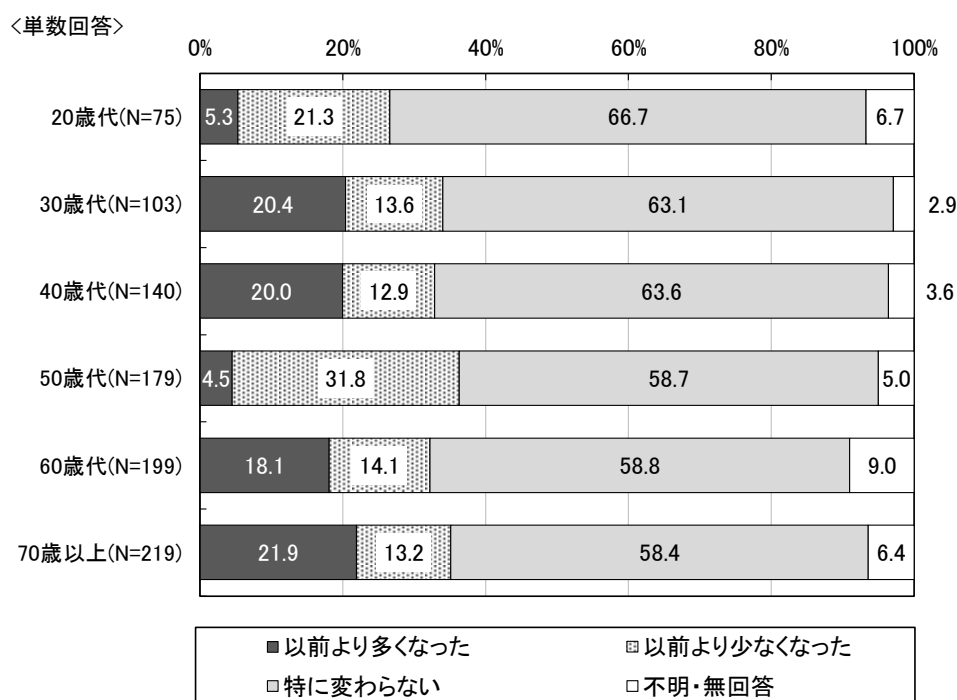


【クロス集計】

問9 あなたは日々の暮らしのなかで、地域の人と会話をしたり、子どもに声をかけたりすることが多くなったと思いますか。

○ あなたの年齢は、何歳ですか。

20歳代、50歳代では「以前より少なくなった」の割合が他の年齢と比較して高くなっています。

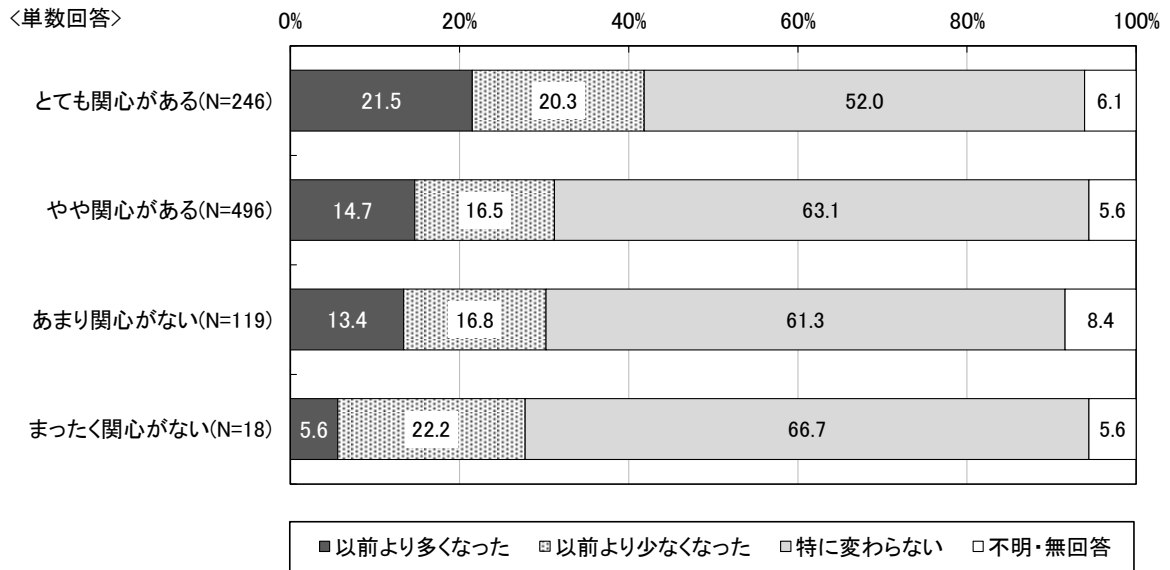


【クロス集計】

問9 あなたは日々の暮らしのなかで、地域の人と会話をしたり、子どもに声をかけたりすることが多くなったと思いますか。

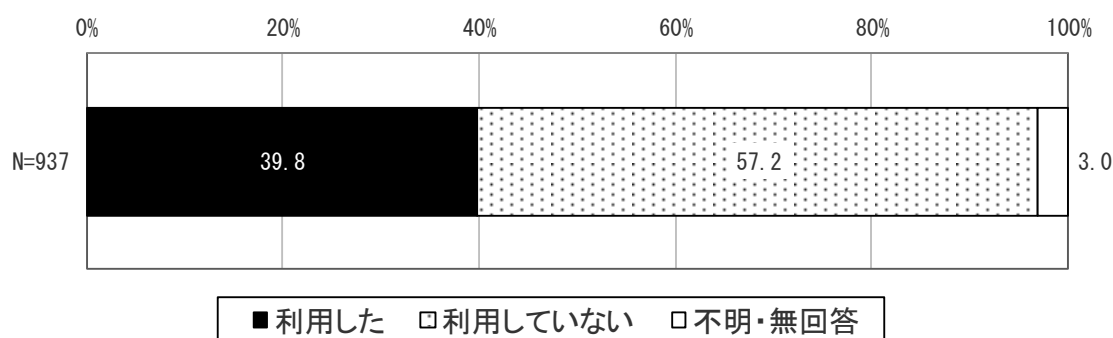
問1 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。

福祉に対する関心度が高いほど「以前より多くなった」の割合が高くなる傾向が見られます。



問10 この1年間に自分の住む地区の集会所や公民館を利用しましたか。〈単数回答〉

「利用していない」が57.2%を占めています。「利用した」が39.8%が続いています。



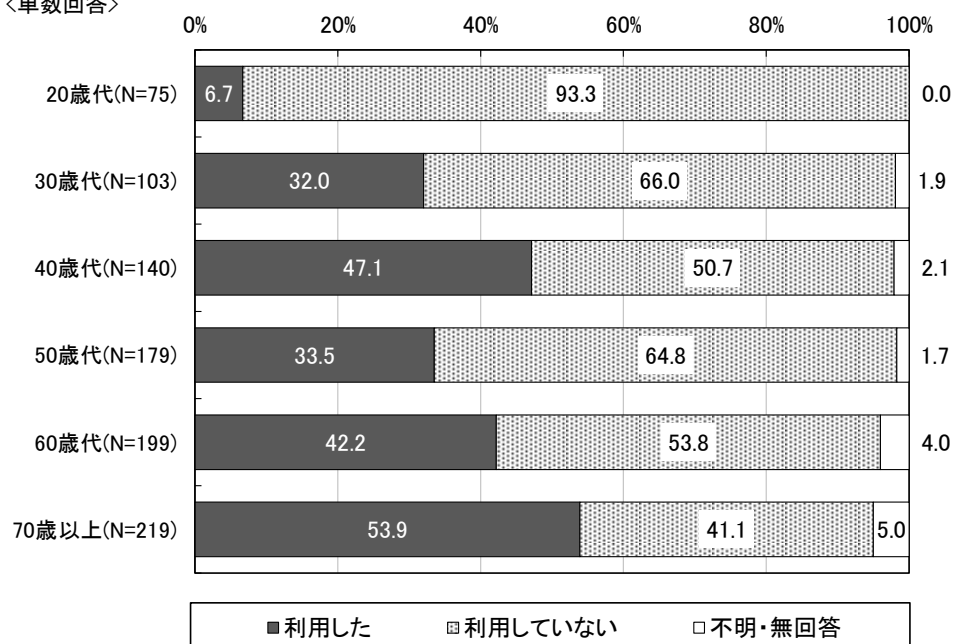
【クロス集計】

問10 この1年間に自分の住む地区の集会所や公民館を利用しましたか。

○ あなたの年齢は、何歳ですか。

40歳代、70歳以上では「利用した」の割合が他の年齢と比較して高くなっています。一方、20歳代では「利用した」の割合が1割弱と他の年齢と比較して低くなっています。

〈単数回答〉

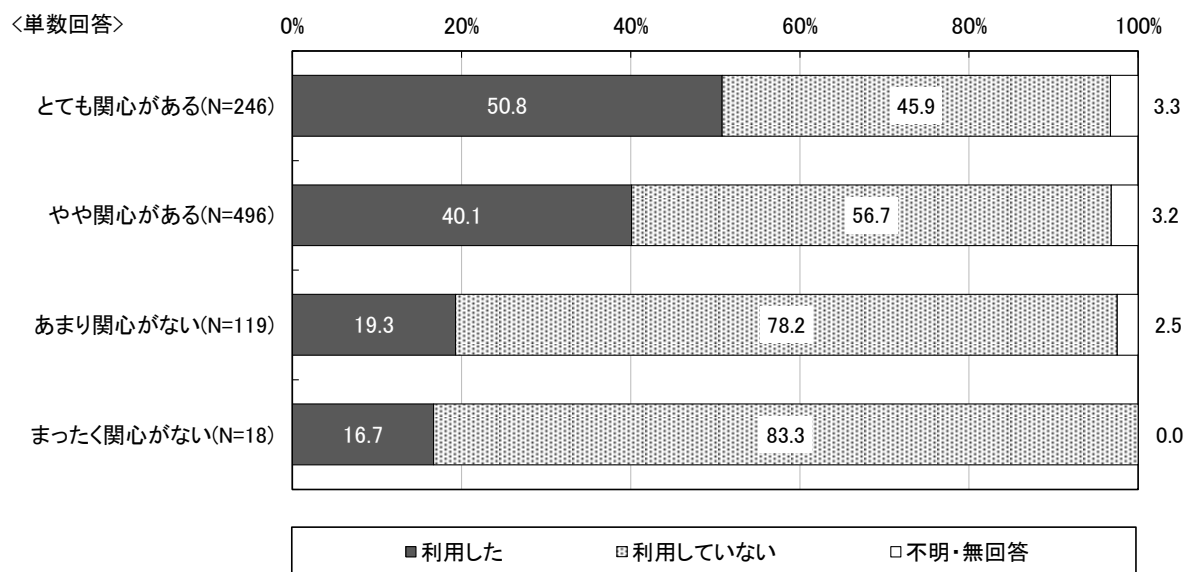


【クロス集計】

問10 この1年間に自分の住む地区の集会所や公民館を利用しましたか。

問1 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。

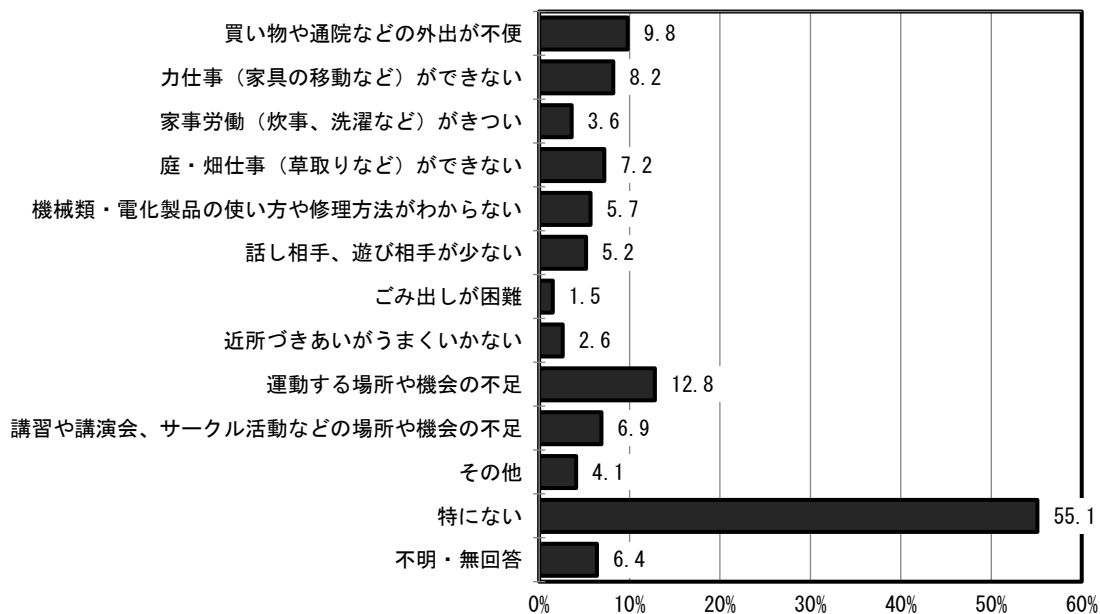
福祉に対する関心度が高いほど「利用した」の割合が高くなる傾向が見られます。



問11 毎日の暮らしのなかでの困りごとはどのようなことですか。〈複数回答〉

「特にない」が55.1%を占めています。「運動する場所や機会の不足」が12.8%、「買い物や通院などの外出が不便」が9.8%で続いています。

N=937

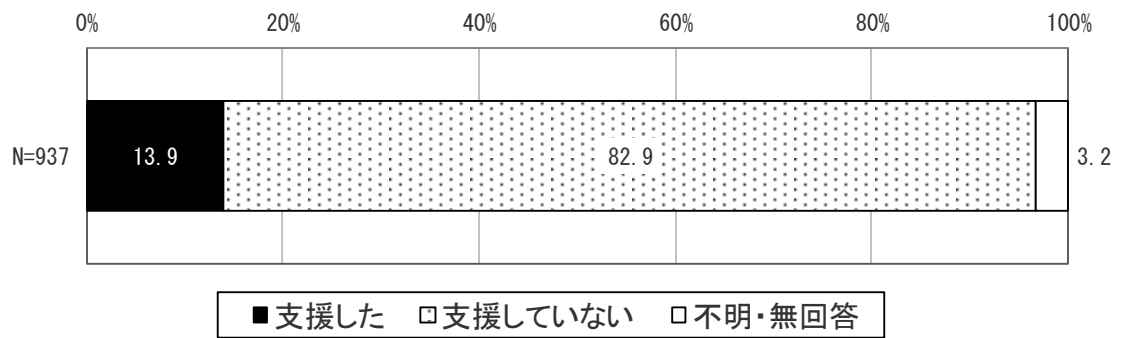


その他回答

- ・空き缶の回収場所が分かり辛いし遠い。仕方がないことかもしれないが、人の悪口や嘘のうわさ、わがままを言う人がいる。市役所の開庁時間が短い。例えば久留米市は週に1回、夕方の開庁時間を延長されている。平日働いている人には助かる制度だと思う
- ・公民館の老朽化。子どもたちが遊べる遊具が汚いし壊れている。イベントを増やしてほしい。もっと若い人たちが楽しめる施設もほしい
- ・小郡で最新、先進的な学びの機会が少ない。特に働く女性向けや、子育てとの両立について女性起業等
- ・現在でも型はあると思うが深さが無い。本市の特徴である。まず庁舎内で範を示してほしい
- ・街灯が少ないので、夜歩くのが怖い（七夕通りからあすてらすの間）
- ・年金を上げてほしい。参議院を廃して国会議員を激減させてほしい
- ・自分はないが高齢の父母は、買物や通院、力仕事ができない
- ・家の維持管理に関するそれぞれの専門業者がわからない
- ・自宅の裏の家族が、庭を放置しているのに困っている
- ・片付けが困難、親の代の荷物（膨大）の処理など
- ・今は自転車に乗っているので買物はできる
- ・考えが田舎独特、隣組なんてナンセンス
- ・小学校の出事や役員の仕事がとても大変
- ・猫の放し飼い、庭や道路でのボール遊び
- ・仕事と子育ての両立（一人親家庭）
- ・障がいの子がいるので働けない
- ・入院している妻の今後のこと
- ・カーブミラーを設けてほしい
- ・野良猫の糞、カラスの侵入
- ・飲食店が少ないと感じる
- ・雪の日車を出せない
- ・マナーがなってない
- ・今満足している
- ・用水路の掃除
- ・病気がある
- ・知的障がい者が運動できる場所がない
- ・コミュニティバスの利便性が悪い
- ・1～10 全てできていると思う
- ・今のところ自分でできている
- ・近くにスーパー等が全くない
- ・皮膚科、小児科が足りない
- ・野良猫が多くて可哀そう
- ・時間が不足。忙しい
- ・最寄り駅まで遠い
- ・交通の便が悪い
- ・街灯が暗い
- ・店が少ない

問12 この1年間に近所の困っている方に生活のちょっとした支援(ごみ出しを手伝うなど)をしましたか。〈単数回答〉

「支援していない」が82.9%で突出しています。



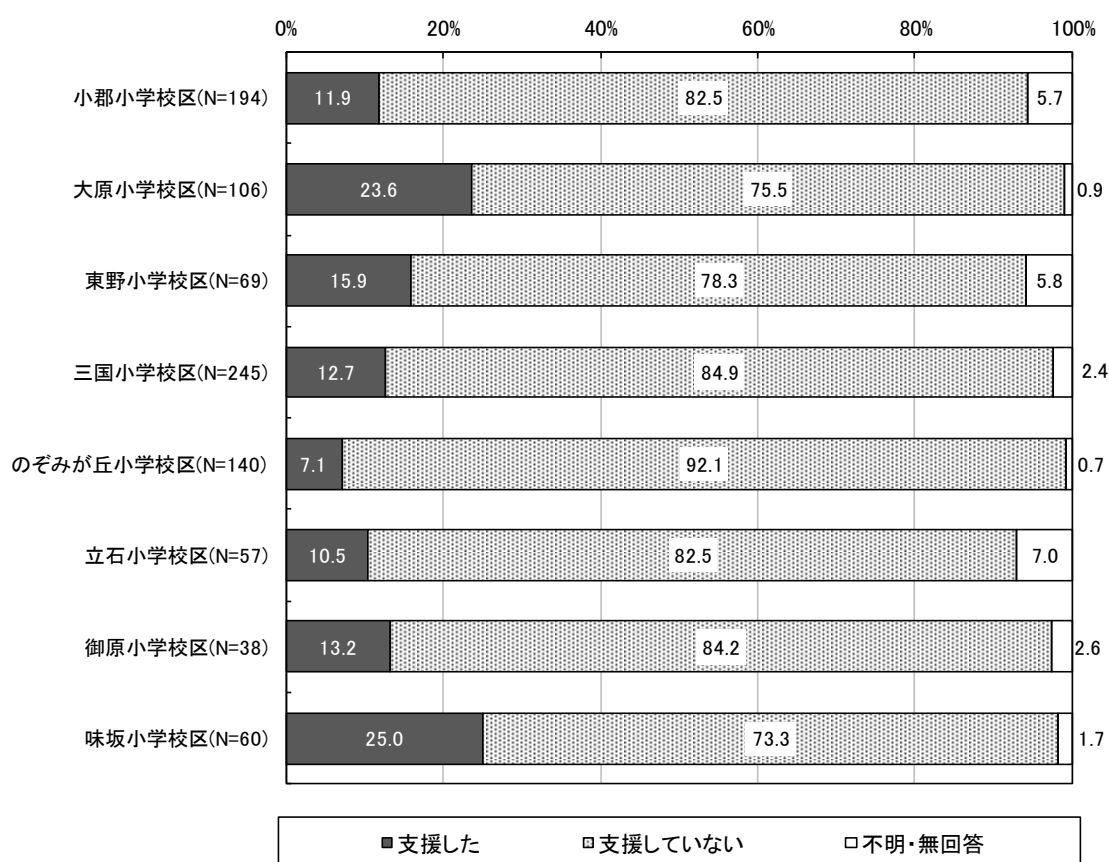
【クロス集計】

問12 この1年間に近所の困っている方に生活のちょっとした支援(ごみ出しを手伝うなど)をしましたか。

○ あなたが住んでいる小学校区はどちらですか。

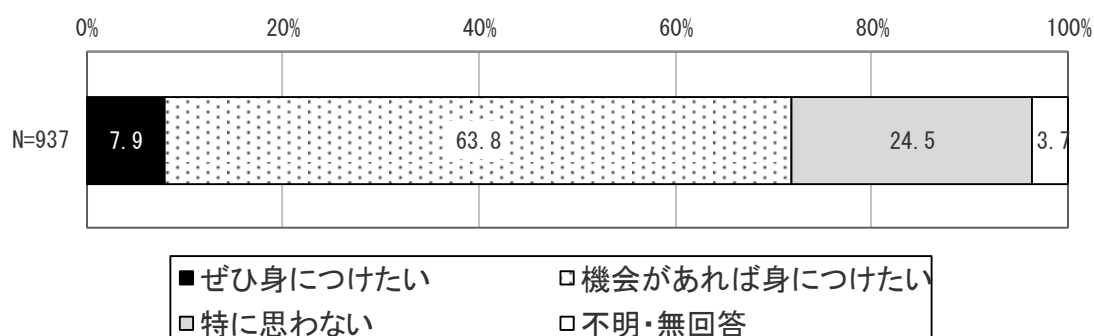
居住地区別にみると、「大原小学校区」「味坂小学校区」でこの1年間に支援をしたと回答した人の割合が高く、「のぞみが丘小学校区」では低くなっています。

<単数回答>



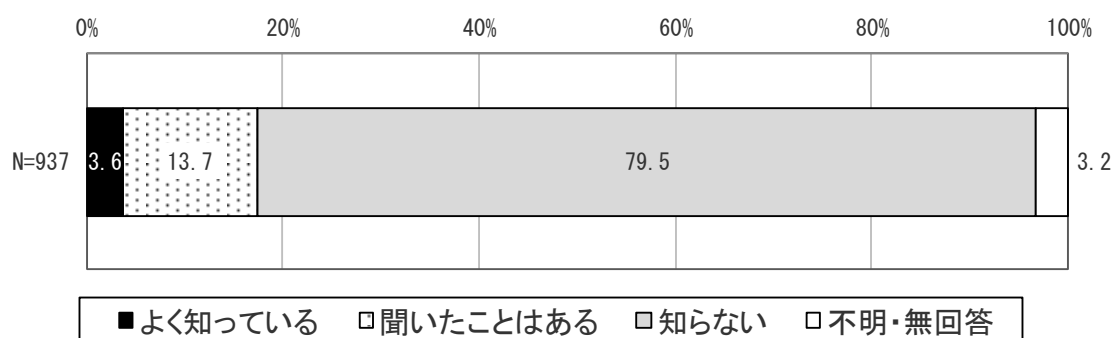
問13 障がいのある人や認知症の人、妊娠している人などへの声のかけ方、手助けの仕方など、いざという時の知識や技術を身につけたいと思いますか。
 〈単数回答〉

「機会があれば身につけたい」が63.8%を占めています。「特に思わない」が24.5%、「ぜひ身につけたい」が7.9%で続いています。



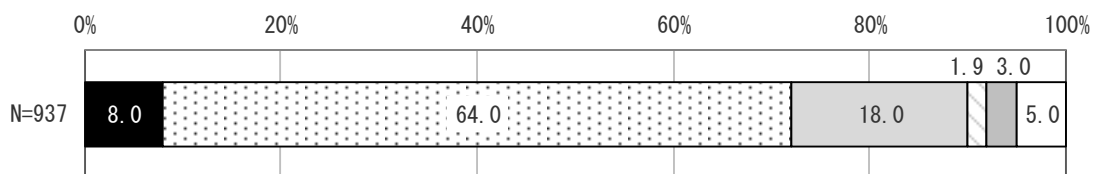
問14 必要な支援を受けることができず、地域から孤立し、生活上の諸課題を抱えている人たちが、あなたが暮らす地域にいるかどうかを知っていますか。
 〈単数回答〉

「知らない」が79.5%で突出しています。



問15 日々の暮らしのなかで困りごとを抱える人たちから助けの求めがあった時、あなた自身はどう対応したいと思いますか。〈単数回答〉

「できるだけ対応したい」が64.0%を占めています。「対応したいができれば避けたい」が18.0%、「積極的に対応したい」が8.0%が続いています。



■ 積極的に対応したい	□ できるだけ対応したい
□ 対応したいができれば避けたい	□ かかわりたくないのでもしない
□ その他	□ 不明・無回答

その他回答

- ・自分のことで精一杯（6）
- ・外国人のため、コミュニケーションが難しい
- ・家にあまりいないのでわからない
- ・トラブルにならない程度に
- ・そんな人はいない
- ・実績がない為不明
- ・対応する力がない
- ・その時次第
- ・できることは対応したい（2）
- ・介護が必要な状態のため対応できない
- ・自分が高齢なので何もできない
- ・中途半端な対応は無責任
- ・対応するのが困難
- ・自分の体力がない
- ・仕事で忙しい
- ・わからない

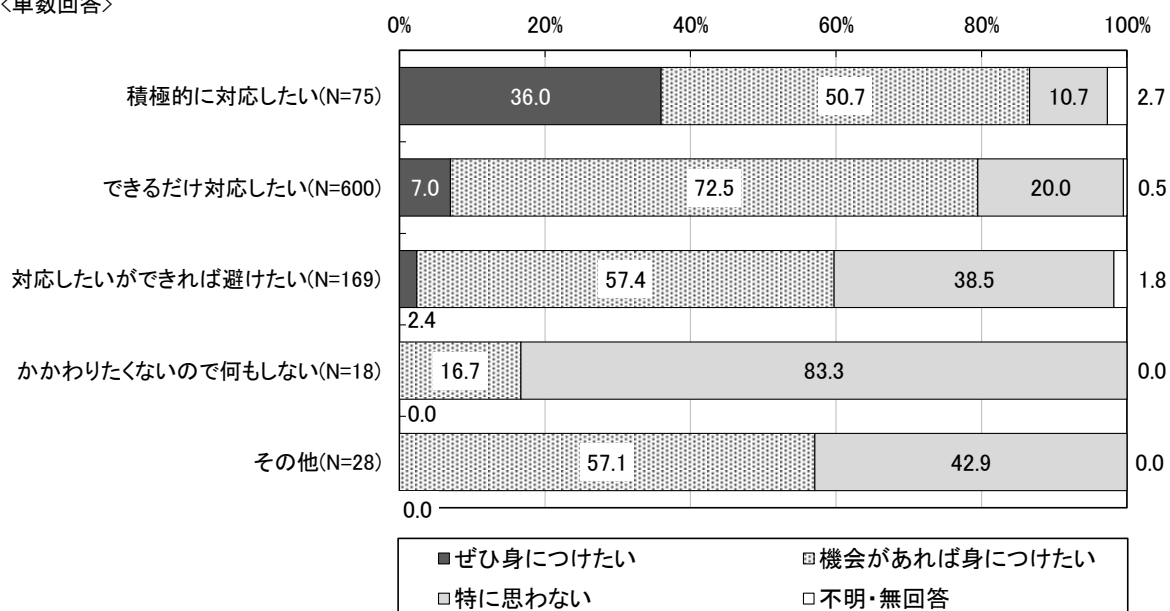
【クロス集計】

問15 日々の暮らしのなかで困りごとを抱える人たちから助けの求めがあった時、あなた自身はどう対応したいと思いますか。

問13 障がいのある人や認知症の人、妊娠している人などへの声のかけ方、手助けの仕方など、いざという時の知識や技術を身につけたいと思いますか。

積極的に対応したいと回答した人では「ぜひ身につけたい」の割合が他と比較して高く、「機会があれば身につけたい」をあわせるとおよそ9割の人が『身につけたい』と回答しています。一方、かかわりたくないのでもししないでは「特に思わない」の割合が83.3%とおよそ8割を占めています。

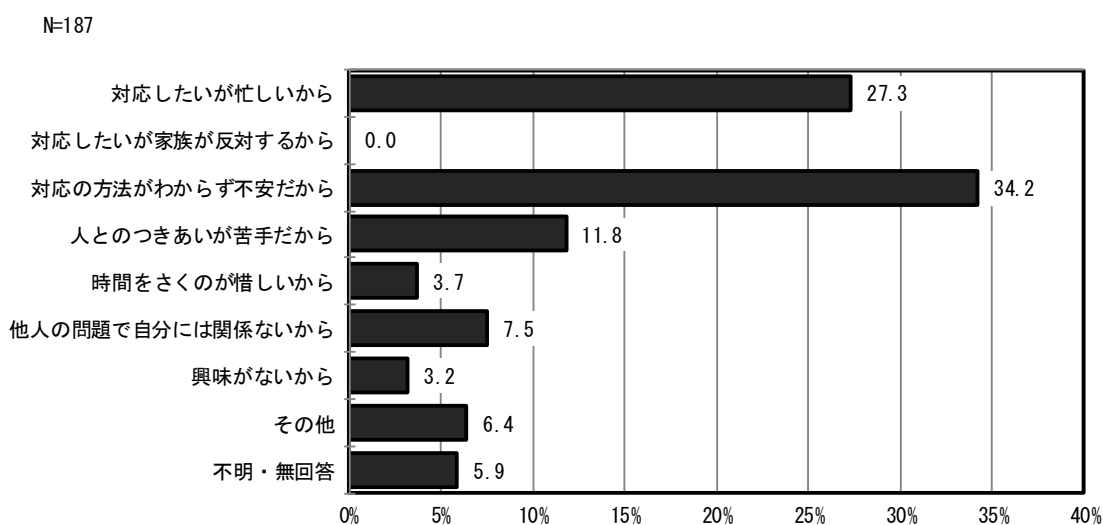
<単数回答>



(問15で③、④に答えられた方)

問15-1 そのように考えるのはどのような理由からですか。〈単数回答〉

「対応の方法がわからず不安だから」が34.2%で最も高くなっています。次いで「対応したいが忙しいから」が27.3%、「人とのつきあいが苦手だから」が11.8%が続いています。



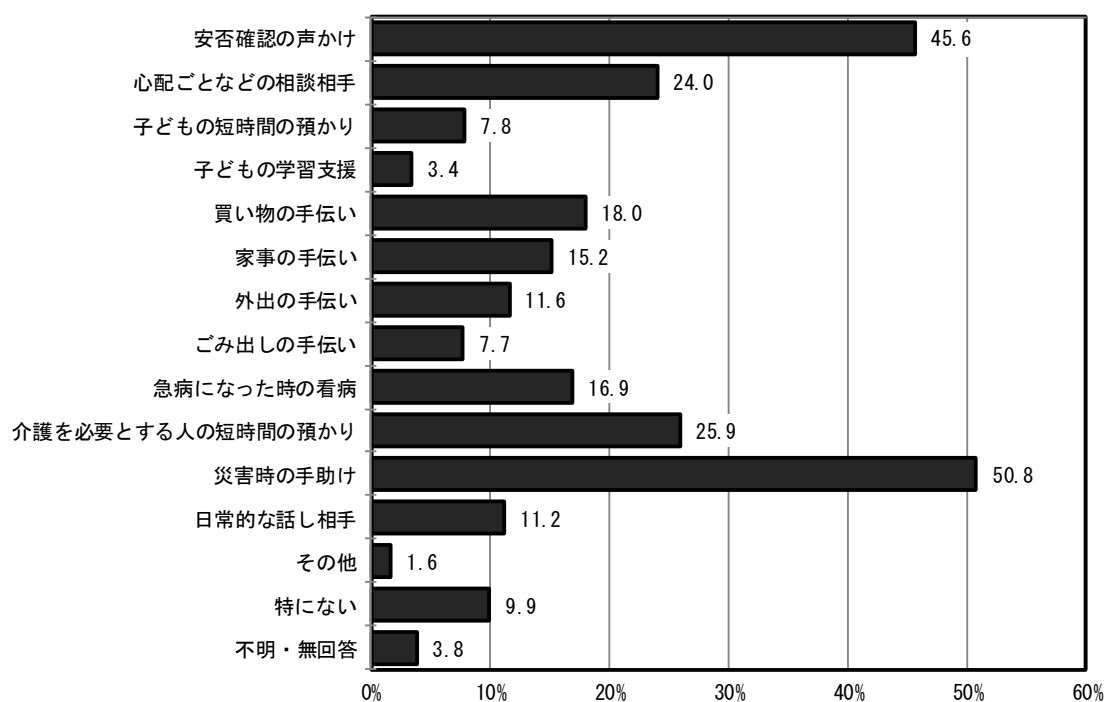
その他回答

- ・ 高齢でできないから (2)
- ・ 良かれと思って助けた結果、自身がトラブルに巻き込まれるのは嫌だから
- ・ 対応後ずっとよりかかれてもその先続けられるとは限らないから
- ・ 腰痛の為、自分が人の助けを借りずに生きるのがやっとなだから
- ・ 今後ずっと頼られても困るから。忙しいからというものもある
- ・ 何かトラブルがあった時に責任を取れない為
- ・ 対応が悪いと逆ぎれされそうだから
- ・ 半身麻痺で体が不自由
- ・ 仕事
- ・ 地域中心でやることだと思う
- ・ 子育て中だから

問16 あなたやご家族に助けが必要になった時、どのような支援をしてほしいと思いますか。〈複数回答〉

「災害時の手助け」が 50.8%を占めています。「安否確認の声かけ」が 45.6%、「介護を必要とする人の短時間の預かり」が 25.9%で続いています。

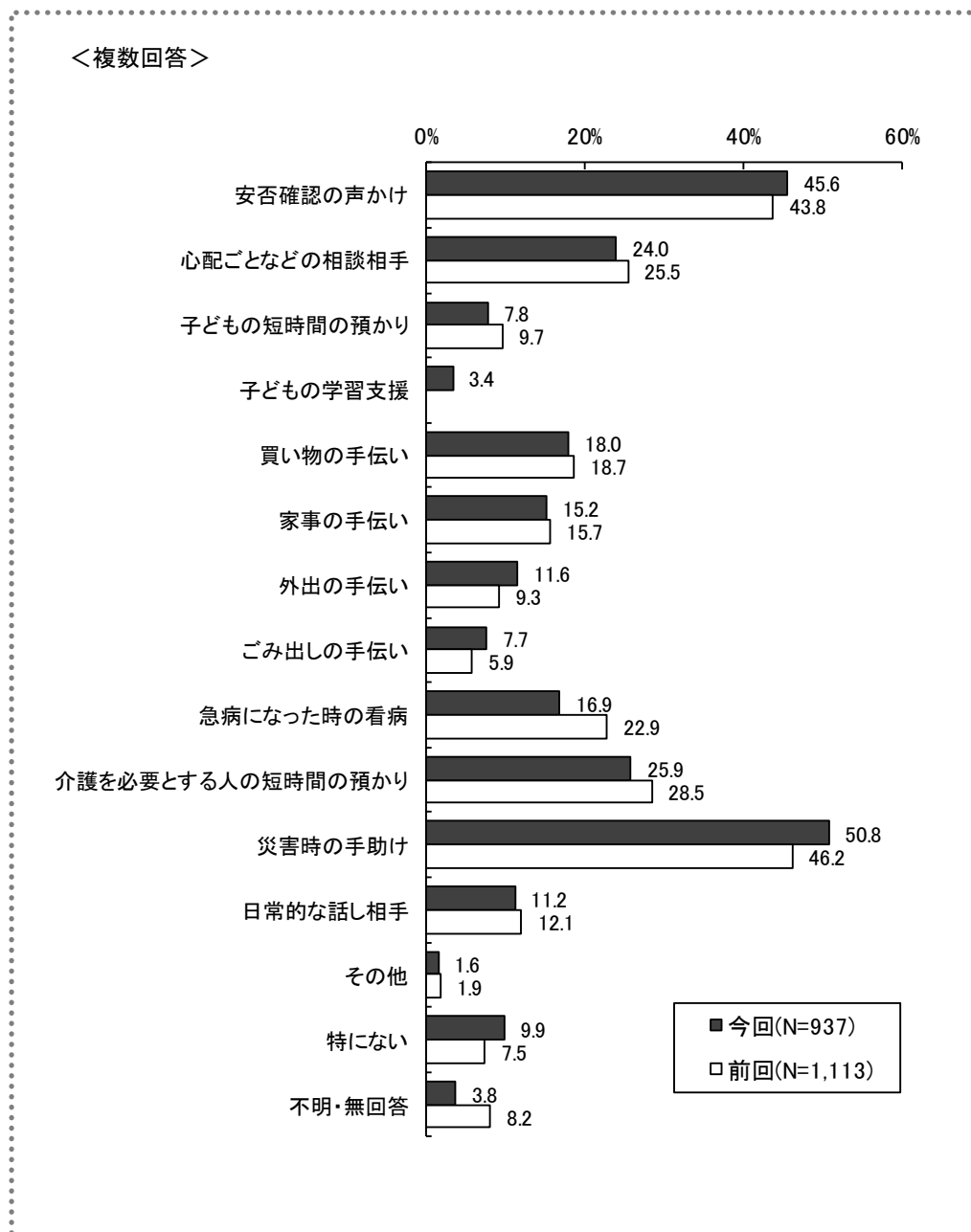
N=937



その他回答

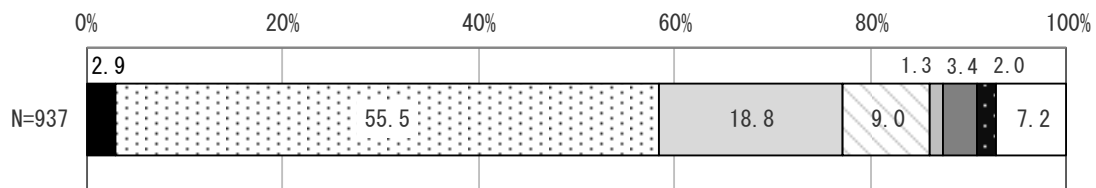
- ・その時にならないとわからない (5)
- ・よくわからない (3)
- ・一週間程度、または短期的に必要な時に入院可能なシステムをつかってほしい
- ・経済的な相談、働ける場所を探してもらおう等
- ・質問の意味と答えが合っていない
- ・自分に必要な情報の提供
- ・各種制度の説明
- ・金銭的支援
- ・現在

前回調査結果と比較すると、「急病になった時の看病」が6ポイント減少し、「災害時の手助け」がおよそ5ポイント増加しています。



問17 地域での人と人のかかわりについて、あなたのお考えに近いものをお選びください。〈単数回答〉

「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」が55.5%を占めています。「地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい」が18.8%、「他人の協力は期待していない(自分のことは自分です)」が9.0%で続いています。



- 心から打ち解け合える関係を築きたい
- 隣近所の人とはつきあいを大切にしたい
- 地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい
- 他人の協力は期待していない(自分のことは自分です)
- 地域の人や隣近所の人とはかかわりを持ちたくない
- 興味がない
- その他
- 不明・無回答

その他回答

- ・陰湿な女性の世界や、他の地域から来た人を排除したいと考えている人のことを心底馬鹿らしいと思うし、そういう人たちとは関りをもたたくない
- ・3に近いかもしれないが、みんなで協力していくことは難しいだろうと考えている。一部の人とならできるだろうと思う
- ・親しくするにも限界があり、それよりも顔を知りコミュニケーションが必要
- ・付き合いは苦手でも困っている人がいれば時間さえあれば助けたい!
- ・付き合いは大切にしたいが、あまり深くは立ち入りたくない
- ・思想がそれぞれなので必要とする人で付き合いをすればいい
- ・現在のところ、職場にいる時間が長くあまり付き合いがない
- ・必要性はあると思うが、現実的には様々な問題があると思う
- ・できうる限りでみなさんと協力しあえたらいいなと考える
- ・適度なお付き合いができれば良いと思う
- ・その時にならないとわからない
- ・ほどよい距離で付き合いたい
- ・程々に付き合いたい
- ・日常的な付き合い(あいさつ等)
- ・お互い無理のない良好な関係
- ・現状時間的に難しい
- ・必要に応じて行う

【クロス集計】

問17 地域での人と人とのかかわりについて、あなたのお考えに近いものをお選びください。

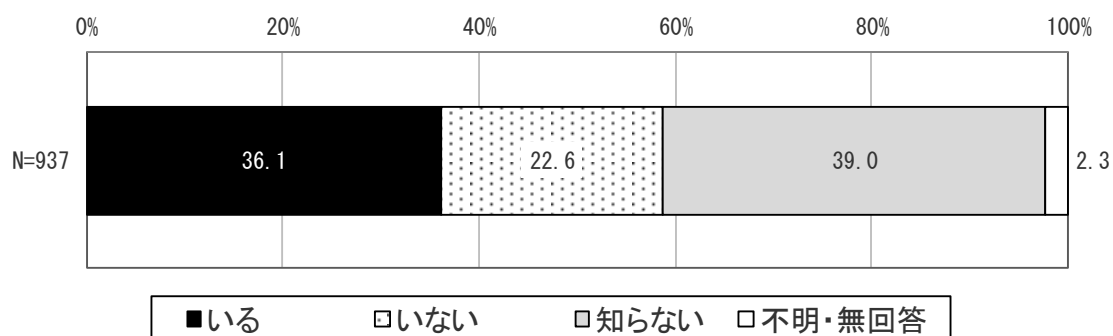
問8 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。

近所づきあいの程度別にみると、いずれの程度においても「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」が最も高くなっています。また、現在あまり近所づきあいできていない層においても「地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい」と考えている割合が比較的高くなっています。

問8 近所付き合いの程度 \ 問17 地域での人と人とのかかわりについての考え	心から打ち解け合える関係を築きたい	隣近所の人とはつきあいを大切にしたい	地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい	他人の協力は期待していない
親しくおつきあいしているお宅がある (N=164)	4.3	67.1	18.3	0.6
たまに立ち話をする程度 (N=331)	2.1	65.0	18.4	5.1
会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない (N=332)	3.0	47.0	20.5	15.1
つきあいがほとんどない (N=62)	3.2	25.8	19.4	17.7
問8 近所付き合いの程度 \ 問17 地域での人と人とのかかわりについての考え	くない	興味がない	その他	不明・無回答
親しくおつきあいしているお宅がある (N=164)	0.0	0.6	0.0	9.1
たまに立ち話をする程度 (N=331)	0.0	0.6	1.2	7.6
会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない (N=332)	1.8	4.8	3.0	4.8
つきあいがほとんどない (N=62)	6.5	19.4	6.5	1.6

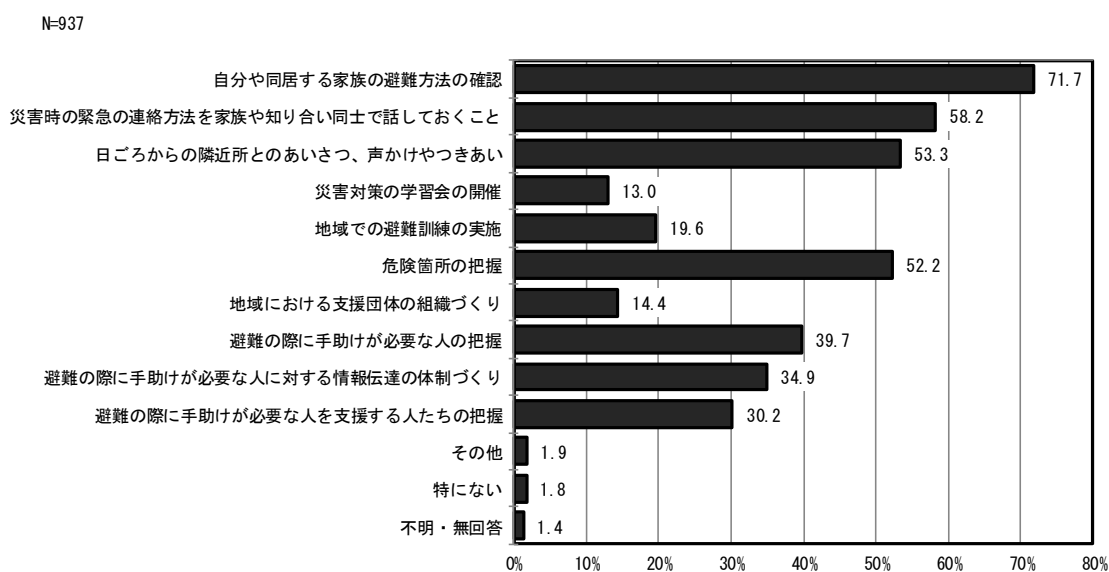
問18 ひとり暮らしの高齢者など、災害発生時に気になる人が地域にいますか。
 〈単数回答〉

「知らない」が39.0%で最も高くなっています。次いで「いる」が36.1%、「いない」が22.6%で続いています。



問19 地震や台風などの災害発生時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。〈複数回答〉

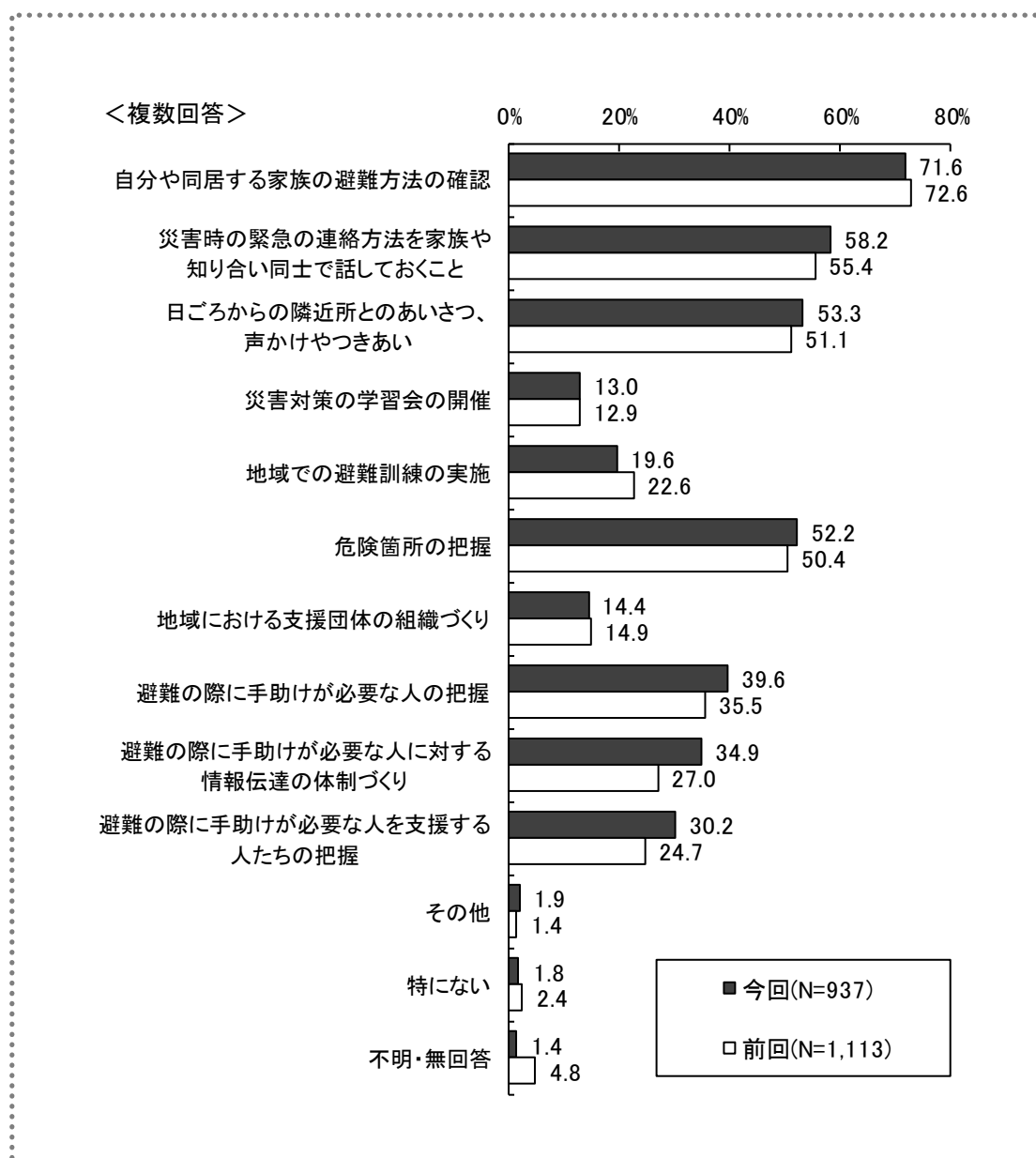
「自分や同居する家族の避難方法の確認」が71.7%で突出しています。



その他回答

- ・高齢者が多い私の地域では学習会や訓練は困難。その地域の班長や組長らへの避難手段の指導が必要かと
- ・地域の避難場所（公民館等）は、実際全員を収容できるキャパシティがあるのか。また、周知しておくこと
- ・市役所からのアナウンスがフアファ発音（上品）で聞き辛い。いらつく。担当を変えてほしい
- ・宝城団地には古い給水井戸があったが、使用できるように整備してほしい（非常時）
- ・今年市の災害リーダー講習を受講し、リーダー資格を得る
- ・避難勧告や避難指示等に対する意識、危機感をもつこと
- ・消防団員の消防団活動への積極的な参加
- ・災害時支援組織体制の具体的な機能化
- ・地域特化情報、インフラの整備
- ・避難場所の再確認（安全性等）
- ・病人の病院への迅速な搬送等
- ・地域で話し合いがあっている
- ・職場では訓練している
- ・非常食や装備の準備
- ・災害を想定した備え
- ・ペットの避難
- ・備蓄

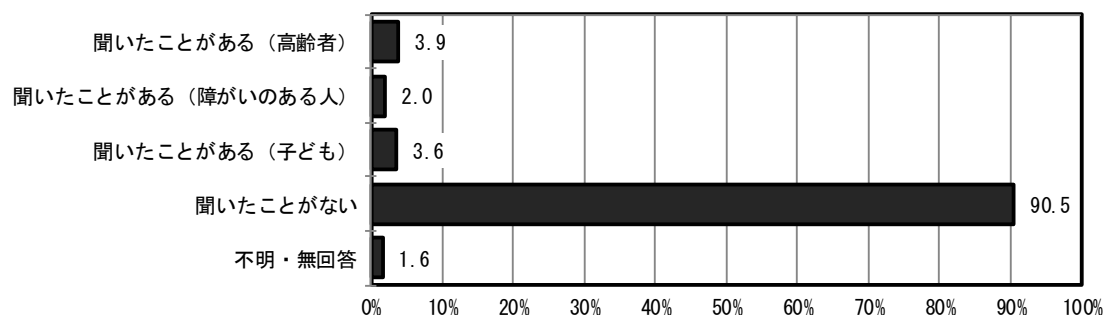
前回調査の結果と比較すると、「避難の際に手助けが必要な人の把握」「避難の際に手助けが必要な人に対する情報伝達の体制づくり」「避難の際に手助けが必要な人を支援する人たちの把握」等の割合が比較的增加しています。



問20 あなたがお住まいの地域の出来事として、高齢者や子ども、障がいのある人に対する家族等による虐待について耳にしたことがありますか。〈複数回答〉

「聞いたことがない」が90.5%で突出しています。

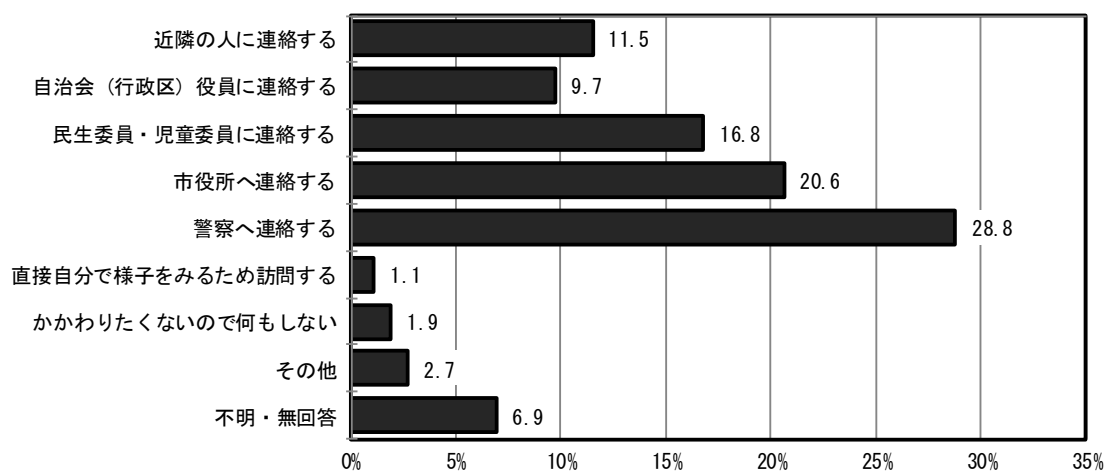
N=937



問21 もしあなたの周囲で、虐待が発生しているとあなた自身が思われたら、最初にどのように対応しますか。〈単数回答〉

「警察へ連絡する」が28.8%で最も高くなっています。次いで「市役所へ連絡する」が20.6%、「民生委員・児童委員に連絡する」が16.8%が続いています。

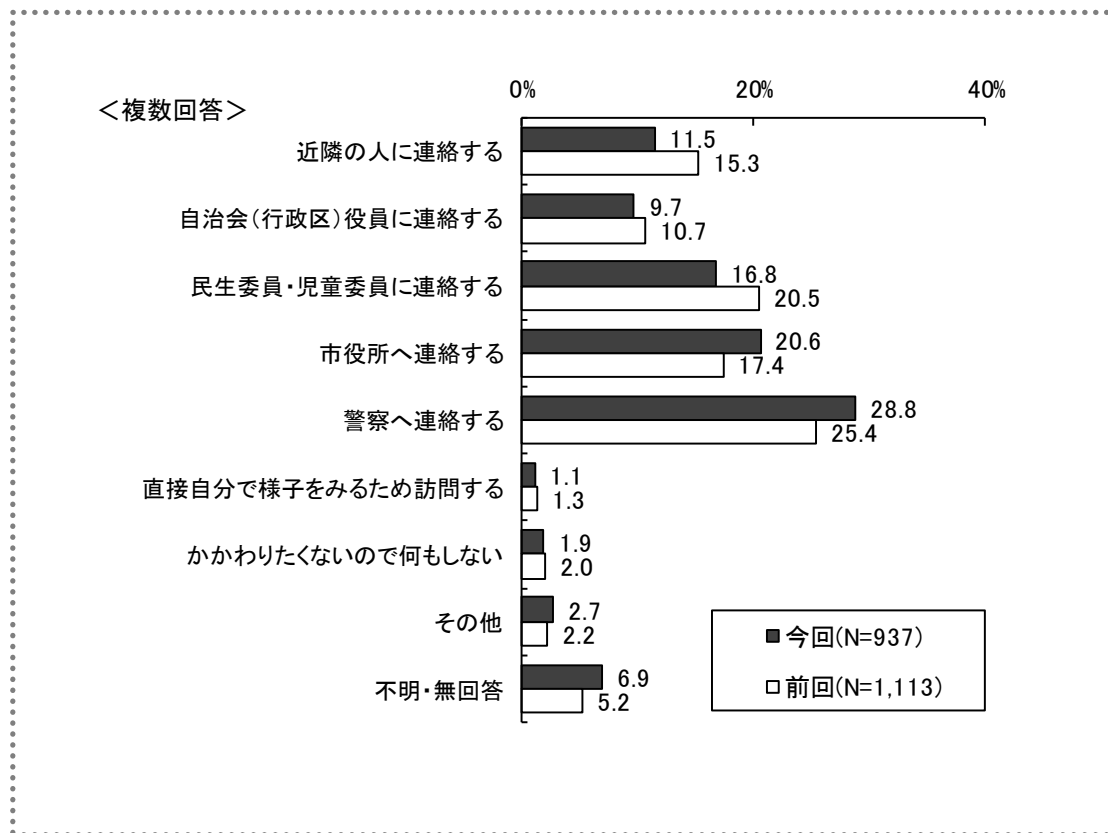
N=937



その他回答

- ・ 家族に相談する (3)
- ・ 知らない (2)
- ・ 他地域の知人に相談し、連絡先を決める。匿名で連絡すると思う
- ・ どうすれば良いかわからないので、まずネットで調べる
- ・ どのように対応したら良いのか教えてほしい
- ・ 様子、程度によって対応が変わるのでは
- ・ どこに連絡したら良いかわからない
- ・ 家族にも意見を聞いて対応する
- ・ 児童相談所に通報する
- ・ 親に相談
- ・ 知人に相談 (2)
- ・ 虐待を見たら仲裁に入って話をつける
- ・ まず家族に伝えて、対応を受け継ぐ
- ・ 正しく動きそうな人に噂を流す
- ・ 人権 110 番

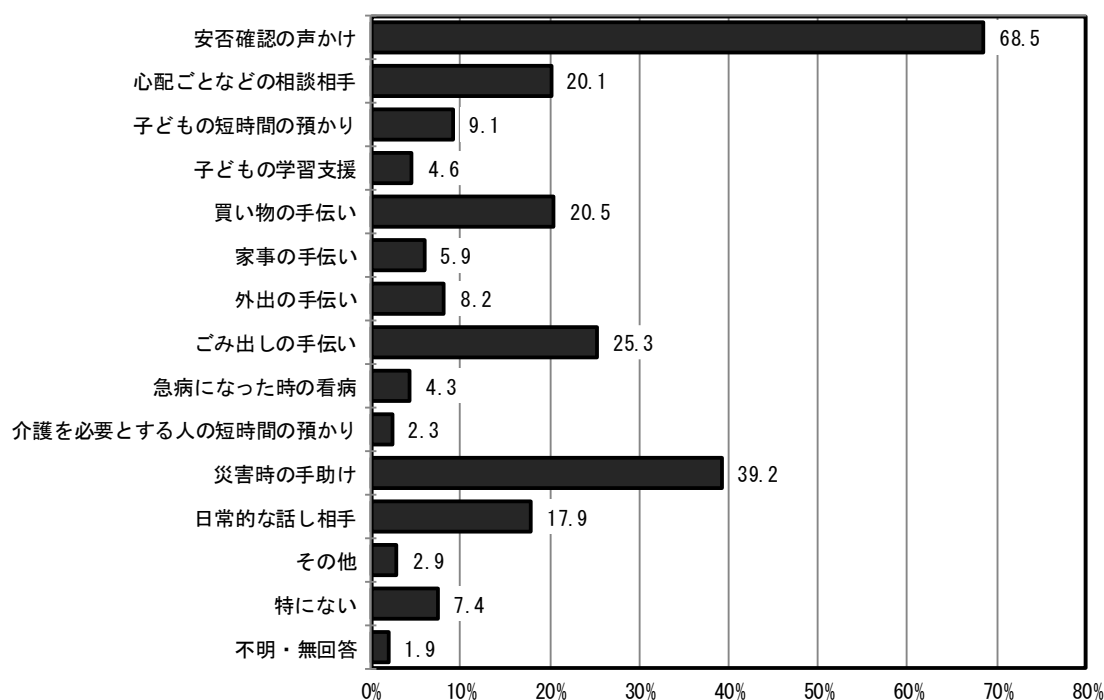
前回調査と比較すると、「警察へ連絡する」がいずれも最も高くなっていますが、前は次いで「民生委員・児童委員に連絡する」が高くなっていましたが、今回は「市役所へ連絡する」が高くなっています。



問22 あなたの身近なところで、困っている人がいた場合、あなた自身はどのような支援ができますか。〈複数回答〉

「安否確認の声かけ」が68.5%を占めています。「災害時の手助け」が39.2%、「ごみ出しの手伝い」が25.3%で続いています。

N=937

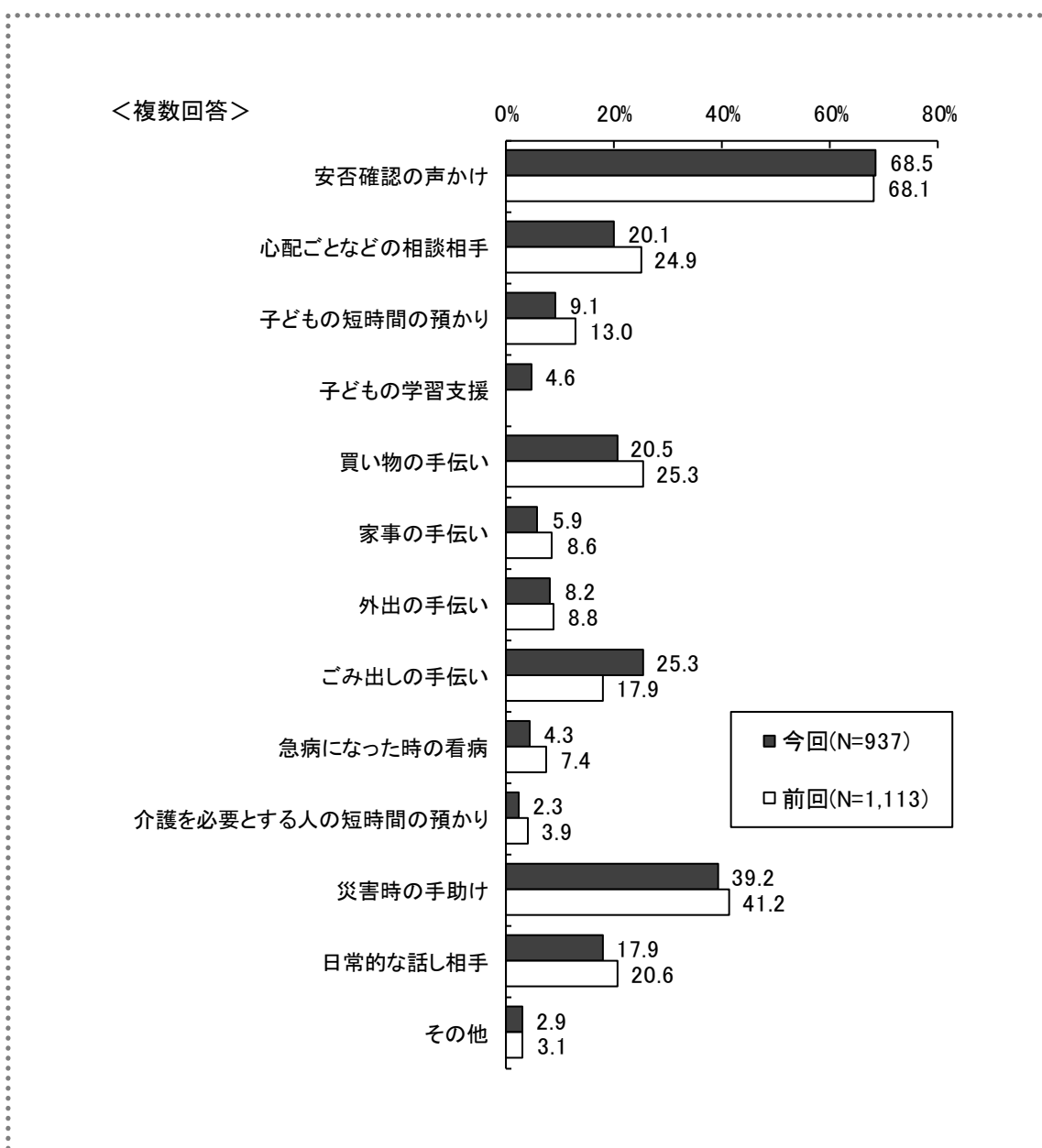


その他回答

- ・よくわからない (2)
- ・以前、荷物(収穫物)を運んであげたら、数が少ない、あんたが取ったやろうと言われ、それ以来その家族とは付き合っていない。本人は既に死亡している。近所の人が「あの人はあんな人やから知らん顔しとき」等言われた
- ・何をしてほしいのかを聞く。その時にならないとわからない
- ・仕事でほとんど家にいないので、日常の手助けはできない
- ・今自分自身、親の介護状態なので何も支援できない
- ・必要なら民生委員や市役所、交番等へ連絡をする
- ・支援を求められたらできることは支援したい
- ・自身が高齢の為、自分のことで精一杯
- ・何について困っているのかわからない
- ・仕事があるので何もできない

- ・困っている人が求めること
- ・体力的に無理がある
- ・食事の差し入れ等
- ・小さな親切
- ・必要なところへ繋げる
- ・親密度により変わる
- ・何もできない

前回調査の結果と比較すると、割合が減少している項目が多い中、「ごみ出しの手伝い」はおよそ7ポイント増加しています。



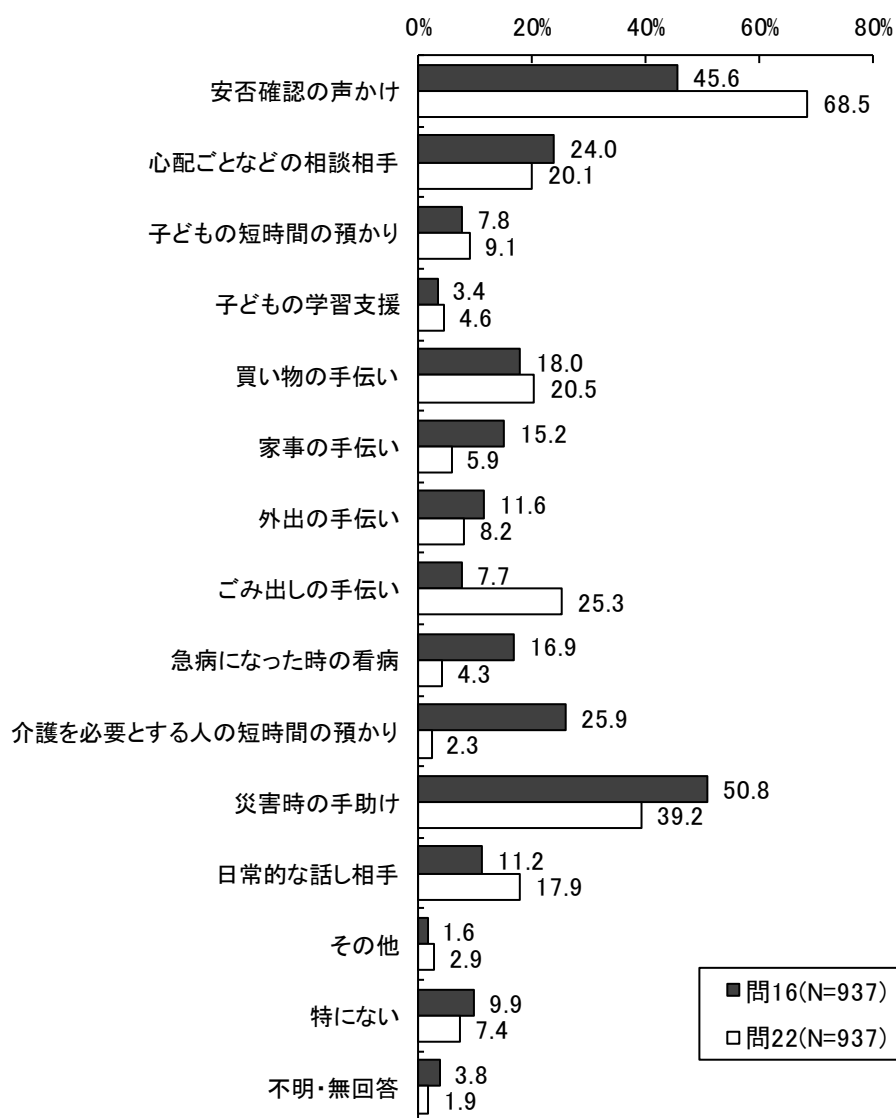
【クロス集計】

問22 あなたの身近なところで、困っている人がいた場合、あなた自身はどのような支援ができると思いますか。

問16 あなたやご家族に助けが必要になった時、どのような支援をしてほしいと思いますか。

問16（助けが必要になった時してほしい支援）と問22（困っている人がいた場合、自身ができると思う支援）をみると、問16（助けが必要になった時してほしい支援）では「災害時の手助け」が最も高く、問22（困っている人がいた場合、自身ができると思う支援）では「安否確認の声かけ」が最も高くなっています。

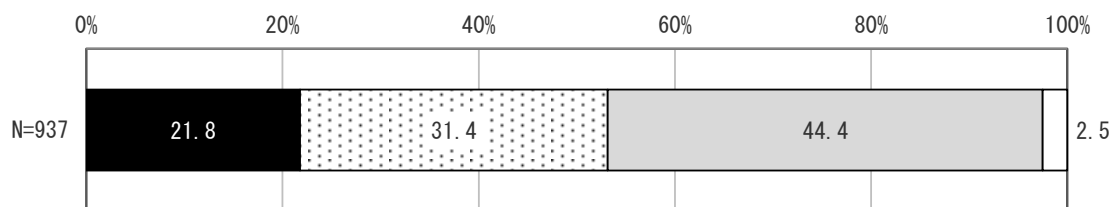
<複数回答>



5. 地域活動やボランティア活動について

問23 あなたは現在、自治会(行政区)や子ども会、老人クラブの活動など、地域活動をしていますか。〈単数回答〉

「活動したことがない」が44.4%で最も高くなっています。次いで「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」が31.4%、「現在活動している」が21.8%が続いています。



- 現在活動している
- 過去に活動したことがあるが、現在は活動していない
- 活動したことがない
- 不明・無回答

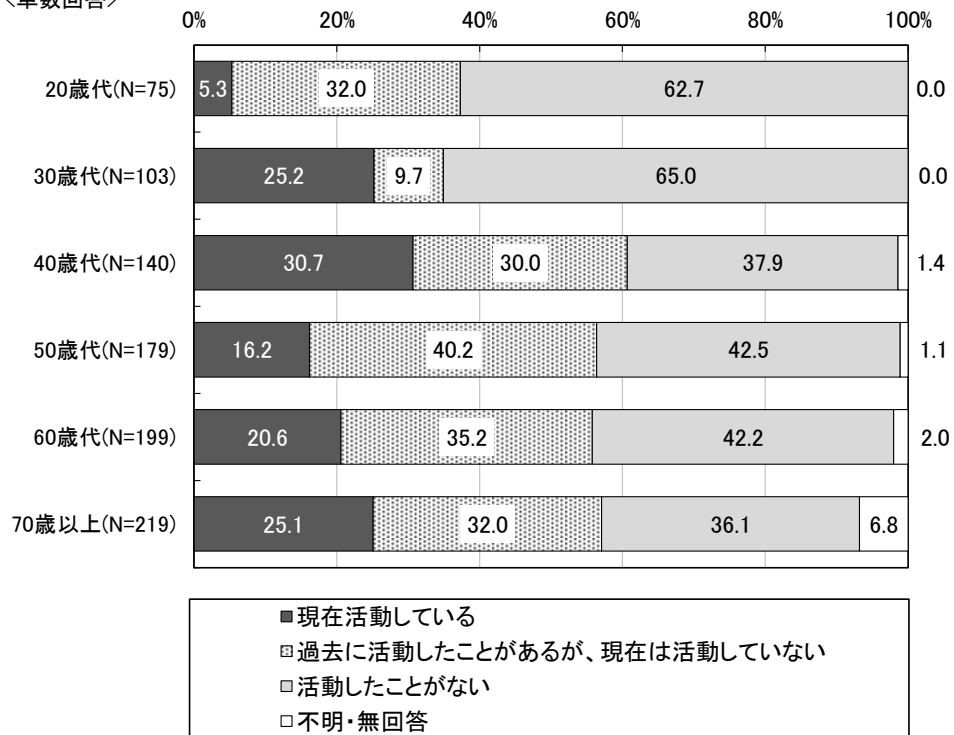
【クロス集計】

問23 あなたは現在、自治会(行政区)や子ども会、老人クラブの活動など、地域活動をしていますか。

○ あなたの年齢は、何歳ですか。

40歳代では「現在活動している」の割合が他の年齢と比較してやや高くなっています。一方、20歳代では「現在活動している」の割合が1割弱と他の年齢と比較して低くなっています。

〈単数回答〉

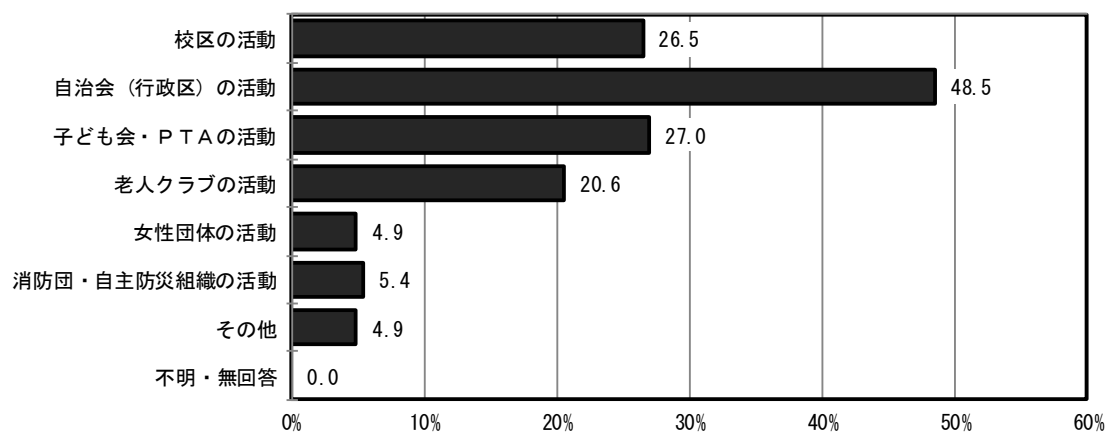


(問23で「1. 現在活動している」に答えられた方)

問23-1 どんな活動をしていますか。〈複数回答〉

「自治会（行政区）の活動」が48.5%で最も高くなっています。次いで「子ども会・PTAの活動」が27.0%、「校区の活動」が26.5%で続いています。

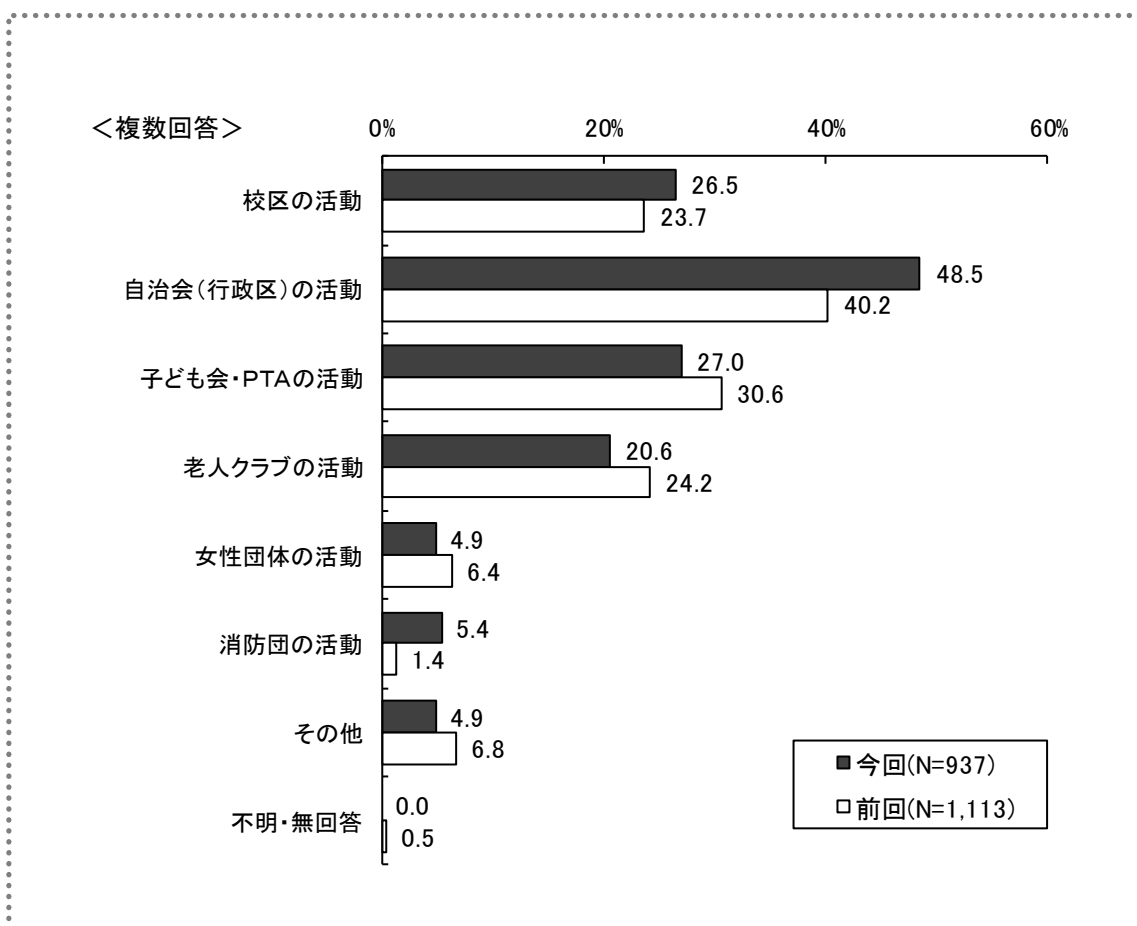
N=204



その他回答

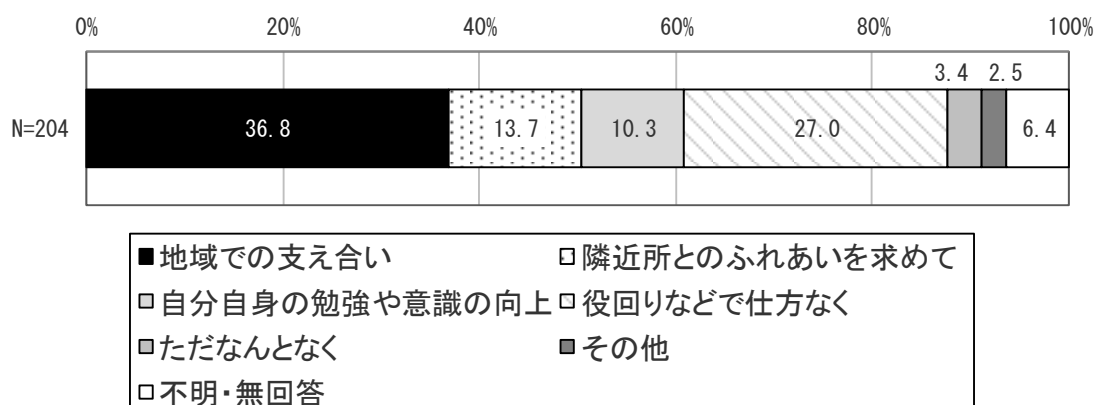
- ・他地域（校区外）での美化活動
- ・マンションの修繕委員会
- ・小、中の委員会活動
- ・防犯
- ・たまに日本語ボランティア
- ・施設の障がい者見守り
- ・お寺の清掃

前回調査の結果と比較すると、「校区の活動」「自治会（行政区）の活動」「消防団の活動」において前回調査より割合が高くなっており、特に「自治会（行政区）の活動」では8.3ポイント増加しています。



問23-2 どのような目的で活動していますか。〈単数回答〉

「地域での支え合い」が36.8%で最も高くなっています。次いで「役回りなどで仕方なく」が27.0%、「隣近所とのふれあいを求めて」が13.7%が続いています。



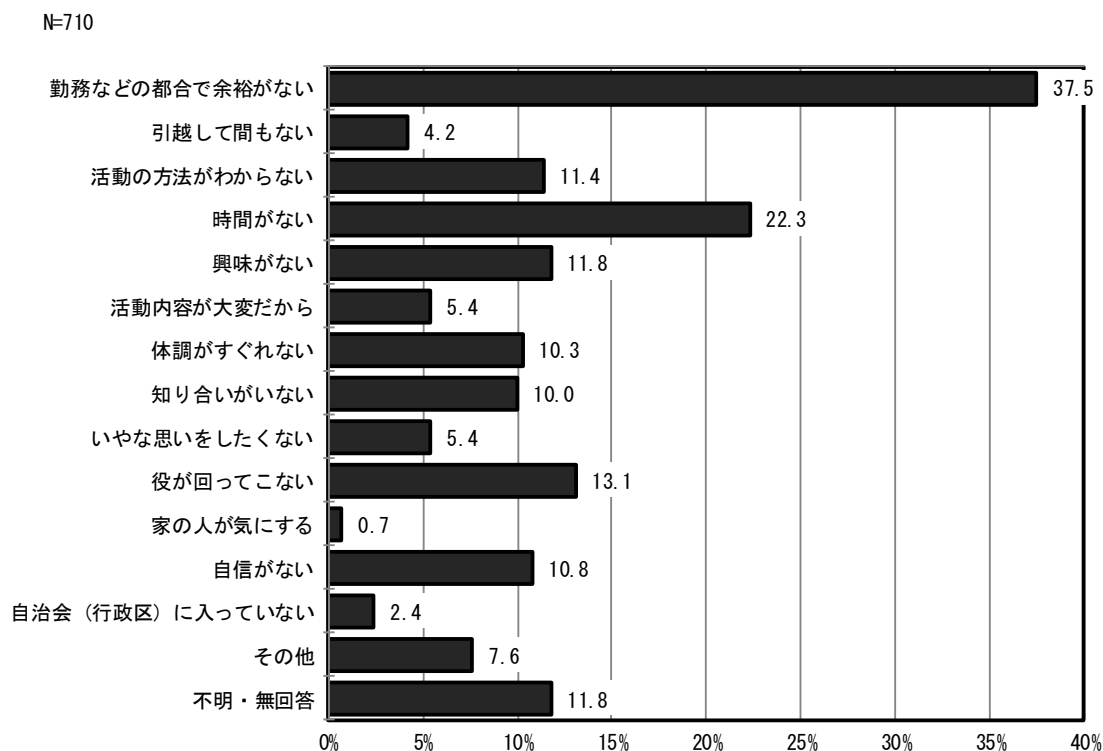
その他回答

- ・ 国際交流をしたいから
- ・ 決めていたので
- ・ 子どもたちの為
- ・ 好きだから

(問 23 で②、③に答えられた方)

問23-3 現在活動していない理由は何ですか。〈複数回答〉

「勤務などの都合で余裕がない」が 37.5%で最も高くなっています。次いで「時間がない」が 22.3%、「役が回ってこない」が 13.1%で続いています。



その他回答

- ・ 高齢になった為 (5)
- ・ 単身赴任中の為 (2)
- ・ 自分の子どもが学校に通っていた時は子ども会を通して活動してきたが、成長と共に関わることがなくなった。自分自身も忙しくなった（実家の介護等）から
- ・ 将来、結婚し子育てをする上で、仕事をしながらできるのか、アドバイスをもらえるところがあると良いと思うから
- ・ 81歳で現在は行っていない。過去は民生委員、公民館役員、町内会役員をしていた
- ・ 長く住んでいる人たちで既にグループができており、新参加者はなかなか入り辛い
- ・ 自治会活動は知っているが、ボランティア活動は知らない。情報がない
- ・ 自治会に入っているが、回覧板が回ってこない。これは差別なのか
- ・ 子どもが大きくなったので子ども会等の活動がなくなった

- ・子ども会の役員をしていたが、子どもが成長した為
- ・家族がやっている。自分がやっているわけではない
- ・子どもは成人、老人ではない。自治会は去年担当
- ・自ら積極的には動きたくない。指示されればする
- ・関わる道筋が途絶えている（子どもが成長した）
- ・子どもが大きくなり、子ども会を卒業したから
- ・大学通学の為、別のところに住んでいるから
- ・自分や子どもの年齢があてはまらない
- ・子どもの成長で子ども会が終了した
- ・子ども会→子どもが大人になった
- ・いずれは確実に必要となるから
- ・何があっているか知らない
- ・役回りの時に活動するのみ
- ・身体が不自由になったから
- ・まだ父が活動している為
- ・子どもが大きくなった為
- ・自治会役員をしている
- ・特に考えていない
- ・付き合いが苦手
- ・よくわからない
- ・介護中の為
- ・対象外
- ・高齢で自分の体が思うように動かない
- ・仕事関係の協会活動があり参加困難
- ・区役員を再任規定により退任した
- ・自治会の活動に参加している
- ・無償で活動したくないから
- ・地域活動は妻がしてるから
- ・今年は何も役がないから
- ・子ども会を卒業したから
- ・施設入所しているから
- ・もう子どもではない為
- ・孫子守があるから
- ・その機会がない
- ・役が終わった
- ・車がない

【クロス集計】

問23-3 現在活動していない理由は何ですか。

○ あなたの年齢は、何歳ですか。

年齢別にみると、若年層では「勤務などの都合で余裕がない」「時間がない」「興味がない」などの割合が高く、高齢層では「体調がすぐれない」「役が回ってこない」「自信がない」などの割合が高くなっています。

問 23-3 活動して いない理由 年齢	勤務などの都合で余裕がない	引越して間もない	活動の方法がわからない	時間がない	興味がない	活動内容が大変だから	体調がすぐれない	知り合いがいない
	20 歳代 (N=71)	52.1	11.3	11.3	40.8	22.5	4.2	1.4
30 歳代 (N=77)	54.5	14.3	18.2	36.4	14.3	1.3	9.1	20.8
40 歳代 (N=95)	52.6	2.1	5.3	26.3	13.7	7.4	5.3	6.3
50 歳代 (N=148)	49.3	2.7	12.2	20.9	6.1	5.4	5.4	10.1
60 歳代 (N=154)	30.5	1.9	14.9	16.9	11.7	7.1	14.9	10.4
70 歳以上 (N=149)	6.7	0.7	6.0	9.4	10.1	5.4	18.8	6.7
問 23-3 活動して いない理由 年齢	いやな思いをしたくない	役が回ってこない	家の人が気にする	自信がない	自治会（行政区）に入っていない	その他	不明・無回答	
	20 歳代 (N=71)	5.6	5.6	0.0	11.3	4.2	7.0	5.6
30 歳代 (N=77)	5.2	10.4	2.6	10.4	3.9	2.6	7.8	
40 歳代 (N=95)	6.3	15.8	1.1	9.5	2.1	6.3	8.4	
50 歳代 (N=148)	4.7	15.5	0.0	10.8	1.4	10.1	10.8	
60 歳代 (N=154)	4.5	16.9	0.6	9.7	2.6	3.9	9.7	
70 歳以上 (N=149)	5.4	10.7	0.7	13.4	2.0	12.8	21.5	

【クロス集計】

問23-3 現在活動していない理由は何ですか。

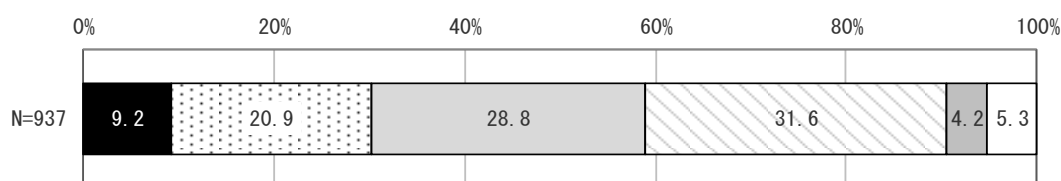
問8 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。

近所づきあいの程度別にみると、いずれの程度においても「勤務などの都合で余裕がない」が最も高くなっています。また、近所づきあいの程度が高いほど「役が回ってこない」が高くなる傾向があり、程度が低くなるほど「興味がない」「知り合いがいない」などの割合が高くなる傾向があります。

問8 近所づきあいの程度	問23-3 活動していない理由		勤務などの都合で余裕がない	引越して間もない	活動の方法がわからない	時間がない	興味がない	活動内容が大変だから	体調がすぐれない	知り合いがいない
	問23-3 活動していない理由	問8 近所づきあいの程度								
親しくおつきあいしているお宅がある (N=164)			21.0	0.0	10.0	19.0	6.0	4.0	17.0	5.0
たまに立ち話をする程度 (N=331)			33.5	1.3	9.1	20.9	6.1	7.0	10.0	7.0
会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない (N=332)			48.4	6.0	14.7	25.3	15.4	4.9	7.7	13.3
つきあいがほとんどない (N=62)			34.5	12.1	10.3	25.9	31.0	5.2	15.5	15.5
問8 近所づきあいの程度	問23-3 活動していない理由		いやな思いをしたくない	役が回ってこない	家の人が気にする	自信がない	自治会（行政区）に入っていない	その他	不明・無回答	
	問23-3 活動していない理由	問8 近所づきあいの程度								
親しくおつきあいしているお宅がある (N=164)			3.0	19.0	0.0	11.0	0.0	6.0	22.0	
たまに立ち話をする程度 (N=331)			5.2	17.8	0.9	12.2	1.3	8.7	12.6	
会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない (N=332)			5.6	10.2	0.4	10.2	3.9	7.7	7.7	
つきあいがほとんどない (N=62)			5.2	1.7	1.7	8.6	5.2	3.4	3.4	

問24 あなたは、問23のような地域での活動以外に、個人的にボランティア活動に参加したことがありますか。〈単数回答〉

「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が 31.6%で最も高くなっています。次いで「まったく参加したことはないが、今後参加したい」が 28.8%、「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」が 20.9%で続いています。



- 現在参加している
- 以前に参加したことがあるが、現在参加していない
- まったく参加したことはないが、今後参加したい
- まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない
- その他
- 不明・無回答

その他回答

- ・参加したことはないが、仕事をしているので、体調が良ければ参加できることはしたいと思う
- ・地域活動や自分の趣味で時間を使ってしまっているので、これ以上手を上げられない
- ・仕事忙しく、現在は不可のため、機会があればしても良いと思う
- ・所属団体で参加したことがあるが、今後参加しても良い
- ・参加したくないことはなく、参加したいが体力的に無理
- ・自分自身が持病を抱えているので、活動に制限がある
- ・参加したことはないが、どうするかはその時次第
- ・機会があるごとに申込み、参加している
- ・病後、重たいものを持たない体になった
- ・参加したことはないが、今後は未定
- ・今は子育てを第一優先している
- ・体力、年齢的に自信がない！！
- ・体が動き辛いのでできない
- ・自ら進んではやりたくない
- ・年齢的にできそうにない
- ・近所の方々の手伝い等をしてあげた
- ・今は時間がないのでできない
- ・東日本大震災のボランティア
- ・何があっているか知らない
- ・余裕ができれば参加したい
- ・できる状態ではない為

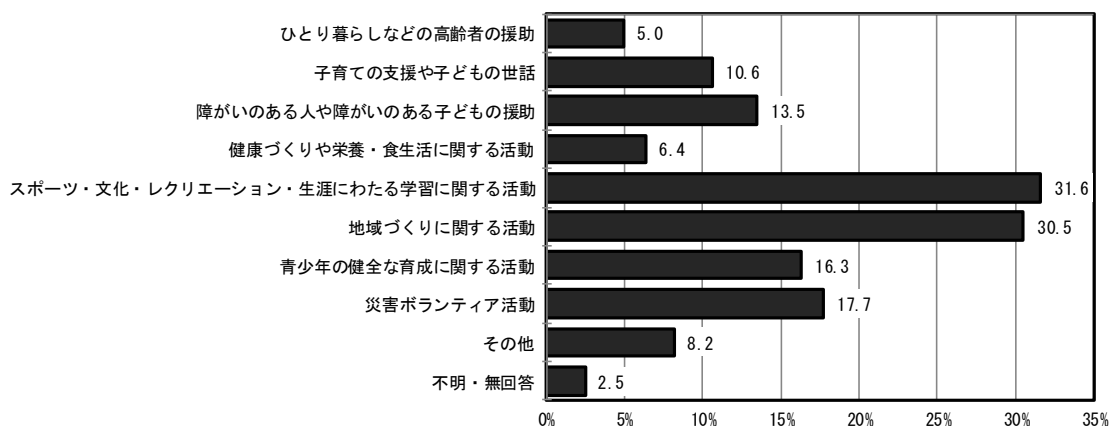
- ・時間的に余裕がない
- ・会社で行っている
- ・全く時間がない
- ・その機会がない
- ・覚えていない
- ・余裕がない
- ・高齢の為

(問 24 で①、②に答えられた方)

問24-1あなたは、どのようなボランティア活動に参加してきましたか。〈複数回答〉

「スポーツ・文化・レクリエーション・生涯にわたる学習に関する活動」が31.6%で最も高くなっています。次いで「地域づくりに関する活動」が30.5%、「災害ボランティア活動」が17.7%が続いています。

N=282



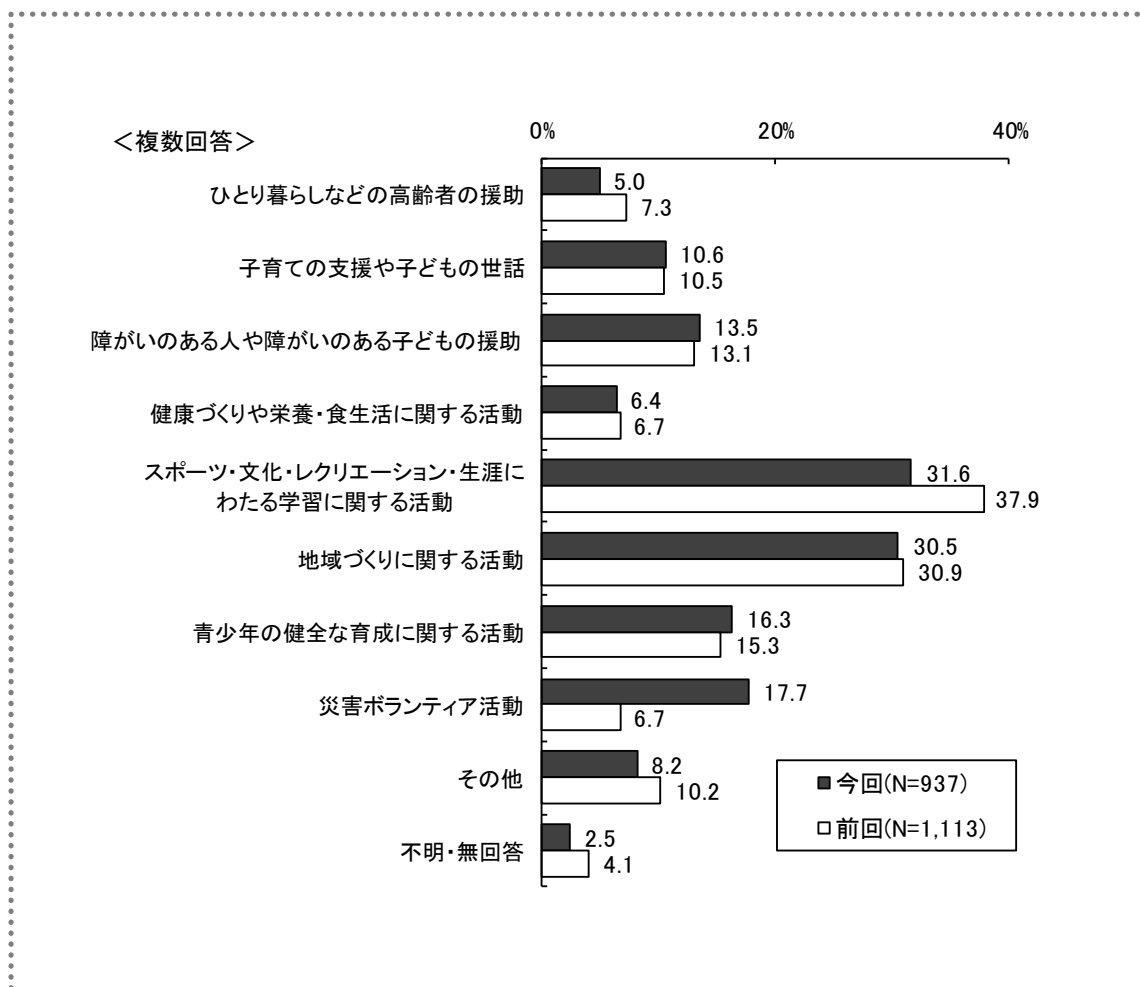
その他回答

- ・ごみ拾い (3)
- ・小郡市以外のボランティア活動
- ・神社の掃除、河川のゴミ拾い
- ・児童養護施設に関する活動
- ・農業復興ボランティア
- ・子どもたちに囲碁教室
- ・点訳を25年間続けた
- ・ハンドマッサージ等
- ・猫の保護活動、TNR※
- ・子どもの学習支援

※TNR：捕獲 (Trap) ⇒不妊去勢手術 (Neuter) ⇒元の場所に戻す (Return) の頭文字

- ・高齢者施設の訪問
- ・子ども会、PTA 活動
- ・音読テープ作成
- ・会社の慈善活動
- ・高齢者施設訪問
- ・公園の草刈り
- ・植林
- ・治験

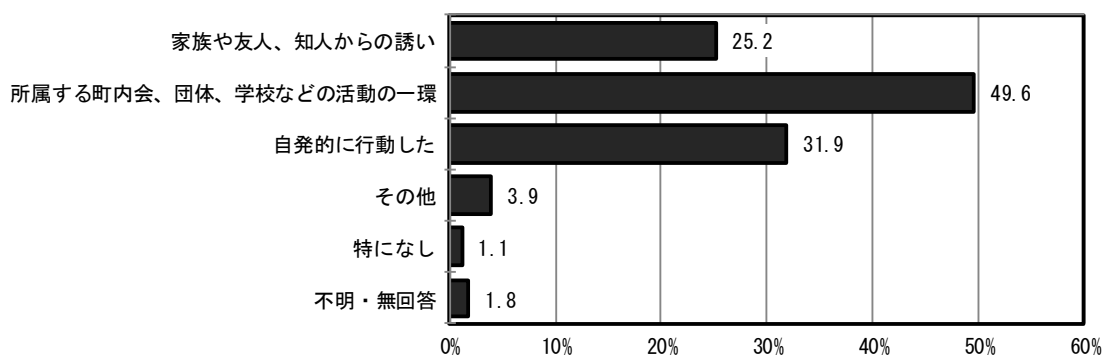
前回調査の結果と比較すると、「災害ボランティア活動」が11ポイントと大きく増加しています。



問24-2 ボランティア活動に参加したきっかけは何ですか。〈複数回答〉

「所属する町内会、団体、学校などの活動の一環」が49.6%で最も高くなっています。次いで「自発的に行動した」が31.9%、「家族や友人、知人からの誘い」が25.2%が続いています。

N=282



その他回答

- ・自分が障がい者になった為、座ってできる活動、点訳を25年やっていた
- ・自分の経験から、関係するその自助グループ活動に参加している
- ・仕事先のお客様が被災したから（三陸沖）
- ・小郡市公報でボランティアの記事を見て
- ・自分にできないかなと思った為
- ・団体の募集ポスターに興味をもったから
- ・大学サークル等学校からの紹介
- ・学校での部活
- ・覚えていない
- ・会社の活動

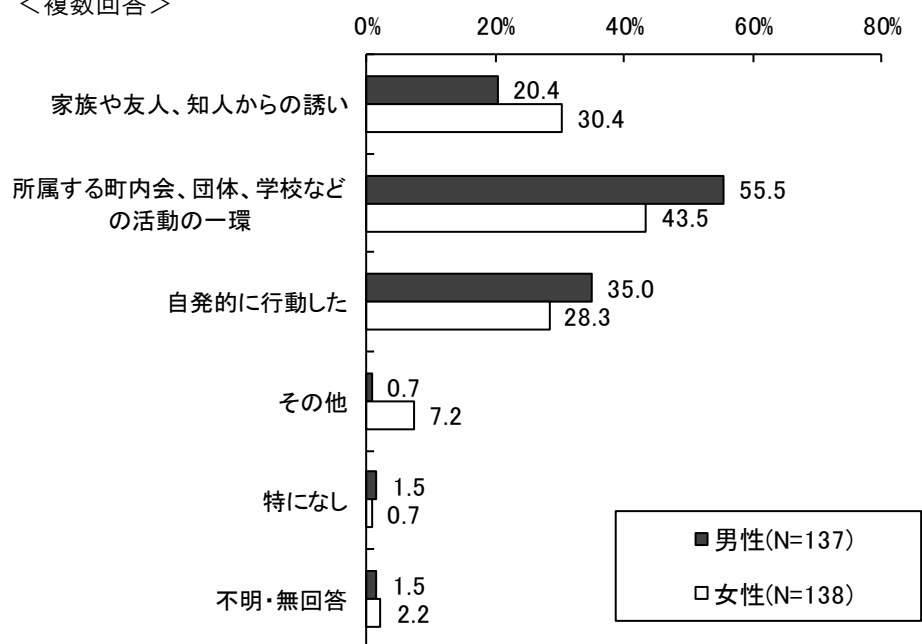
【クロス集計】

問24-2 ボランティア活動に参加したきっかけは何ですか。

○ あなたの性別は？

性別にみると、男女ともに「所属する町内会、団体、学校などの活動の一環」が最も高くなっています。また、男性では次いで「自発的に行動した」が高く、女性では「家族や友人、知人からの誘い」が高くなっています。

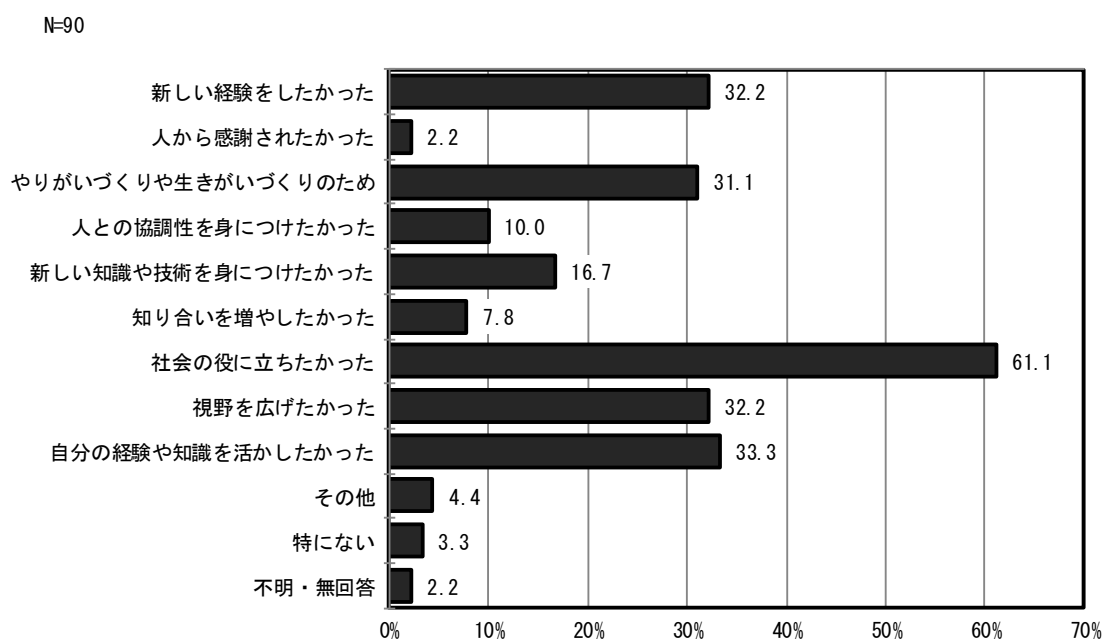
<複数回答>



(問 24-2 で「3. 自発的に行動した」に答えられた方)

問24-2-1 自発的に参加した理由は何ですか。〈複数回答〉

「社会の役に立ちたかった」が 61.1%を占めています。「自分の経験や知識を活かしたかった」が 33.3%、「新しい経験をしたかった」、「視野を広げたかった」が 32.2%で続いています。



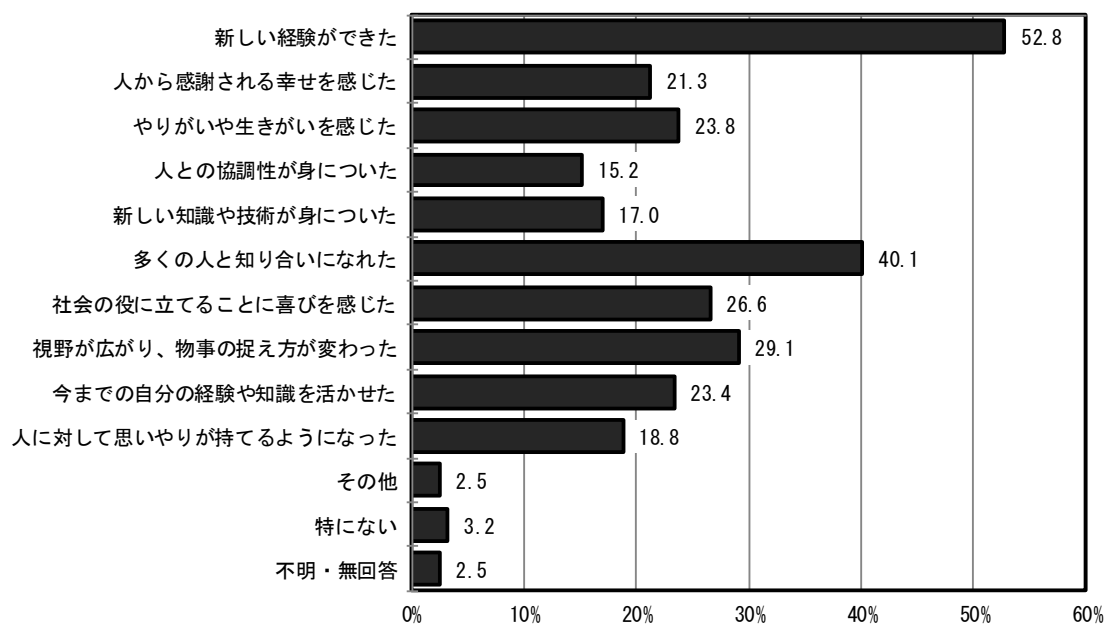
その他回答

- ・自分が障がい者になった為、座ってできる活動ボランティアを探した
- ・子どもたちと地域の繋がりを知る。自分の地域を知る
- ・高齢者の方に笑顔になって欲しかった
- ・学生だったので勉強の為
- ・他の方との会話がある
- ・面白そうだから
- ・恩返し

問24-3 ボランティア活動に参加をして、よかった点はどのようなことですか。
 〈複数回答〉

「新しい経験ができた」が52.8%を占めています。「多くの人と知り合いになれた」が40.1%、「視野が広がり、物事の捉え方が変わった」が29.1%で続いています。

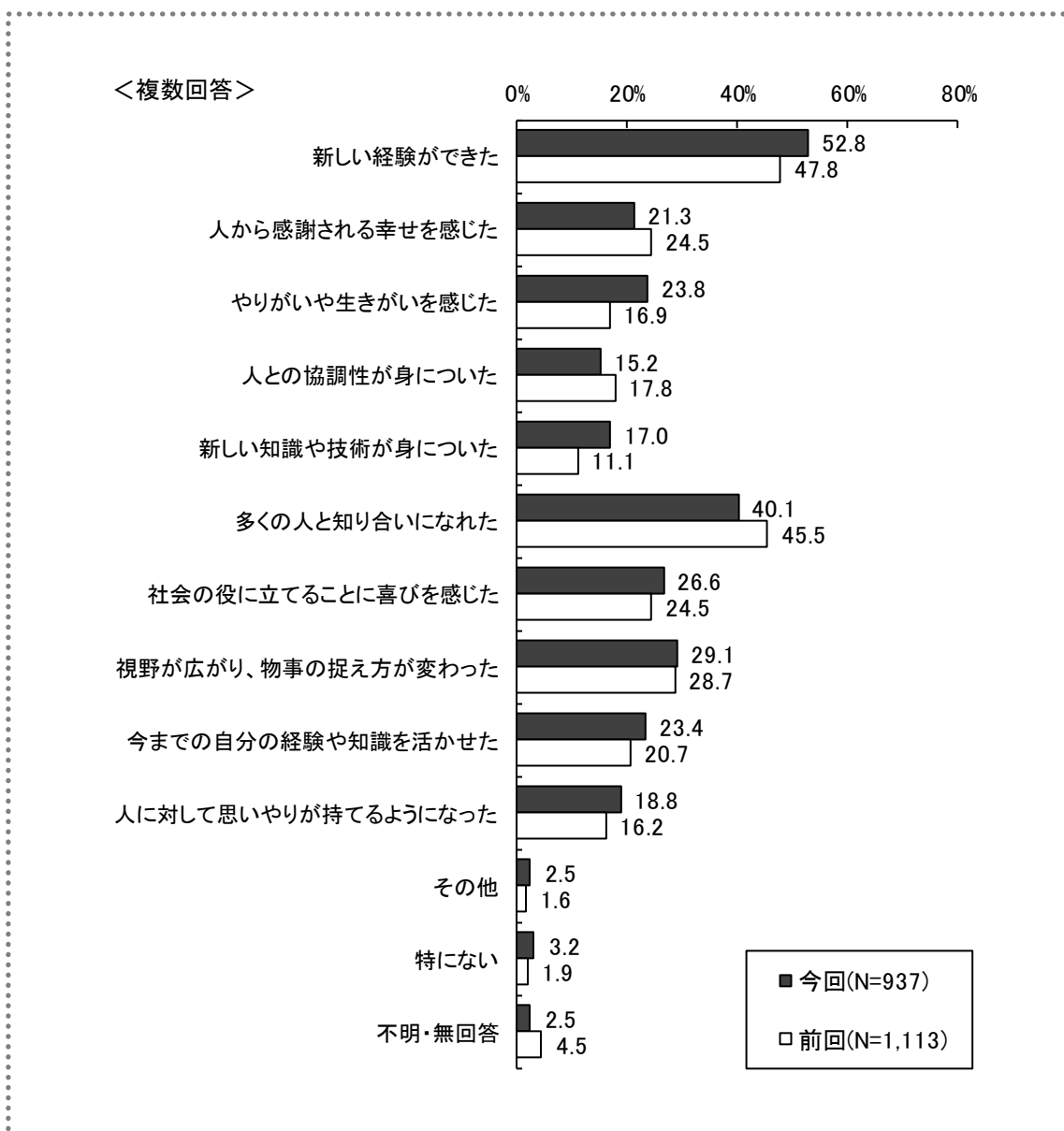
N=282



その他回答

- ・ 地域の人顔が見え、住んでいるところに愛着がもてるようになった
- ・ いろいろな子どもたちとより触れ合えることが良かった
- ・ 災害の状況を知ることができた
- ・ 地域との繋がりができた
- ・ この国には呆れた
- ・ 参加していない
- ・ 友人ができた

前回調査の結果と比較すると、「新しい経験ができた」「やりがいや生きがいを感じた」「新しい知識や技術が身についた」において前回調査より比較的割合が高くなっています。一方、「多くの人と知り合いになれた」では約5ポイントの減少がみられます。

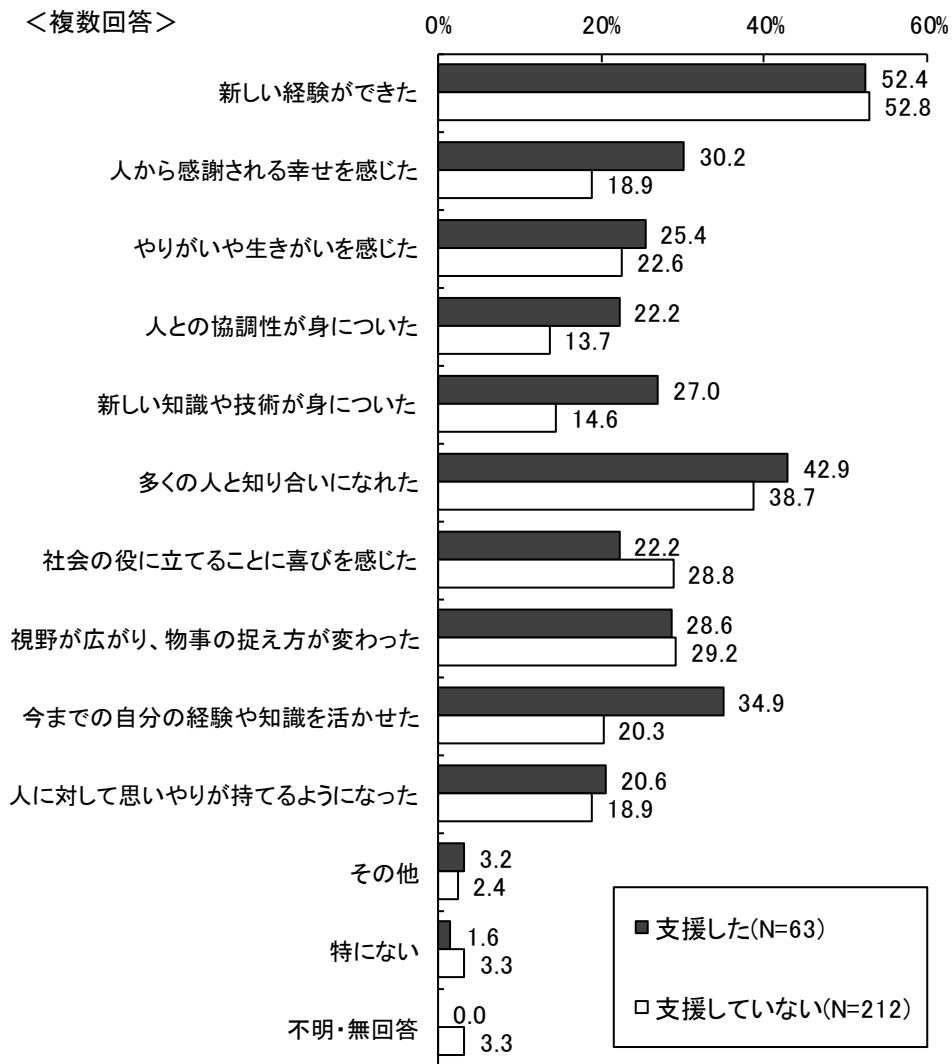


【クロス集計】

問24-3 ボランティア活動に参加をして、よかった点はどのようなことですか。

問12 この1年間に近所の困っている方に生活のちょっとした支援（ごみ出しを手伝うなど）をしましたか。

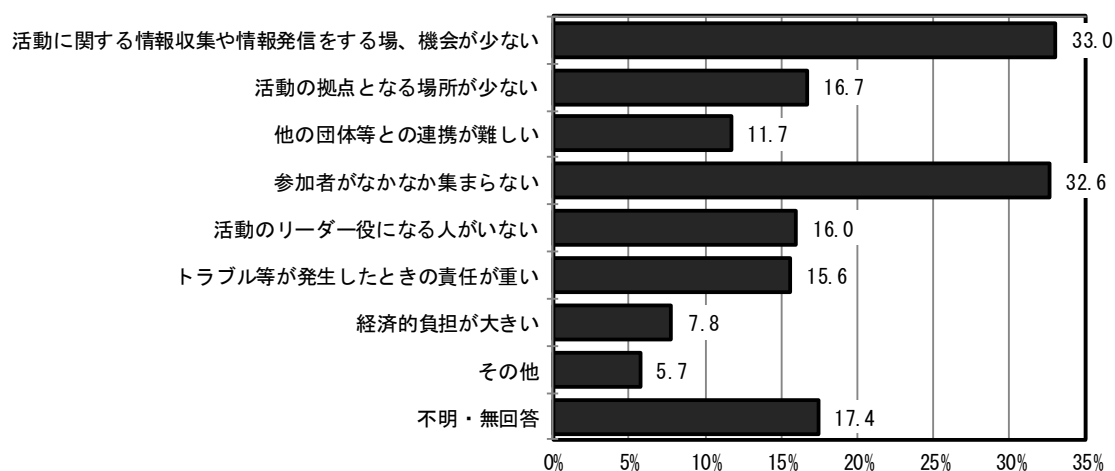
支援の有無別にみると、支援をしていない人がボランティアに参加してよかった点として「新しい経験ができた」「多くの人と知り合いになれた」「視野が広がり、物事の捉え方が変わった」「社会の役に立てることに喜びを感じた」が比較的高くなっています。



問24-4 よりよい活動を進める上で改善が求められていること(求められていたこと)はありますか。〈複数回答〉

「活動に関する情報収集や情報発信をする場、機会が少ない」が33.0%で最も高くなっています。次いで「参加者がなかなか集まらない」が32.6%、「活動の拠点となる場所が少ない」が16.7%で続いています。

N=282



その他回答

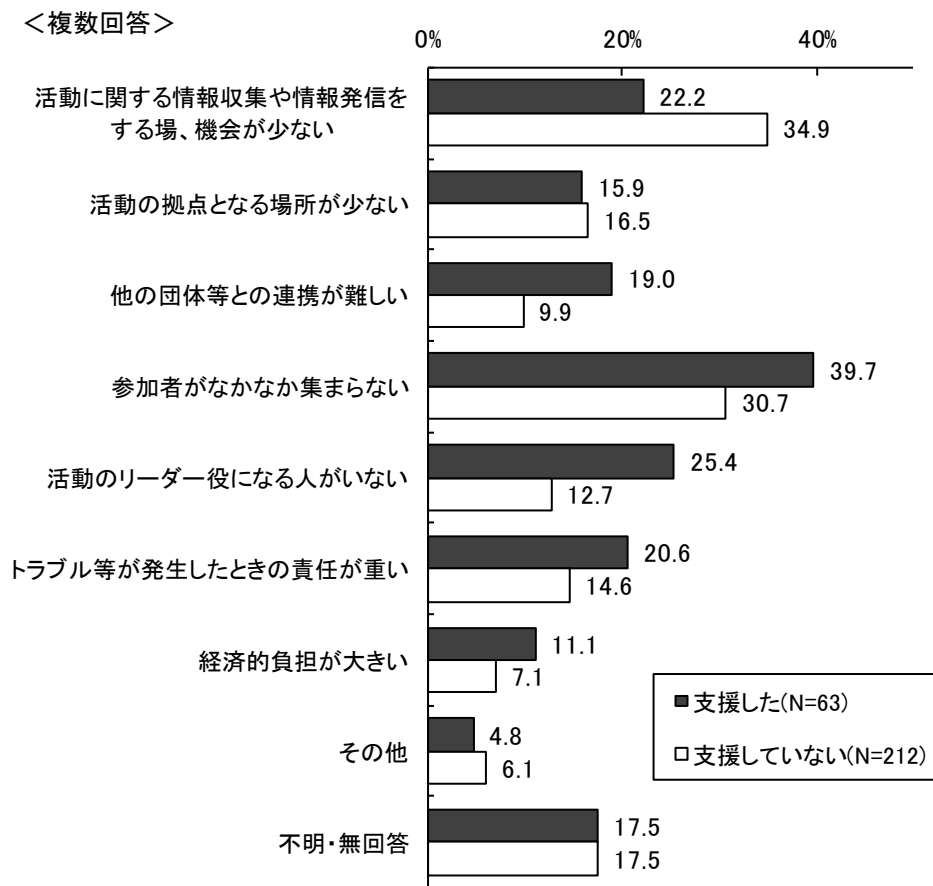
- ・特になし (4)
- ・わからない (2)
- ・区長さん等の役職に就かれているのは70代男性が多いが、実際の介護等は女性が担っており、名誉職のようになり実動が伴っていないように思う
- ・毎回振り返りをして、より良いものになるようにしている
- ・地域というより、まずお隣りさん同士の関わりが必要
- ・今行っている分に関しては特になし
- ・高齢社会で働いている

【クロス集計】

問24-4 よりよい活動を進める上で改善が求められていること(求められていたこと)はありますか。

問12 この1年間に近所の困っている方に生活のちょっとした支援(ごみ出しを手伝うなど)をしましたか。

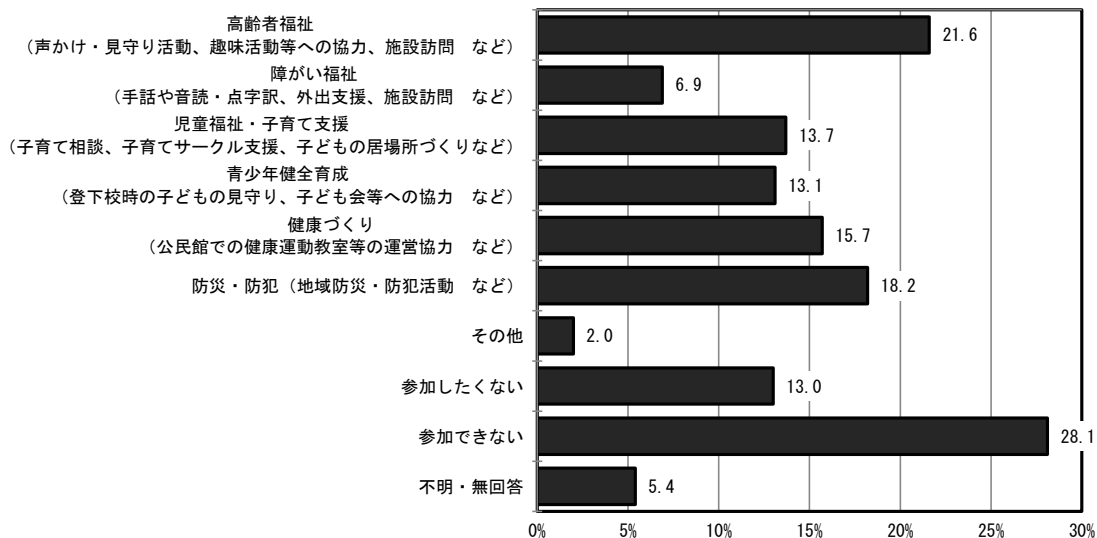
支援の有無別にみると、支援した人では「参加者がなかなか集まらない」が最も高く、支援していない人では「活動に関する情報収集や情報発信する場、機会が少ない」が最も高くなっています。



問25 あなたは、今後、次のような福祉に関わる地域活動やボランティア活動などに参加したいと思いますか。〈複数回答〉

「参加できない」が28.1%で最も高くなっています。次いで「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問 など）」が21.6%、「防災・防犯（地域防災・防犯活動 など）」が18.2%で続いています。

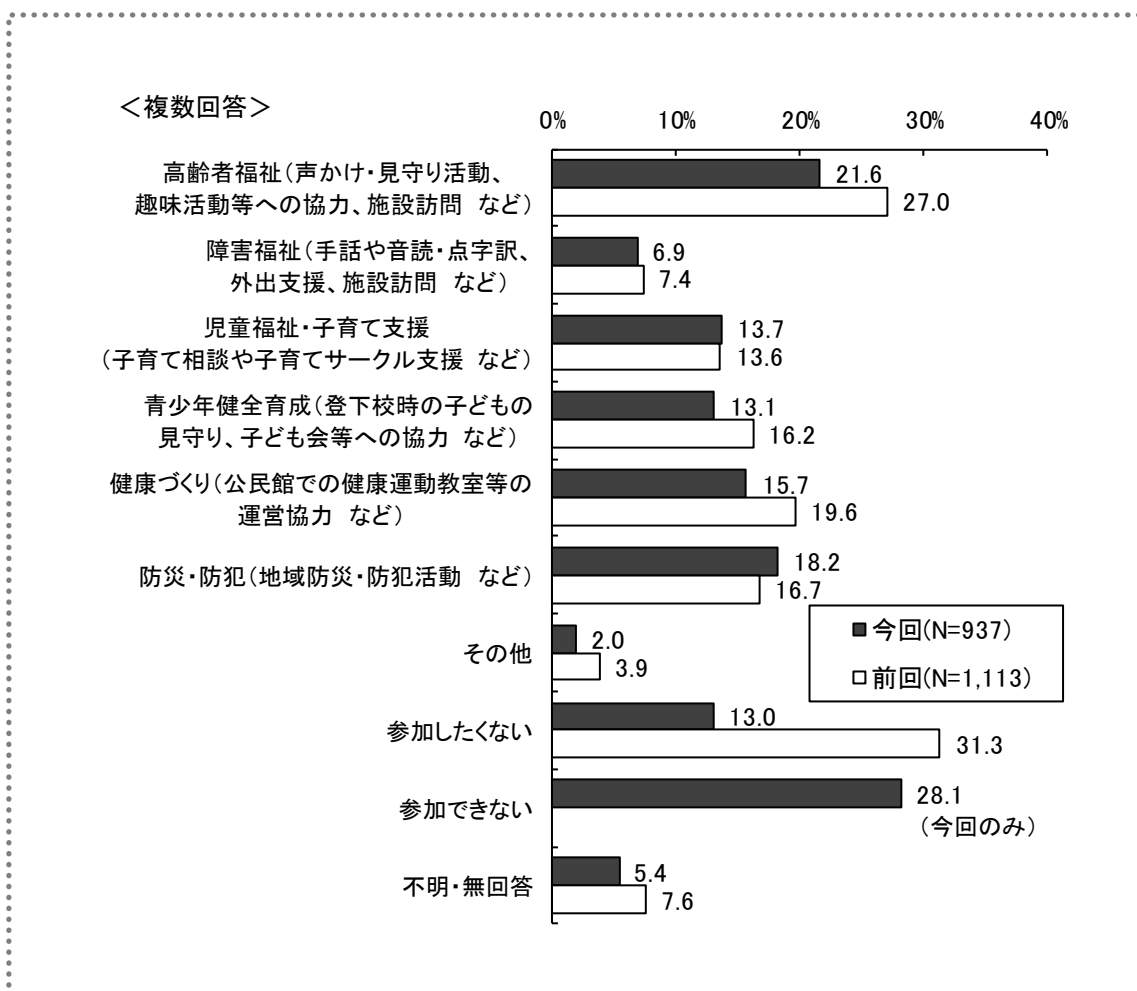
N=937



その他回答

- ・ ボランティア活動というより地域活動としての共存共栄的仕組みの構築は考える
- ・ 今行っていることのを広げたいくらいかな
- ・ 81歳になり、若い時のように活動できない
- ・ 今は子育てで余裕がなく、考えられない
- ・ 90歳以上になる両親の面倒を見ている
- ・ 地域で要請があればできる範囲で
- ・ 余裕がないので考えられない
- ・ 何かには参加してみたい
- ・ 何ができるかわからない
- ・ 買物代行やごみ出し等
- ・ 草刈り等地域の整備
- ・ 災害ボランティア
- ・ 被災地支援活動
- ・ おはなしの会等

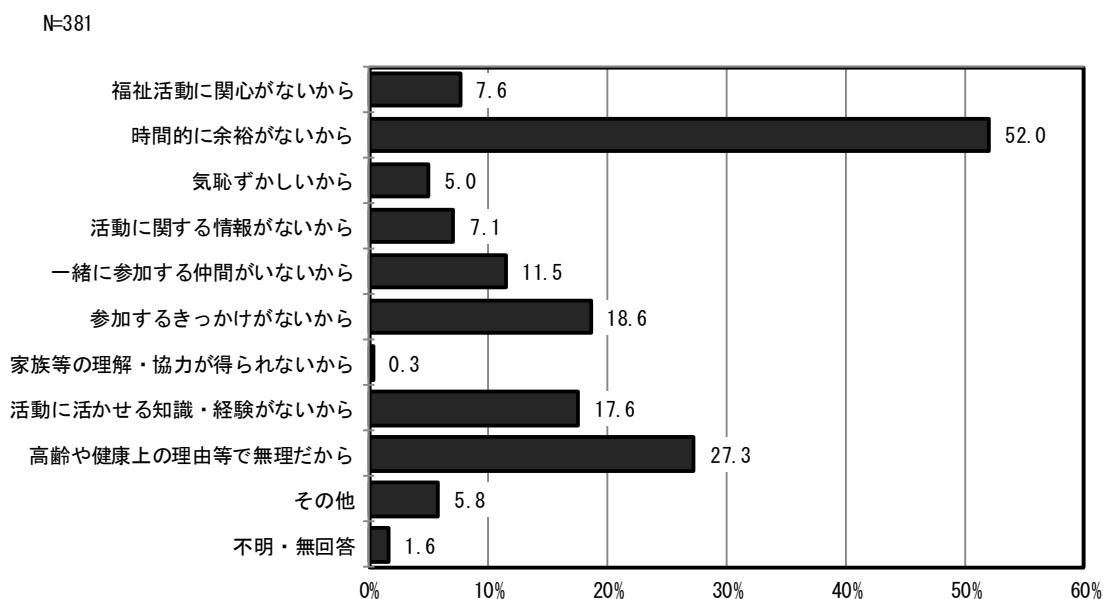
前回調査の結果と比較すると、「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問 など）」で前回調査より約5ポイント減少しており、他の項目と比較して特に減少がみられます。



(問 25 で「8. 参加したくない」、「9. 参加できない」に答えられた方)

問25-1 参加したくない、参加できないのはなぜですか。〈複数回答〉

「時間的に余裕がないから」が 52.0%を占めています。「高齢や健康上の理由等で無理だから」が 27.3%、「参加するきっかけがないから」が 18.6%で続いています。



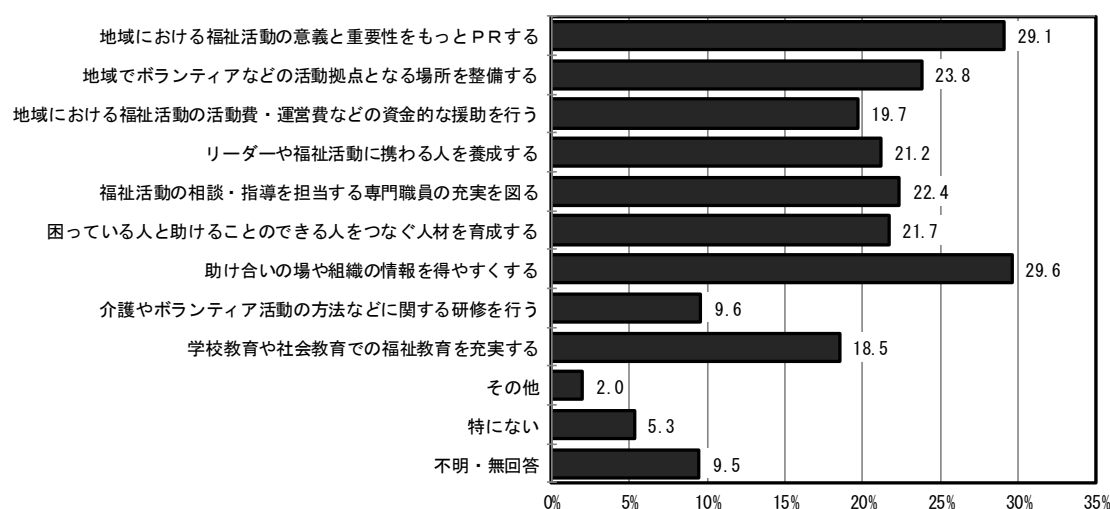
その他回答

- ・魅力がない。校区の活動は要領が悪く、無駄に集まりが多い。イベントがある時、参加者が少ないと、この中から誰か、と参加を促される。人気のないイベントはなくすべき。考えが古い。例えば、地域の運動会。今の時代、ムカデ競争等聞いたことがない。夏祭りの行い方も古いし場所も悪い
- ・自分の知識を活かし、自分のできるボランティアは活発に行っている
- ・一度関わると、余裕を持たなくなった時に投げ出せなくなるから
- ・行政は、ボランティアの当て、ばかりするのはやめてほしい
- ・趣味の手芸をしているので、あまり外に出かけたくない
- ・地域というより、まずお隣りさん同士の関わりが必要
- ・親の障がいが重いから (要介護3)
- ・病気の為、難しいと思う
- ・仕事と自分の親の介護
- ・人と関わりたくない
- ・仕事が忙しい
- ・忙しい為
- ・家庭の事情で余裕がない
- ・気持ちの余裕がないから
- ・現時点では意欲がない
- ・家にいたいから
- ・健康上の事
- ・腰痛

問26 今後、地域における支え合い、助け合い活動を活発化することが重要になってきます。そのためには、どのようなことが重要だと思いますか。〈複数回答〉

「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」が 29.6%で最も高くなっています。次いで「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が 29.1%、「地域でボランティアなどの活動拠点となる場所を整備する」が 23.8%で続いています。

N=937



その他回答

- ・良くわからない (3)
- ・企業にスポンサーになってもらい、福祉活動する上で必要な物の提供をうける。人手不足は物で補う。見返りに市のホームページなどのスペースに企業名や製品情報をのせる。相互メリットをはかる
- ・枠組みや線引きにとらわれない、地域の人々を繋ぐファシリテーター(リーダーではなく)の存在と、地域の人々の中から生まれる課題と、その解決に向けた場づくり
- ・日本人にはボランティア精神が少ない。自己中心に生きている人間が多い
- ・消防団活動のPR、地域の若い人が参加したいと思える体制づくり
- ・お互いに温かい心をもつ。それのみだと思う
- ・誰でも使用しやすいような仕組みをつくる
- ・地域ではなく、市が主導して何かをすべき
- ・個人個人の人との交流を活発にする
- ・家庭での教育
- ・地域で優れた人材を発掘すること
- ・行政に期待できないから
- ・市の金銭的援助
- ・近所の声かけ

【クロス集計】

問26 今後、地域における支え合い、助け合い活動を活発化することが重要になってきます。そのためには、どのようなことが重要だと思いますか。

○ あなたの年齢は、何歳ですか。

20歳代から40歳代では「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」、50歳代から70歳以上では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が最も高くなっています。

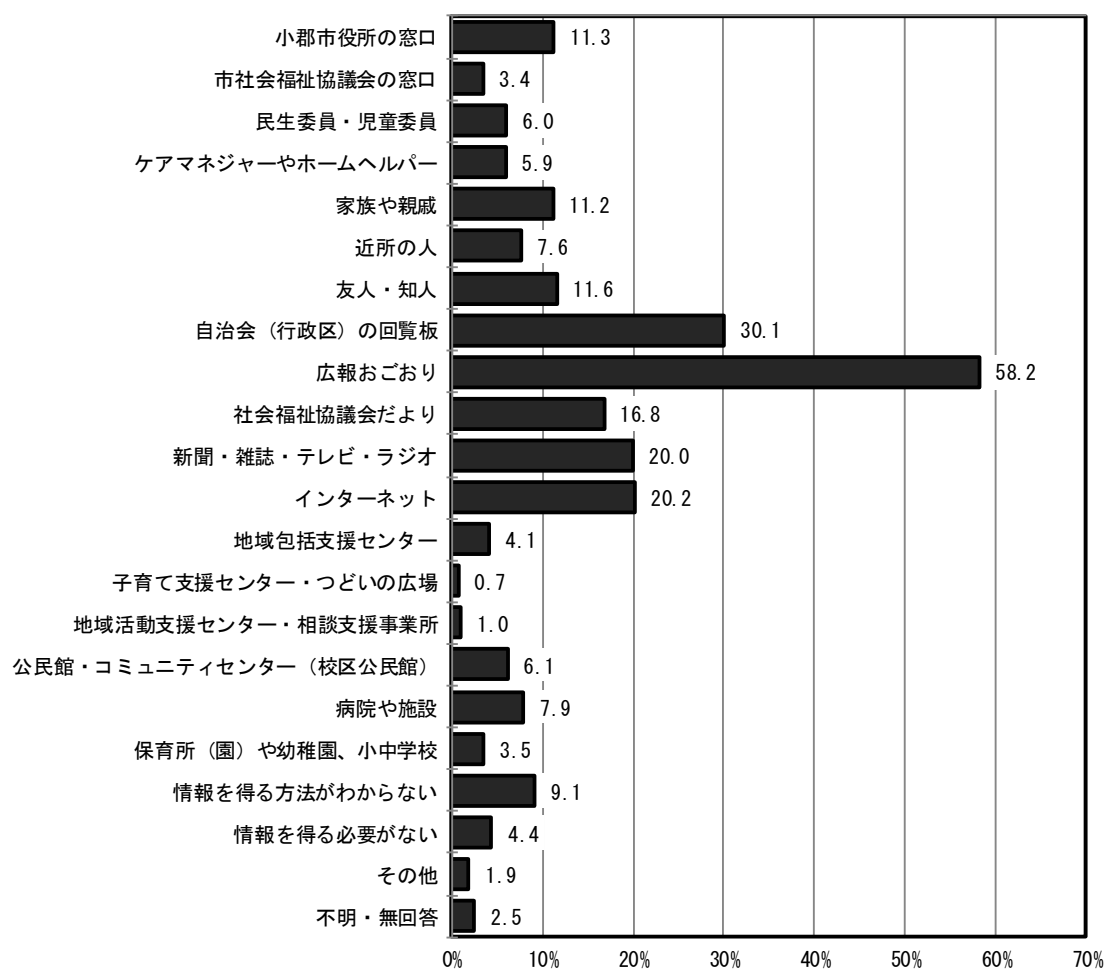
問26 地域における 活動を活発化 するために 重要なこと	地域における福祉活動の 意義と重要性をもっとPRする	地域でボランティアなどの 活動拠点となる場所を整備する	地域における福祉活動の活動費・ 運営費などの資金的な援助を行う	養成する リーダーや福祉活動に携わる人を	専門職員の充実を図る	福祉活動の相談・指導を担当する	困っている人と助けることのできる 人をつなぐ人材を育成する	助け合いの場や組織の情報を 得やすくする	助け合いの場や組織の情報を 得やすくする	介護やボランティア活動の方法 などに関する研修を行う	学校教育や社会教育での 福祉教育を充実する	その他	特にな い	不明・無 回答
20歳代 (N=75)	26.7	21.3	20.0	20.0	14.7	24.0	49.3	6.7	28.0	2.7	5.3	6.7		
30歳代 (N=103)	24.3	29.1	24.3	24.3	23.3	21.4	32.0	8.7	20.4	1.0	4.9	5.8		
40歳代 (N=140)	23.6	29.3	22.1	15.7	25.7	19.3	34.3	11.4	22.9	1.4	4.3	8.6		
50歳代 (N=179)	30.7	27.9	25.1	26.3	23.5	23.5	27.9	13.4	23.5	3.4	3.4	6.1		
60歳代 (N=199)	29.6	20.1	12.6	18.1	21.1	23.1	27.1	8.0	12.6	3.0	9.0	10.6		
70歳以上 (N=219)	35.2	19.6	19.2	23.3	22.8	20.5	22.8	8.7	12.3	0.9	3.7	13.2		

6. 福祉サービスについて

問27 あなたは、現在「福祉サービス」に関する情報を主にどこから(どのようにして)入手していますか。〈複数回答〉

「広報おごおり」が 58.2%を占めています。「自治会（行政区）の回覧板」が 30.1%、「インターネット」が 20.2%で続いています。

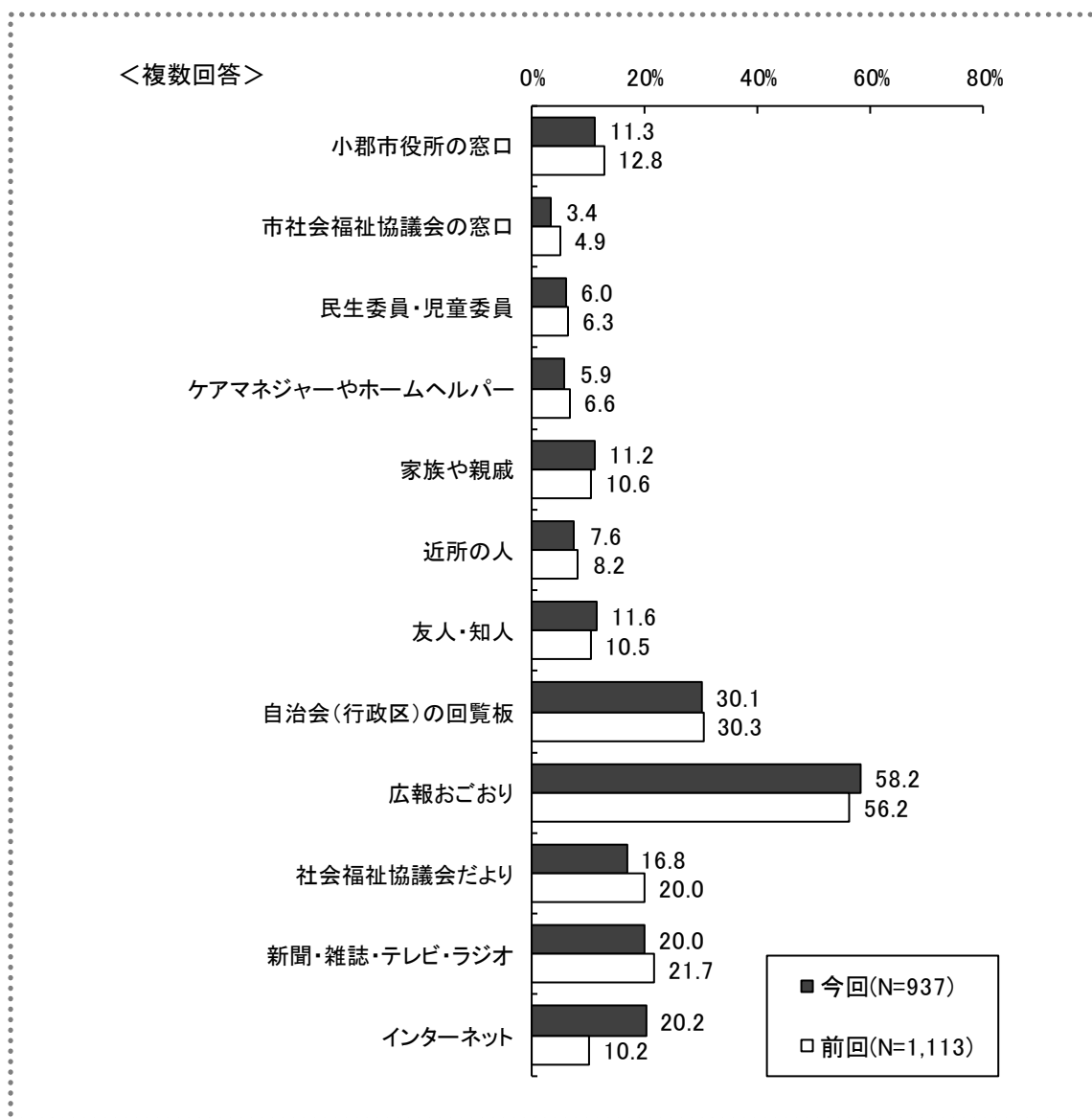
N=937



その他回答

- ・情報は伝わっている。市の活動は消極的かつ受け身のようだ。責任者の方の職務責任を問いたいし、疑問を感じている
- ・現在は在職中でなかなか時間が取れないが、来年の3月に退職するので、それからの活動となる
- ・グリーンコープの活動
- ・サポネットおごおり
- ・生涯学習センター等
- ・良くわからない
- ・学校
- ・もっと数を多くすべき
- ・仕事の中での関わり
- ・卒業した専門学校
- ・図書館
- ・妻

前回調査の結果と比較すると、ほとんどの項目で大きな変化は見られませんが、「インターネット」と回答した人の割合は10ポイント増加しています。



※選択肢の項目はいくつか割愛しています。

【クロス集計】

問27 あなたは、現在「福祉サービス」に関する情報を主にどこから(どのようにして)入手していますか。

○ あなたの年齢は、何歳ですか。

年齢別にみると、ほとんどの年代で「広報おごおり」が最も高くなっていますが、若年層においては「インターネット」も高くなっており、特に20歳代では最も高くなっています。

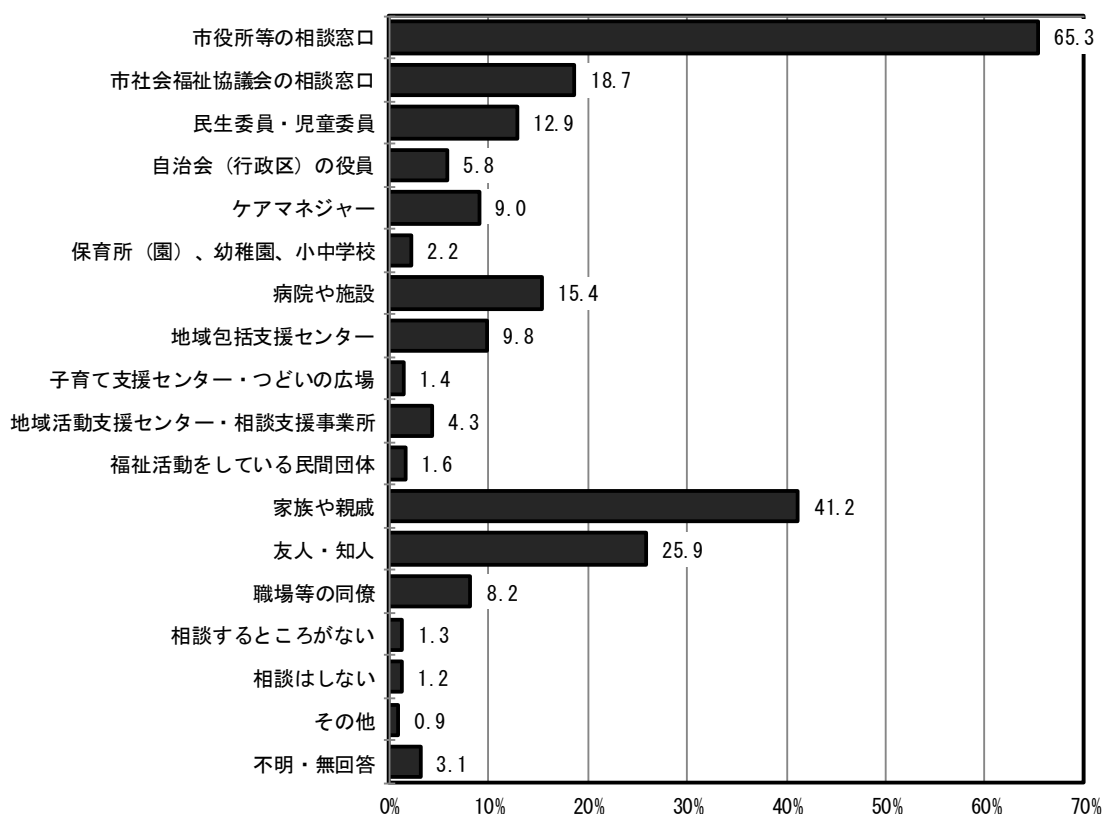
問27 情報の 入手先 年齢	小郡市役所の窓口	家族や親戚	近所の人	友人・知人	回覧板 自治会 (行政区) の	広報おごおり	社会福祉協議会 だより
20歳代(N=75)	10.7	17.3	2.7	9.3	6.7	37.3	2.7
30歳代(N=103)	12.6	16.5	6.8	6.8	26.2	53.4	4.9
40歳代(N=140)	5.7	9.3	6.4	12.9	26.4	62.9	13.6
50歳代(N=179)	12.8	7.8	5.6	10.1	26.8	62.0	18.4
60歳代(N=199)	13.6	8.0	5.5	11.6	34.7	59.8	17.6
70歳以上(N=219)	11.0	13.2	13.2	15.5	41.6	61.6	26.5
問27 情報の 入手先 年齢	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	インターネット	病院や施設	園、保育所(園)や幼稚園、小中学校	わからない 情報を得る方法が	ない 情報を得る必要が	
20歳代(N=71)	10.7	40.0	2.7	0.0	17.3	14.7	
30歳代(N=77)	6.8	31.1	6.8	14.6	18.4	2.9	
40歳代(N=95)	15.0	35.7	5.0	6.4	9.3	5.0	
50歳代(N=148)	21.8	22.9	8.4	1.1	6.7	3.9	
60歳代(N=154)	20.1	11.6	9.5	1.0	7.5	4.0	
70歳以上(N=149)	32.0	3.2	10.0	1.4	4.6	1.8	

※集計項目についてはいずれかの年代で1つでも10%以上となる項目のみを抜粋している。

問28 あなた自身やご家族が、生活上の困りごとを抱えたときや「福祉サービス」の利用が必要となったとき、どこ(誰)に相談しますか。〈複数回答〉

「市役所等の相談窓口」が 65.3%を占めています。「家族や親戚」が 41.2%、「友人・知人」が 25.9%で続いています。

N=937

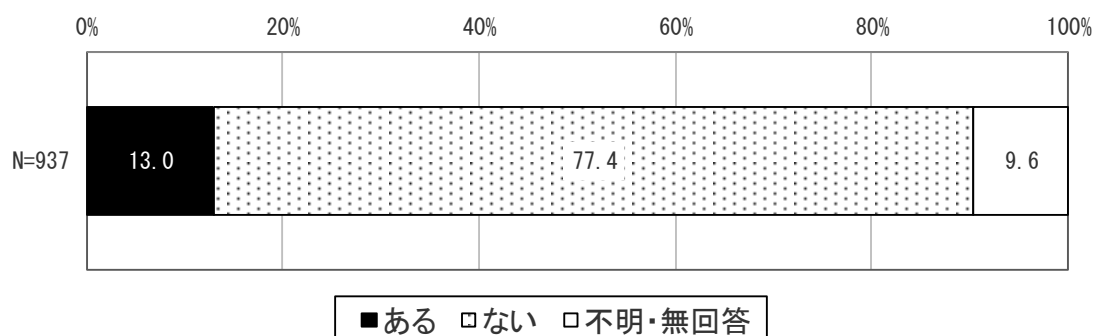


その他回答

- ・相談するところがない。市役所関係は相談する前に断られる
- ・以前②に相談したが何もしてくれなかった(12年前)
- ・相談したが相手にしてくれなかった
- ・故郷(県外の病院施設)
- ・教会が一番助けになる
- ・サポネットおごおり
- ・インターネット
- ・良くわからない

問29 あなた自身やあなたのご家族は、これまでに、「福祉サービス」の利用に際して不都合を感じたり、不満に思ったりしたことがありますか。〈単数回答〉

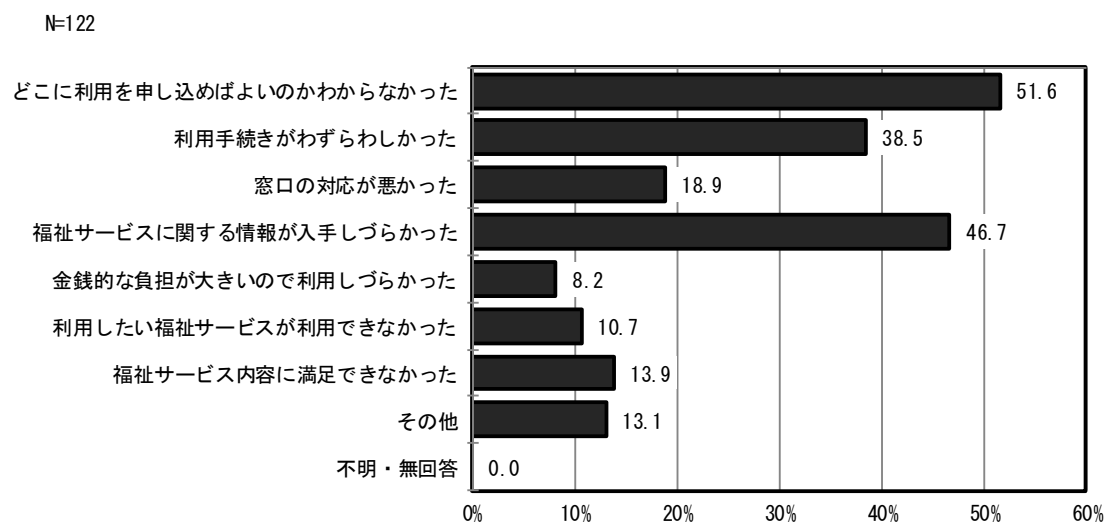
「ない」が77.4%で突出しています。



(問29で「1. ある」に答えられた方)

問29-1 不都合を感じたり、不満に思ったりしたことはどのようなことですか。〈複数回答〉

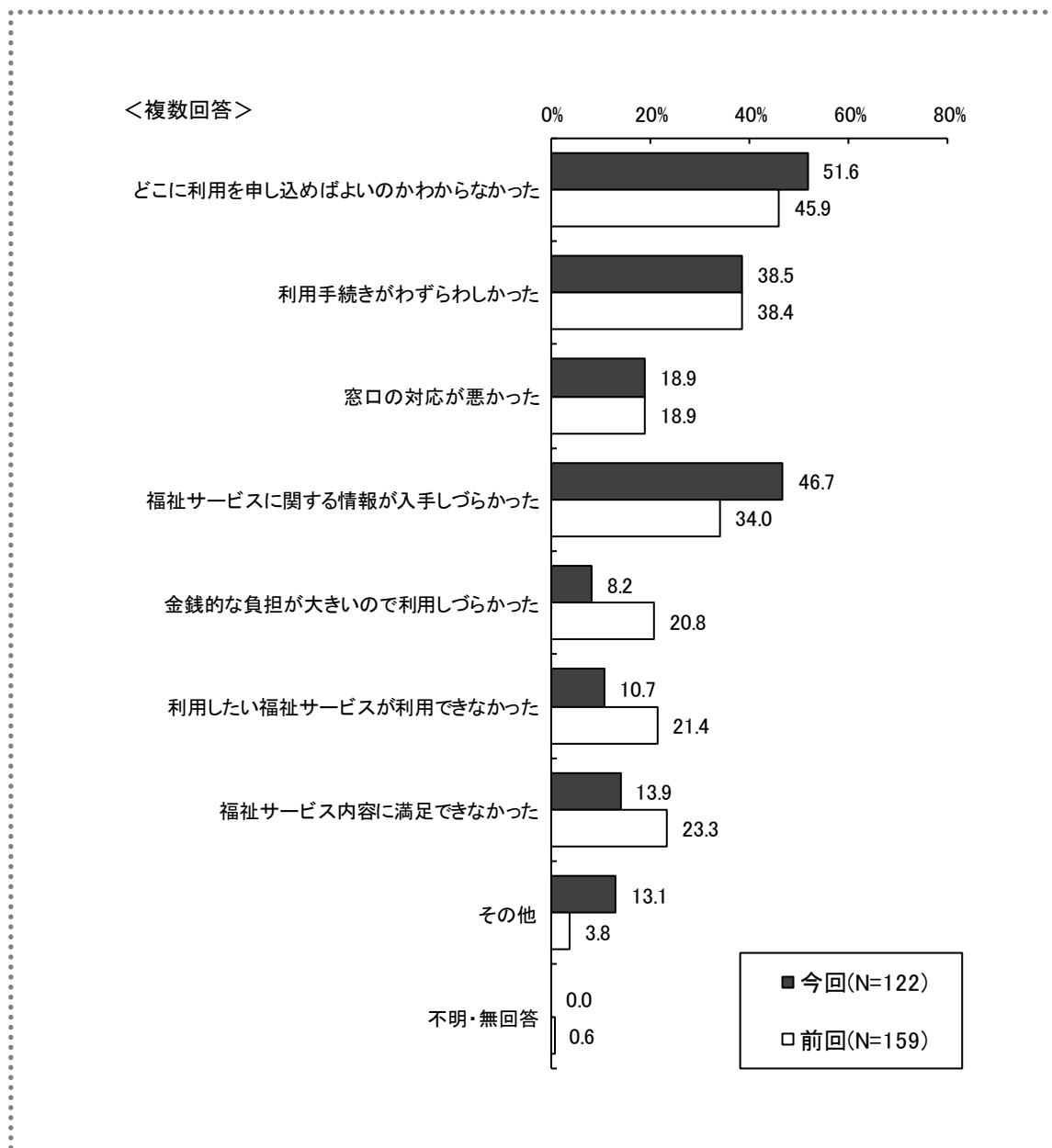
「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」が51.6%を占めています。「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」が46.7%、「利用手続きがわずらわしかった」が38.5%で続いています。



その他回答

- ・利用したことがない（3）
- ・かかりつけ医が勝手に検査をして、認知症だと分かったにも関わらず、家族にも本人にも何も言わず、放置したまま月日が経過し、介護申請が遅くなった。結果、福祉サービスを受けられないまま進行し、けがをする事態になった。救急病院の対応も認知症の人には大変冷たかった
- ・あすてらすのプール利用で、昼間の時間利用ができない。時間の使い方が公務員的で、なぜ通して利用できないのか。使用者の利便性を考えていない（昼食時間に閉める）
- ・どのようなサービスの対象になるのか、こちらから聞かないと教えてくれない。こういうものがあります、と提案してもらうことはできないのか
- ・同居している義母は運転免許がなく自由に外出もできない。100円バスはあるけれど時間が不便で利用する意味がないと言っている
- ・北別館は相談にのってくれ親切であったが、本館窓口はけんもほろろの対応で、課を解散した方が良くと思う
- ・市役所の対応が悪い。苦情を言うと対応が変わる。相手を見て対応を変えている
- ・受けられるサービスや内容について良く分かっていない
- ・全体的に難しい。介護にお金がかかって大変だった
- ・馬鹿にされて、まともに聞いてくれなかった
- ・手続きが複雑な上に時間がかかりすぎる
- ・福祉サービスを利用したことがない
- ・福祉サービスを受ける条件
- ・市役所まで遠い
- ・どのようなサービスがあるか知らない
- ・福祉の制度に疑問を持つことがある
- ・何もしてくれなかった

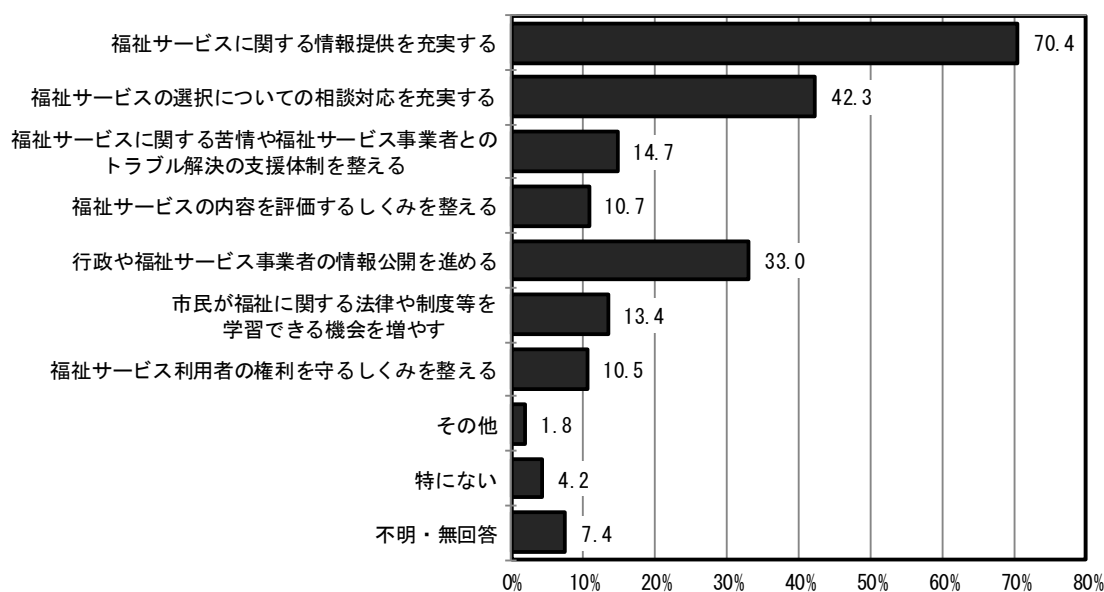
前回調査の結果と比較すると、「金銭的な負担が大きいので利用しづらかった」「利用したい福祉サービスが利用できなかった」「福祉サービス内容に満足できなかった」と回答した人の割合が大きく減少している一方、「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」はおよそ13ポイントと大きく増加しています。



問30 福祉サービス利用者が、自分に最適な「福祉サービス」を選び、安心して利用するために、市はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。
〈複数回答〉

「福祉サービスに関する情報提供を充実する」が70.4%で突出しています。

N=937



その他回答

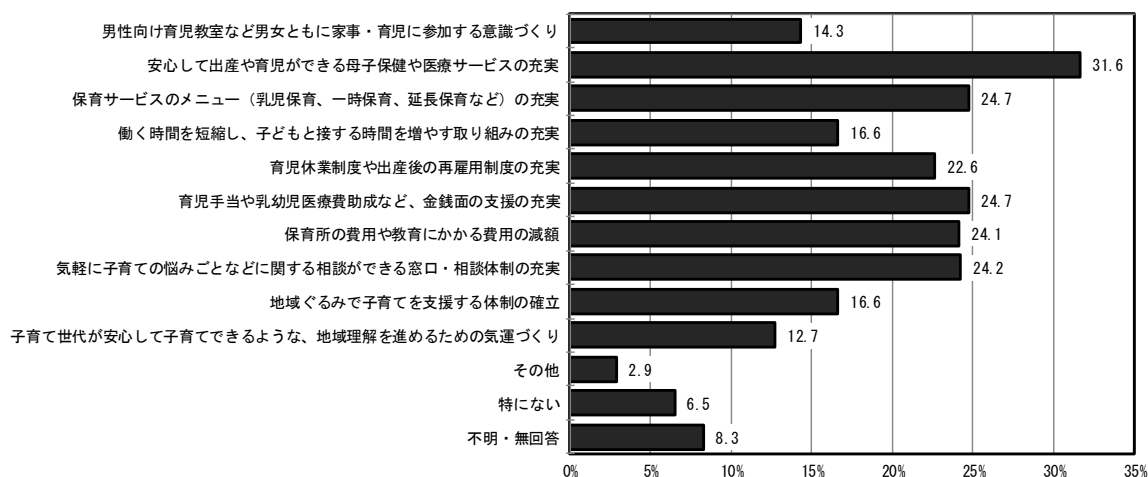
- ・よくわからない (3)
- ・ケアマネージャーや介護士など、不足しているところを補う必要がある。辞めていくのを阻止したい
- ・担当の職員が仕事として真剣に考え、職務を全うすること。市民の立場に立って考えること
- ・評価者の知識・技術の向上、机上の評価を行わず現状確認をすること
- ・市は民生委員さん等に、情報をもっと幅広く詳しく要求する
- ・窓口での対応を親切にできるよう、職員の教育をする
- ・求めているサービスが利用できる環境づくり
- ・現在は老人だが、まだ何とか動けているから
- ・市が住民に任せず、積極的に関りをもつ
- ・もっとしっかり勉強し対応してほしい
- ・目安箱的なものを各施設に設置する
- ・福祉サービスの充実
- ・福祉施設を増やす

7. これからの福祉のあり方について

問31 子どもたちやその家族が住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。〈複数回答〉

「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスの充実」が 31.6%で最も高くなっています。次いで「保育サービスのメニュー（乳児保育、一時保育、延長保育など）の充実」、「育児手当や乳幼児医療費助成など、金銭面の支援の充実」が 24.7%、「気軽に子育ての悩みごとなどに関する相談ができる窓口・相談体制の充実」が 24.2%で続いています。

N=937

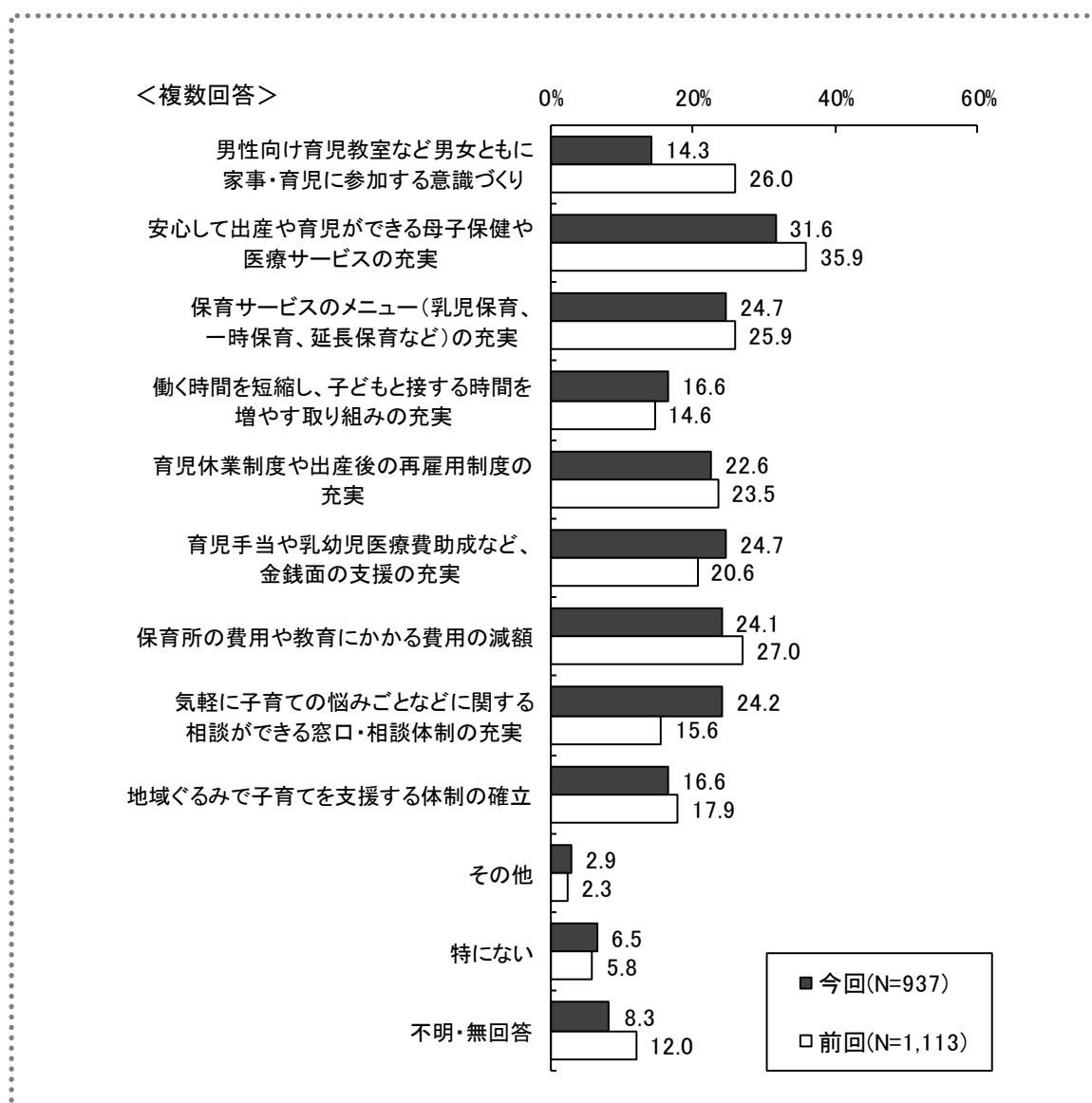


その他回答

- ・よくわからない（2）
- ・学童を市役所運営にしてほしい。働きながら預けているのに、学童の役員は負担になる（特に一人親家庭においては負担が大きい）
- ・市民との風通りの良さをつくる為には、目安箱が安上がりで良いのでは。あとはその受入れ体制をどうつくるのか
- ・権利のバランス（過保護ともいえる権利の乱用はそれを恐れて周りの人が手出しできなくなる）
- ・短時間でも自由に働ける場所づくり。子どもが病気をしても、気負いなく働ける場所
- ・保育所を増やす、もしくは受け入れ人数を増やす。保育士の給与を上げる
- ・子どもの数が少ないので、多くの若い世代が住みたいと思う町づくり

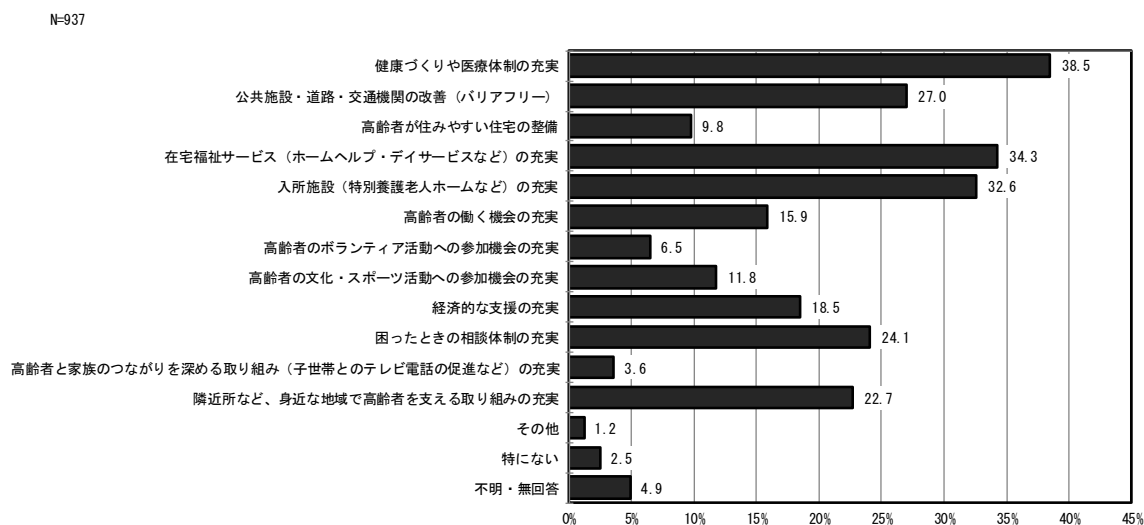
- ・福祉に頼る前に、夫婦の親、兄弟姉妹、身内に頼ることも
- ・乳幼児の病気（発熱等）でも預かりが可能な施設の整備
- ・お金のかかりだす高校、大学への支援金などの充実
- ・保育所の待機児童がなくなるようにしてほしい
- ・市職員と臨時職員の格差がありすぎる
- ・生徒数が多い学校への加配教員の確保
- ・障がいのある子どもへのサービスの充実
- ・中高生の日常的な学習指導の充実
- ・家事への過小評価の見直し
- ・祭り

前回調査の結果と比較すると、「男性向け育児教室など男女ともに家事・育児に参加する意識づくり（前回：男女ともに家事・育児に参加する意識づくり）」がおよそ12ポイント減少している一方、「気軽に子育ての悩みごとなどに関する相談ができる窓口・相談体制の充実」はおよそ9ポイント増加しています。



問32 高齢者の人たちが住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。〈複数回答〉

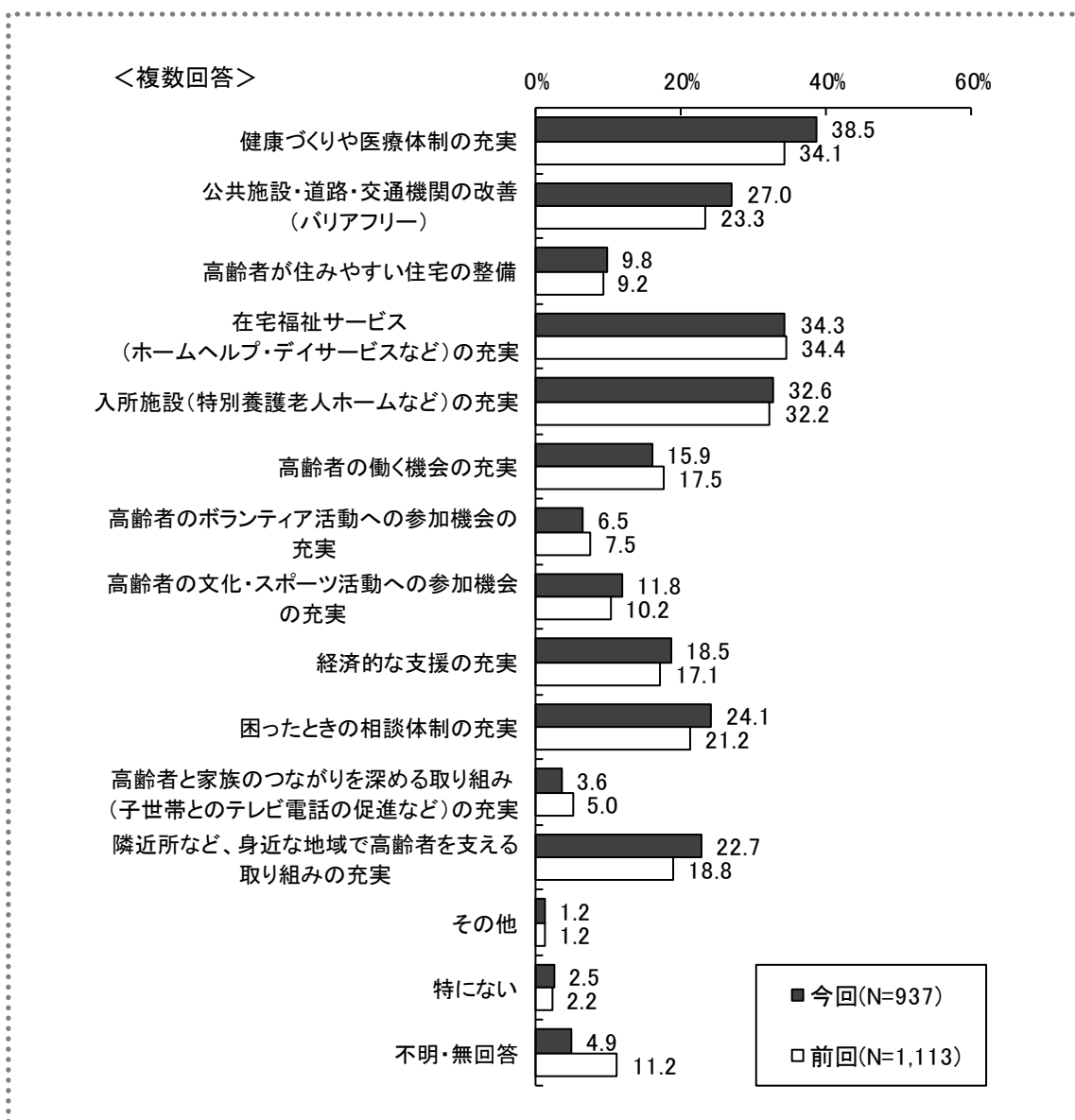
「健康づくりや医療体制の充実」が38.5%で最も高くなっています。次いで「在宅福祉サービス（ホームヘルプ・デイサービスなど）の充実」が34.3%、「入所施設（特別養護老人ホームなど）の充実」が32.6%が続いています。



その他回答

- ・在宅福祉サービスが存在していることを知っている人は多くなってきているので、在宅福祉サービスから、医療や必要なサービスに繋ぐ仕組みを充実させていく
- ・あすてらすの中に健康増進の為の器具をもう少しほしい。人口が多い三国校区にもプール等を作ってほしい
- ・基山町や大野城市のような、スポーツジムではないが、安価で健康を保つ施設づくり
- ・各地区に高齢者がいつでも集える場所があれば、孤立しなくて良いと思う
- ・認知症など、高齢者がかかりやすい疾病の症状などの周辺住民の知識拡充
- ・交通手段（バス等）の充実。個人ではどこへも行けない
- ・食生活の充実をどのように取り組むべきか
- ・生活支援（買物、通院等）、話し相手
- ・市民農園の拡大、高齢者の趣味の為
- ・外出する為の足が必要
- ・安楽死制度
- ・環境整備

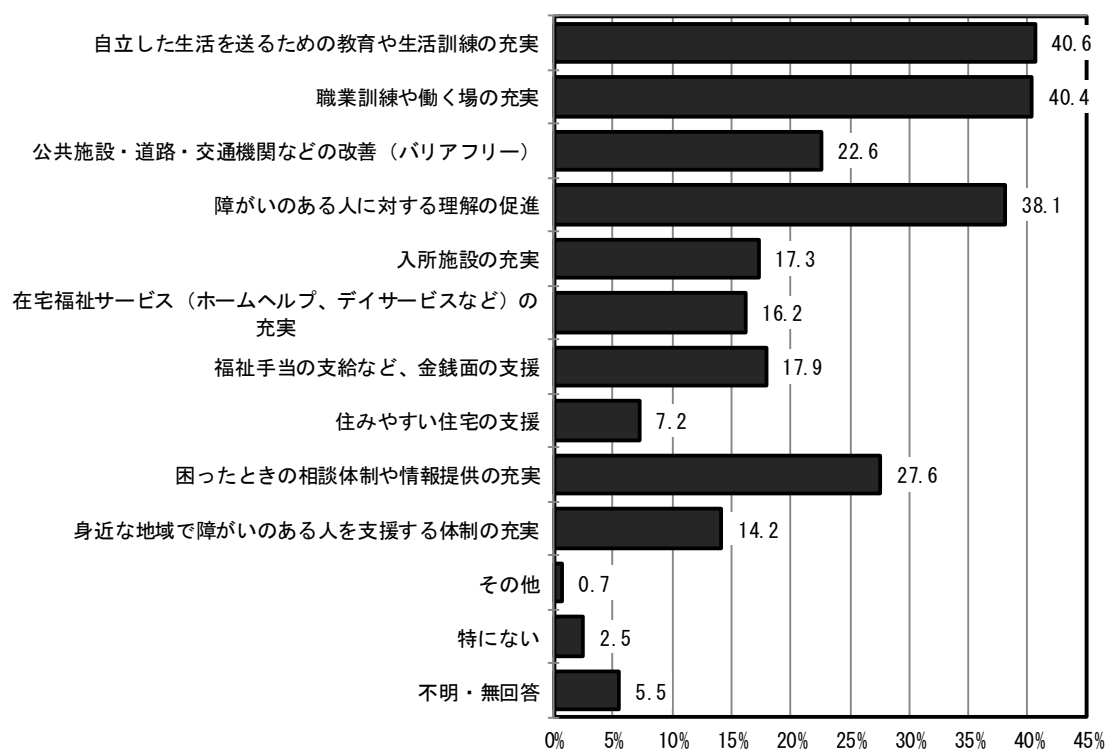
前回調査の結果と比較すると、「健康づくりや医療体制の充実」「公共施設・道路・交通機関の改善（バリアフリー）」「隣近所など、身近な地域で高齢者を支える取り組みの充実」で前回調査より約4ポイント増加がみられます。



問33 障がいのある人たちが住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。〈複数回答〉

「自立した生活を送るための教育や生活訓練の充実」が40.6%で最も高くなっています。次いで「職業訓練や働く場の充実」が40.4%、「障がいのある人に対する理解の促進」が38.1%で続いています。

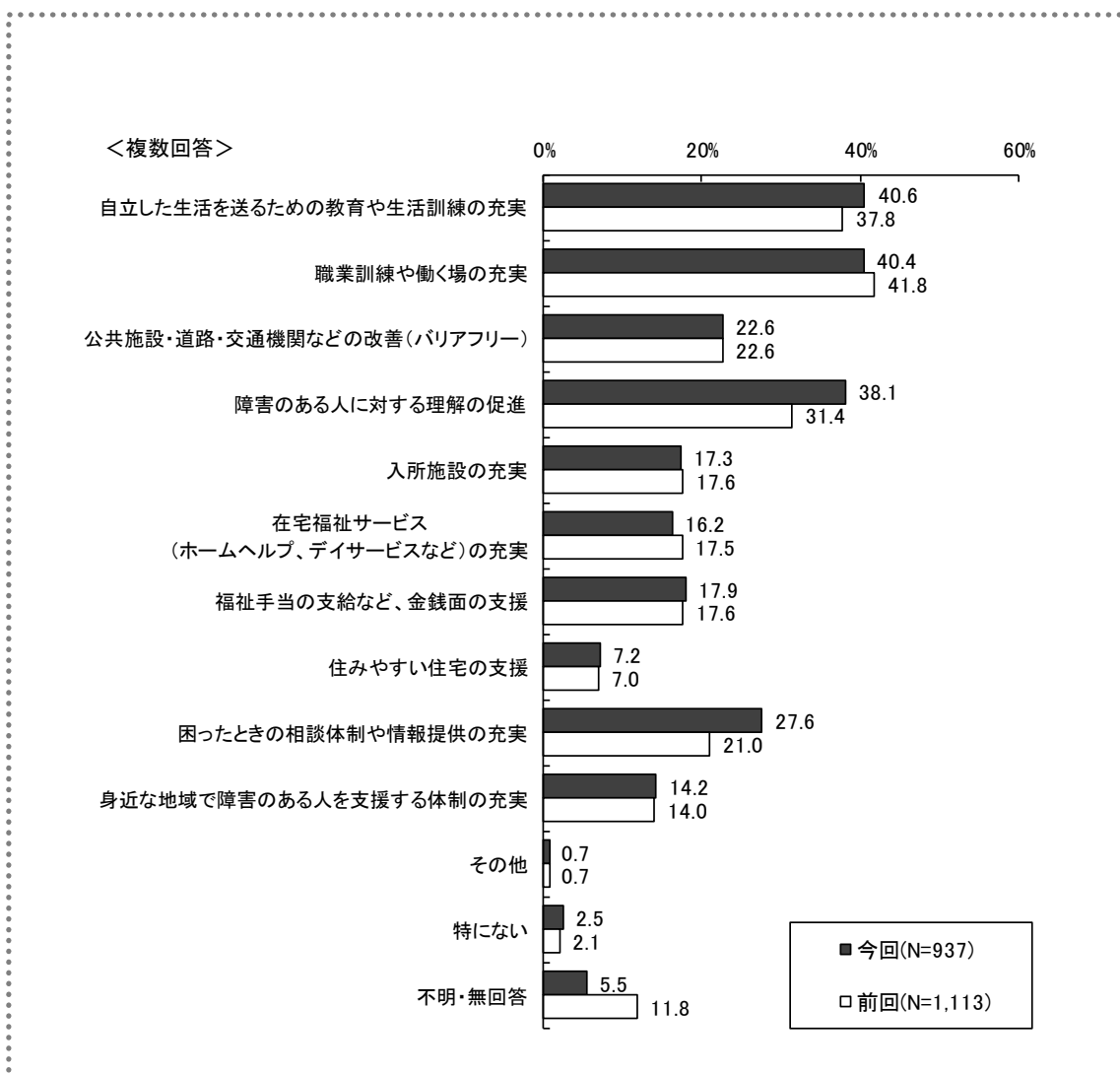
N=937



その他回答

- ・障がい児、者施設に入所させている家族への給付金が多いと思う。在宅でみている家族へは手厚い金額を給付する必要があると思うが、施設入所させている家族は、余ったお金はポケットマネーになっていることが多い現状である
- ・障害があることが別に不思議なことではないという周囲の認識 (具体的でなくすみません)
- ・学校等での交流で、子どもたちにみんな同じという目をもってもらえるようにする
- ・障がい者の能力で対応できる仕事 (対価をそろえる) の創出
- ・選択が3つまででは、住み良い町はつukれない。全てが大事
- ・市役所の方の丁寧な対応
- ・よくわからない
- ・生活支援

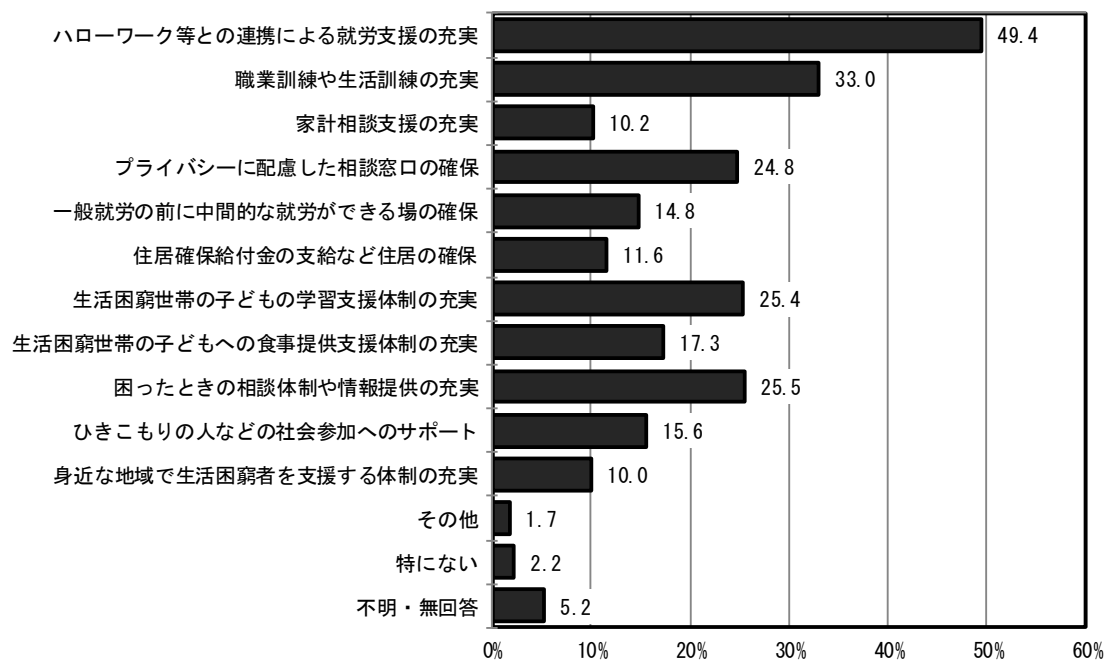
前回調査の結果と比較すると、ほとんどの項目で大きな差はみられませんが、「障害のある人に対する理解の促進」「困ったときの相談体制や情報提供の充実」については前回調査より約7ポイント増加がみられます。



問34 生活困窮者が自立するため、また継続して自立した生活を営めるようにするために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。〈複数回答〉

「ハローワーク等との連携による就労支援の充実」が49.4%で最も高くなっています。次いで「職業訓練や生活訓練の充実」が33.0%、「困ったときの相談体制や情報提供の充実」が25.5%で続いています。

N=937



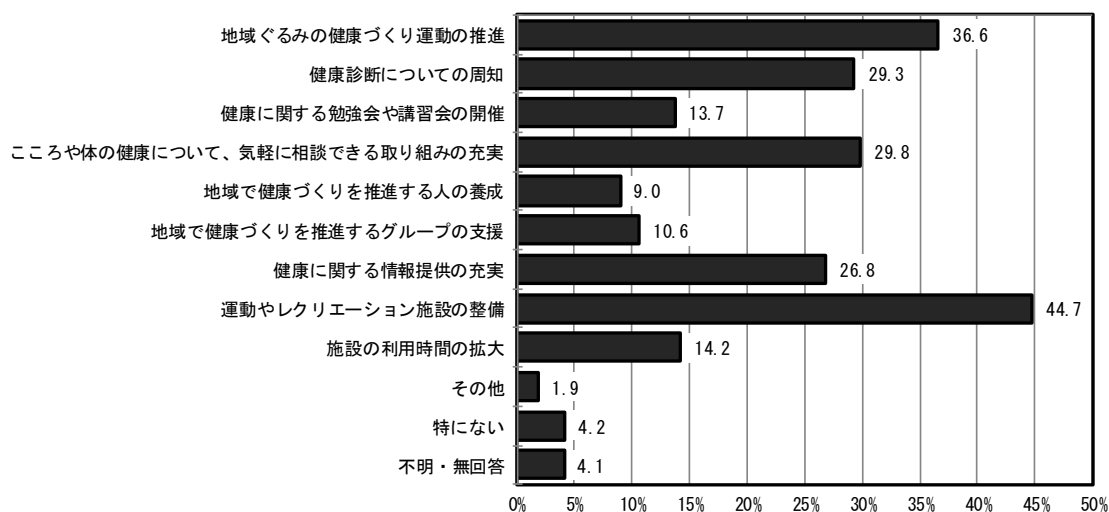
その他回答

- ・選択が3つまででは、自立できない。色々なこと全てで見守りが必要だと思う
- ・認定制度の適正な運用、将来必要な人に対する適用、審査の厳格化
- ・生活保護受給者の認定基準の明確化、厳格化をしてほしい
- ・自活できる者は仕事する意識をもたせる教育の充実
- ・生活困窮世帯の親を精神的に支援する体制の充実
- ・個別に対応できる相談員（専門家）体制整備
- ・低賃金労働者（派遣社員など）をなくす
- ・働かせる環境づくり、依存させない
- ・市が主導して相談にのる
- ・子どもは日本の宝である
- ・初等教育の充実
- ・地域振興的支援
- ・わからない

問35 地域で健康づくりを進めていくために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。〈複数回答〉

「運動やレクリエーション施設の整備」が44.7%で最も高くなっています。次いで「地域ぐるみの健康づくり運動の推進」が36.6%、「こころや体の健康について、気軽に相談できる取り組みの充実」が29.8%で続いています。

N=937

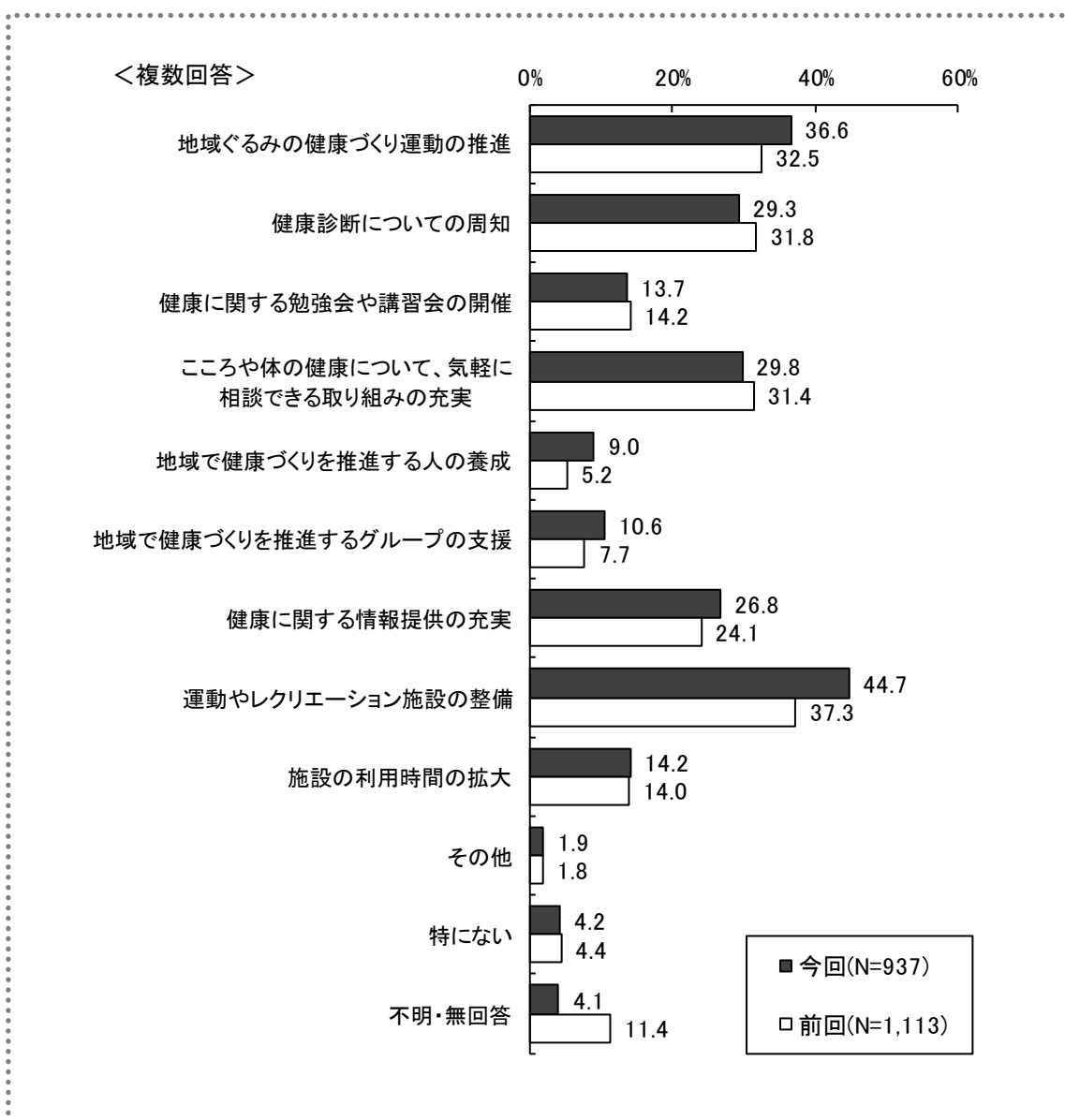


その他回答

- ・なるべく歩くように心がけているが、夏は木陰がない。車道を歩くのに危険で、もっと歩きやすく考えてほしい。家の垣根の枝切りの指導の充実をお考え願いたい。ブロック塀の改修工事も
- ・身近な場所で安心して散歩できる環境づくり。例：自転車の通るところと人が歩くところ 犬の散歩コースなど分かれていて、夜道でも明るく段差が少なく安全にできる道
- ・小郡市北部（希が丘付近）には健康づくりの施設が全くない。税負担をしているのに公平性が保たれていない
- ・深夜まで不必要に開いて営業している店舗を減らす（個人的意見）
- ・ひきこもりの人を社会に復帰させることの支援体制づくり
- ・ウォーキングのため、歩道の整備 除草や穴の補修など
- ・健康のためのプール、筋トレなど参加費の補助
- ・アステラスのジムの土、日の開館時間の延長
- ・個人の状況に寄り添った体操や軽運動のPR

- ・小郡には高齢者が無料で楽しめる施設がない
- ・健康診断の補助が受けられる病院を増やす
- ・やっても参加する人は同じ人になるのでは
- ・地域における健康診断の実施
- ・食生活の充実が大事
- ・健康診断の無料化
- ・わからない
- ・検診の内容を充実させること
- ・運動中の子どもの預り
- ・市民プールがない
- ・祭り

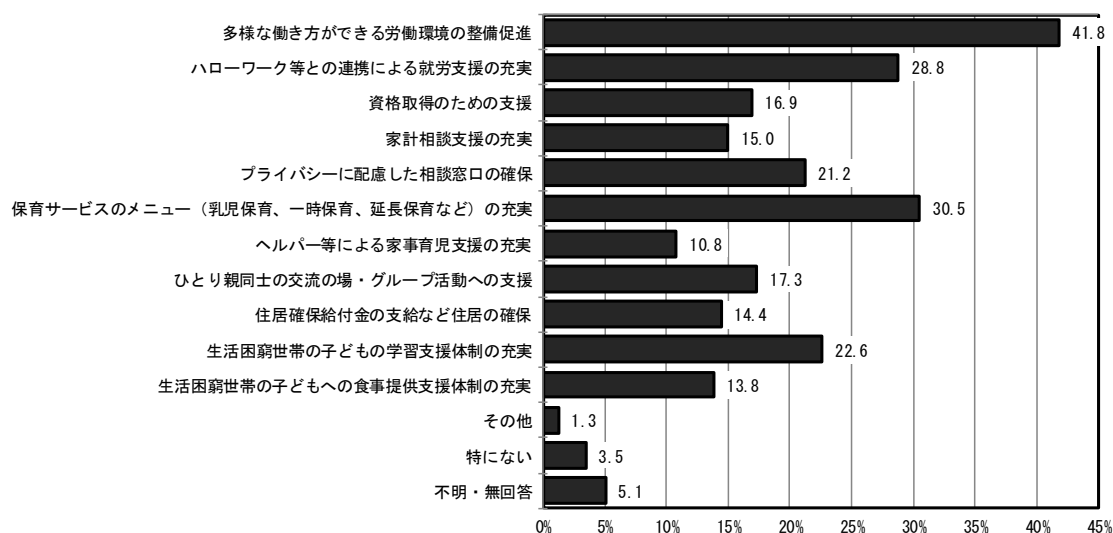
前回調査の結果と比較すると、「運動やレクリエーション施設の整備」において、前回調査より約7ポイント増加がみられます。



問36 ひとり親家庭の人たちが住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。〈複数回答〉

「多様な働き方ができる労働環境の整備促進」が 41.8%で最も高くなっています。次いで「保育サービスのメニュー（乳児保育、一時保育、延長保育など）の充実」が 30.5%、「ハローワーク等との連携による就労支援の充実」が 28.8%で続いています。

N=937



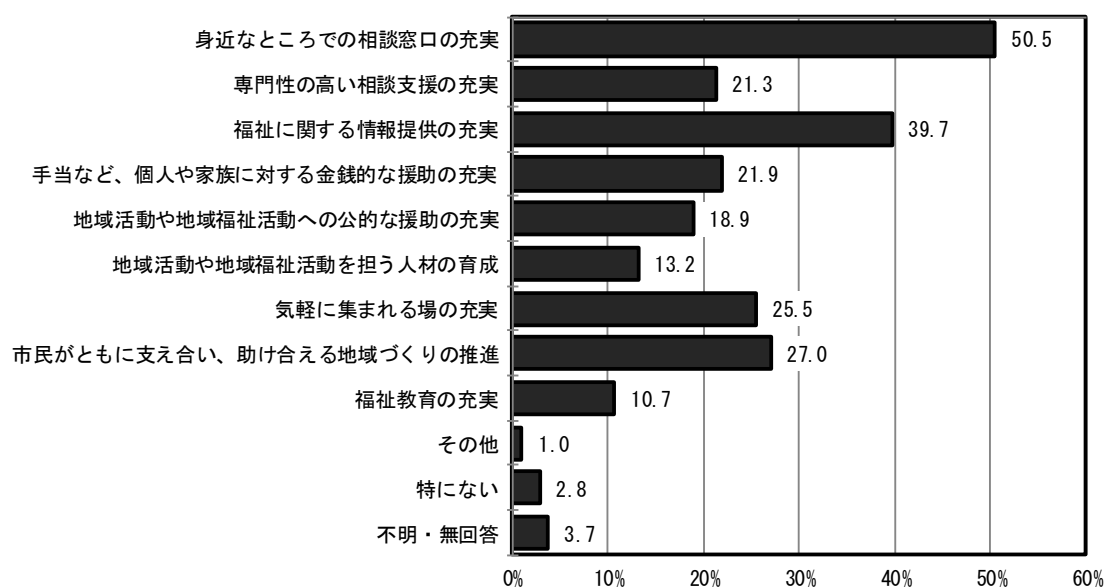
その他回答

- ・一人親家庭に子どもをさせない、親の意識の改善を相談する場の提供。あまり福祉（支援金）が充実しすぎると、一人親世帯が増えるのではないかと。所得が多いと給付金がもらえないからと、労働時間をセーブする親もいる
- ・児童扶養手当の所得上限を増やし、一人親でも頑張っている親への給付、医療費サービスをもっと拡大してほしい。予防接種の助成金を出してほしい
- ・一人親家庭だけが大変、生活困窮ではない。両親がそろっていても大変である。世帯全体の収入で考えるべきだ
- ・選択が3つまででは、住み良い町はつukれない。全てにおいて支援が必要
- ・ご本人たちに聞いてもらうのが一番
- ・生活できる給与を払う職場が必要
- ・思い浮かばない
- ・自立した生活ができるような支援
- ・自立する努力の為の教育
- ・良くわからない

問37 市民が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、どのような福祉のあり方が大切だと思いますか。〈複数回答〉

「身近なところでの相談窓口の充実」が50.5%を占めています。「福祉に関する情報提供の充実」が39.7%、「市民がともに支え合い、助け合える地域づくりの推進」が27.0%で続いています。

N=937

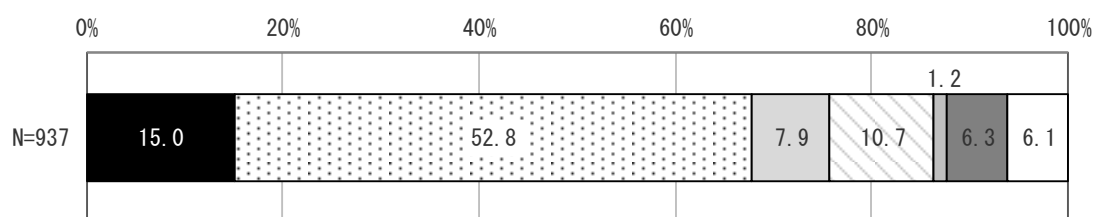


その他回答

- ・福祉についての情報提供は市民にとって伝わっていない。職務怠慢だと思う。意識を改めて下さい。責任者の職責を感じない
- ・市民同士が顔と名前が分かる関係性のある地域を目指す福祉であること
- ・まずは、市職員の意識が必要だと思う。市民への対応等
- ・医・食・住に困らない環境づくり、話し相手づくり
- ・公共交通機関の充実
- ・市民農園の拡大
- ・祭り

問38 私たち一人ひとりが安心して地域のなかで暮らしていくために、市民のひとりとしてあなたができることはどんなことがあるとお考えですか。〈単数回答〉

「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」が52.8%を占めています。「地域活動に積極的に参加する」が15.0%、「まずは家庭内の問題（コミュニケーション不足など）を解決する」が10.7%で続いています。



- 地域活動に積極的に参加する
- できるだけ地域での出来事に関心を持つ
- 学校での行事など、家族に関係ある範囲内の活動には参加する
- まずは家庭内の問題(コミュニケーション不足など)を解決する
- その他
- 特にない
- 不明・無回答

その他回答

- ・ わからない (3)
- ・ 福祉に関心を持ち、近所の困りごとがあり、求められれば協力する。という意識を持つこと。そのため地域に顔をだし、お互いを知ること
- ・ 高齢 (82 歳) で病院通いの為、残念ながら良い小郡市づくりに参加できない。申し訳ありません
- ・ その前に市職員の対応も考えるべきだと思う
- ・ 自分の専門的な分野を地域活動に活かす
- ・ 隣近所のことを知る
- ・ 基本は自己責任で

IV 調査票

おごおりし ちいきふくし かん しみんいしきちょうさ 小郡市の地域福祉に関する市民意識調査

市民の皆さまにおかれましては、日頃から市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

このたび、小郡市・小郡市社会福祉協議会では、「地域での支え合い、助け合いによる福祉(地域福祉)」の推進を目的とした「第2次小郡市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定することになりました。この計画は、さまざまな人たちが協力して提供する福祉サービスの充実や、みんなが進んで参加できる地域福祉活動について示していくものです。

つきましては、市民の皆さまの「地域福祉」に関するご意見をお聴きし、計画づくりに反映していきたいと考えております。なお、この調査は、市内にお住まいの20歳以上の無作為に選んだ2,000名を対象に実施しております。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、趣旨をご理解いただき、皆さまのご意見をお聴かせくださいますようお願い申し上げます。

平成30年10月

小郡市・小郡市社会福祉協議会

ご記入にあたってのお願い

- あて名のご本人がお答えください。ご本人が記入できない場合は、ご家族等がご本人の考えや思いを代理でご記入ください。
- 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。「その他」の回答については、()内に内容を記入してください。
- 氏名や住所は記入しないでください。
- この調査の結果は、すべて統計的に処理され、個別の内容が公表されることはありませんので、思いのままをお答えいただきますようお願い申し上げます。
- ご記入いただいた調査票は、**11月12日(月)**までに、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに投函してください。その際、差出人の名前を書く必要はありません。

【調査に関するお問い合わせ先】

小郡市役所 福祉課地域福祉係 電話：0942-72-2111（代表）／FAX：0942-73-2555

小郡市社会福祉協議会 地域福祉係 電話：0942-73-1120／FAX：0942-72-5694

「地域福祉」とは…

少子高齢化や家族形態の変化にともない、一人ひとりが抱える生活課題も多様化しています。これらに対応するには、個人の努力や行政による福祉サービスだけでは十分でなく、地域でとらえらる私たちが、身近にあるさまざまな福祉ニーズに目をむけ、地域全体で課題の解決に取り組むことが求められています。

私たち一人ひとりが、地域社会の一員であることを認識し、地域とのつながりを大切にしながらお互いができることを持ち寄ること、それが「地域福祉」の考え方です。



小郡市地域福祉計画の基本目標

現在の小郡市地域福祉計画では、次の3つの基本目標に基づいて取り組みを進めています。

福祉サービスを利用しやすい仕組みづくり

誰もが必要なときに適切な福祉サービスを利用できる地域をめざします。そのために、福祉サービスに関する情報提供、相談支援体制を充実させ、サービスを利用しやすい仕組みづくりをすすめます。

安心安全な福祉とくらしを支える基盤づくり

誰もが安心して安全に暮らせる地域をめざします。そのために、福祉サービスの提供体制の充実を図るとともに、地域での助け合いや支え合いの仕組みと体制を整えることで、地域において安心して暮らしていける基盤づくりをすすめます。

みんなが気軽に参加できる環境づくり

誰もが地域福祉活動に参加できる地域をめざします。そのために、学びの機会を提供し地域福祉活動への参加と協力を促すとともに、交流の場を充実させ、ボランティア活動や地域活動の推進を図ることで、社会参加の機会の充実を図る環境づくりをすすめます。

1. あなたご自身じしんについておたずねします。

○ あなたの性別せいべつは？（ひとつだけ○）

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. 男性 <small>おんせい</small> | 2. 女性 <small>じょせい</small> |
|---------------------------|---------------------------|

○ あなたの年齢ねんれいは、何歳なんさいですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|------------------------------|------------------------------|--------------------------------|
| 1. 20歳代 <small>さいだいい</small> | 3. 40歳代 <small>さいだいい</small> | 5. 60歳代 <small>さいだいい</small> |
| 2. 30歳代 <small>さいだいい</small> | 4. 50歳代 <small>さいだいい</small> | 6. 70歳以上 <small>さいじじょう</small> |

○ あなたが住すんでいる小学校区しょうがっこうくはどちらですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|--|--|--|
| 1. 小郡 <small>おごおり</small> 小学校区 <small>しょうがっこうく</small> | 4. 三国 <small>みくに</small> 小学校区 <small>しょうがっこうく</small> | 7. 御原 <small>みはら</small> 小学校区 <small>しょうがっこうく</small> |
| 2. 大原 <small>おおはら</small> 小学校区 <small>しょうがっこうく</small> | 5. のぞみが丘 <small>おかしやま</small> 小学校区 <small>しょうがっこうく</small> | 8. 味坂 <small>あじさか</small> 小学校区 <small>しょうがっこうく</small> |
| 3. 東野 <small>あずまの</small> 小学校区 <small>しょうがっこうく</small> | 6. 立石 <small>たていし</small> 小学校区 <small>しょうがっこうく</small> | |

○ あなたの主な職業おも しよくぎょう なんは何ですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|---|---------------------------------|---------------------------|
| 1. 会社員 <small>かいしゃいん</small> 、団体職員 <small>だんたいしやくいん</small> | 4. 農業等 <small>のうぎょうとう</small> | 7. パート・アルバイト |
| 2. 公務員 <small>こうむいん</small> | 5. 学生 <small>がくせい</small> | 8. 無職 <small>むしよく</small> |
| 3. 自営業 <small>じらいぎょう</small> （農業等 <small>のうぎょうとう</small> を除く） | 6. 家事専業 <small>か しせんぎょう</small> | 9. その他（ ） |

○ あなたの家族構成かぞくこうせいはどのようになっていますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|--|--|
| 1. ひとり暮らし <small>ひとりぐらし</small> （単身 <small>たんしん</small> ） | 4. 三世帯世帯 <small>さんせだいいせだいい</small> （親 <small>おや</small> と子 <small>こ</small> と孫 <small>まご</small> ） |
| 2. 夫婦 <small>ふうふ</small> のみ | 5. その他（ ） |
| 3. 二世帯世帯 <small>にせだいいせだいい</small> （親 <small>おや</small> と子 <small>こ</small> ） | |

○ あなたが現在げんざい一緒に住すんでいるご家族かぞくのなかに、つぎのような人ひと（あなた自身じしんも含まふくみます）はいますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|-------------------------------|--|--------------------------------------|
| 1. 乳幼児 <small>ちゅうようじ</small> | 4. 高校生 <small>こうこうせい</small> | 7. 障がいのある人 <small>しょうがいのあるひと</small> |
| 2. 小学生 <small>しょうがくせい</small> | 5. 65歳以上の人 <small>さいじじょうのひと</small> | 8. いずれもない |
| 3. 中学生 <small>ちゅうがくせい</small> | 6. 介護を必要とする人 <small>かいごをひつようするひと</small> | |

○ あなたは小郡市おごおりしに住すんで何年なんねんになりますか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|---|---|---|
| 1. 1年未満 <small>ねんみまん</small> | 3. 5年以上10年未満 <small>ねんいじょう ねんみまん</small> | 5. 20年以上30年未満 <small>ねんいじょう ねんみまん</small> |
| 2. 1年以上5年未満 <small>ねんいじょう ねんみまん</small> | 4. 10年以上20年未満 <small>ねんいじょう ねんみまん</small> | 6. 30年以上 <small>ねんいじょう</small> |

2. 「福祉」についておたずねします。

問1 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。(ひとつだけ○)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. とても関心がある | 3. あまり関心がない |
| 2. やや関心がある | 4. まったく関心がない |
- 問1-1へ進む
- 問1-2へ進む

問1-1 「福祉」のどのような分野に関心がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 子どもに関する福祉 | 5. ひとり親家庭に関する福祉 |
| 2. 高齢者に関する福祉 | 6. 1～5以外の支援を要する人に対する福祉 |
| 3. 障がいのある人に関する福祉 | 7. その他() |
| 4. 経済的に困窮している人に関する福祉 | |

問1-2 問1でそのように答えた理由を教えてください。

問2 あなたは、地域の福祉課題に対し、住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性についてどう思いますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. とても必要だと思う | 3. あまり必要だとは思わない |
| 2. ある程度必要だと思う | 4. まったく必要だとは思わない |

問3 あなたは、市民が福祉について理解を深めるためには、どのような機会が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 福祉の制度、サービス、考え方や市の現状などについて学ぶこと |
| 2. 介護体験や介護を必要とする人の疑似体験など、体験学習をすること |
| 3. 介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること |
| 4. 手話や点字、介護や育児の方法などの技術を習得すること |
| 5. 市民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること |
| 6. その他() |
| 7. 特に必要なことはない |

3. 社会福祉協議会や民生委員・児童委員についておたずねします。

問4 あなたは、小郡市の社会福祉協議会を知っていますか。(ひとつだけ○)

1. よく知っている 2. 名前だけ知っている 3. 知らない → 問5へ進む
- ↓ 問4-1へ進む

問4-1 あなたが知っている社会福祉協議会の活動はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 認知症の人などの金銭管理や福祉サービスの利用援助(日常生活自立支援事業)
2. 孤立しがちな高齢者などへの見守り訪問や声かけ等(ふれあいネットワーク活動)
3. 心配ごとの相談
4. 低所得者などへの生活資金等の貸付(生活福祉資金等の貸付事業)
5. 福祉バスの運行
6. 生活困窮者の総合的な相談及び支援事業
7. 介護などが必要な人たちが在宅生活を続けていくための支援(在宅福祉支援事業)
8. ボランティア活動の相談や支援などを行うボランティア情報センターの運営
9. 赤い羽根共同募金運動
10. その他()

問5 あなたは、民生委員・児童委員の制度を知っていますか。(ひとつだけ○)

1. よく知っている 2. 聞いたことはある 3. 知らない → 問6へ進む
- ↓ 問5-1へ進む

問5-1 あなたが知っている地域福祉に関する民生委員・児童委員の活動はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 日常生活についての悩みや心配ごとの相談 | 4. 子どもに関する相談 |
| 2. 行政などの福祉サービスに関する情報提供 | 5. その他() |
| 3. 高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問 | 6. 特になし |

問6 あなたは、お住まいの地区を担当する民生委員・児童委員を知っていますか。(ひとつだけ○)

1. よく知っている 2. 名前だけ知っている 3. 知らない

問7 あなたは、お住まいの校区を担当する主任児童委員を知っていますか。(ひとつだけ○)

1. よく知っている 2. 名前だけ知っている 3. 知らない

4. 地域での生活についておたずねします。

問8 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。(ひとつだけ○)

- | | | |
|---|---|---------|
| 1. 困っているとき(病気、悩み、事故など)に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある | → | 問9へ進む |
| 2. たまに立ち話をする程度 | | |
| 3. 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない | → | 問8-1へ進む |
| 4. つきあいがほとんどない | | |

問8-1 つきあいがほとんどないのはなぜですか。(ひとつだけ○)

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1. あまり知らないから | 5. 家族にまかせているから |
| 2. かかわる機会や時間がないから | 6. 人とのつきあいが苦手だから |
| 3. 特に必要を感じないから | 7. つきあいをしたいがどうしたらよいかわからない |
| 4. わずらわしいから | 8. その他() |

問9 あなたは日々の暮らしのなかで、地域の人と会話をしたり、子どもに声をかけたりすることが多くなったと思いますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 以前より多くなった | 3. 特に変わらない |
| 2. 以前より少なくなった | |

問10 この1年間に自分の住む地区の集会所や公民館を利用しましたか。(ひとつだけ○)

- | | |
|---------|------------|
| 1. 利用した | 2. 利用していない |
|---------|------------|

問11 毎日の暮らしのなかでの困りごとはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1. 買い物や通院などの外出が不便 | 7. ごみ出しが困難 |
| 2. 力仕事(家具の移動など)ができない | 8. 近所づきあいがうまくいかない |
| 3. 家事労働(炊事、洗濯など)がきつい | 9. 運動する場所や機会の不足 |
| 4. 庭・畑仕事(草取りなど)ができない | 10. 講習や講演会、サークル活動などの場所や機会の不足 |
| 5. 機械類・電化製品の使い方や修理方法がわからない | 11. その他() |
| 6. 話し相手、遊び相手が少ない | 12. 特にない |

問12 この1年間に近所の困っている方に生活のちょっとした支援（ごみ出しを手伝うなど）をしましたか。（ひとつだけ○）

1. 支援した 2. 支援していない

問13 障がいのある人や認知症の人、妊娠している人などへの声のかけ方、手助けの仕方など、いざという時の知識や技術を身につけたいと思いませんか。（ひとつだけ○）

1. ぜひ身につけたい 3. 特に思わない
2. 機会があれば身につけたい

問14 必要な支援を受けることができず、地域から孤立し、生活上の諸課題を抱えている人たちが、あなたが暮らす地域にどうかを知っていますか。（ひとつだけ○）

1. よく知っている 2. 聞いたことはある 3. 知らない

問15 日々の暮らしのなかで困りごとを抱える人たちから助けの求めがあった時、あなた自身はどう対応したいと思いますか。（ひとつだけ○）

1. 積極的に対応したい
2. できるだけ対応したい
3. 対応したいができれば避けたい
4. かかわりたくないので何もしない
5. その他（ ）

問15-1へ進む

問15-1 そのように考えるのはどのような理由からですか。（ひとつだけ○）

1. 対応したいが忙しいから 5. 時間をさくのが惜しいから
2. 対応したいが家族が反対するから 6. 他人の問題で自分には関係ないから
3. 対応の方法がわからず不安だから 7. 興味が無いから
4. 人とのつきあいが苦手だから 8. その他（ ）

問16 あなたやご家族に助けが必要になった時、どのような支援をしてほしいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. 安否確認の声かけ | 8. ごみ出しの手伝い |
| 2. 心配ごとなどの相談相手 | 9. 急病になった時の看病 |
| 3. 子どもの短時間の預かり | 10. 介護を必要とする人の短時間の預かり |
| 4. 子どもの学習支援 | 11. 災害時の手助け |
| 5. 買い物の手伝い | 12. 日常的な話し相手 |
| 6. 家事の手伝い | 13. その他 () |
| 7. 外出の手伝い | 14. 特にない |

問17 地域での人と人とのかかわりについて、あなたのお考えに近いものをお選びください。

(ひとつだけ○)

- | |
|------------------------------|
| 1. 心から打ち解け合える関係を築きたい |
| 2. 隣近所の人とはつきあいを大切にしたい |
| 3. 地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい |
| 4. 他人の協力は期待していない(自分のことは自分です) |
| 5. 地域の人や隣近所の人とはかかわりを持ちたくない |
| 6. 興味が無い |
| 7. その他 () |

問18 ひとり暮らしの高齢者など、災害発生時に気になる人が地域にいますか。

(ひとつだけ○)

- | | | |
|-------|--------|---------|
| 1. いる | 2. いない | 3. 知らない |
|-------|--------|---------|

問19 地震や台風などの災害発生時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1. 自分や同居する家族の避難方法の確認 | 7. 地域における支援団体の組織づくり |
| 2. 災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと | 8. 避難の際に手助けが必要な人の把握 |
| 3. 日ごろからの隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい | 9. 避難の際に手助けが必要な人に対する情報伝達の体制づくり |
| 4. 災害対策の学習会の開催 | 10. 避難の際に手助けが必要な人を支援する人たちの把握 |
| 5. 地域での避難訓練の実施 | 11. その他 () |
| 6. 危険箇所の把握 | 12. 特にない |

問20 あなたがお住まいの地域の出来事として、高齢者や子ども、障がいのある人に対する家族等による虐待について耳にしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 聞いたことがある(高齢者) | 3. 聞いたことがある(子ども) |
| 2. 聞いたことがある(障がいのある人) | 4. 聞いたことがない |

問21 もしあなたの周囲で、虐待が発生しているとあなた自身が思われたら、最初にどのように対応しますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 近隣の人に連絡する | 5. 警察へ連絡する |
| 2. 自治会(行政区)役員に連絡する | 6. 直接自分で様子をみるため訪問する |
| 3. 民生委員・児童委員に連絡する | 7. かかわりたくないので何もしない |
| 4. 市役所へ連絡する | 8. その他() |

問22 あなたの身近なところで、困っている人がいた場合、あなた自身はどのような支援ができると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. 安否確認の声かけ | 8. ごみ出しの手伝い |
| 2. 心配ごとなどの相談相手 | 9. 急病になった時の看病 |
| 3. 子どもの短時間の預かり | 10. 介護を必要とする人の短時間の預かり |
| 4. 子どもの学習支援 | 11. 災害時の手助け |
| 5. 買い物の手伝い | 12. 日常的な話し相手 |
| 6. 家事の手伝い | 13. その他() |
| 7. 外出の手伝い | 14. 特にない |

5. 地域活動やボランティア活動についておたずねします。

問23 あなたは現在、自治会(行政区)や子ども会、老人クラブの活動など、地域活動をしていますか。(ひとつだけ○)

- | | | |
|-----------------------------|---|----------|
| 1. 現在活動している | → | 問23-1へ進む |
| 2. 過去に活動したことがあるが、現在は活動していない | | |
| 3. 活動したことがない | ⊥ | 問23-3へ進む |

問23-1 どんな活動をしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 校区の活動
2. 自治会（行政区）の活動
3. 子ども会・PTAの活動
4. 老人クラブの活動
5. 女性団体の活動
6. 消防団・自主防災組織の活動
7. その他（ ）

問23-2 どのような目的で活動していますか。

(ひとつだけ○)

1. 地域での支え合い
2. 隣近所とのふれあいを求めて
3. 自分自身の勉強や意識の向上
4. 役回りなどで仕方なく
5. ただなんとなく
6. その他（ ）

問23-3 現在活動していない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 勤務などの都合で余裕がない
2. 引越して間もない
3. 活動の方法がわからない
4. 時間がない
5. 興味がない
6. 活動内容が大変だから
7. 体調がすぐれない
8. 知り合いがいない
9. いやな思いをしたくない
10. 役が回ってこない
11. 家の人が気にする
12. 自信がない
13. 自治会（行政区）に入っていない
14. その他（ ）

問24 あなたは、問23のような地域での活動以外に、個人的にボランティア活動に参加したことがありますか。(ひとつだけ○)

1. 現在参加している
2. 以前に参加したことがあるが、現在参加していない
3. まったく参加したことはないが、今後参加したい
4. まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない
5. その他（ ）

問24-1へ進む

問24-1 あなたは、どのようなボランティア活動に参加してきましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1. ひとり暮らしなどの高齢者の援助
2. 子育ての支援や子どもの世話
3. 障がいのある人や障がいのある子どもの援助
4. 健康づくりや栄養・食生活に関する活動
5. スポーツ・文化・レクリエーション・生涯にわたる学習に関する活動
6. 地域づくりに関する活動
7. 青少年の健全な育成に関する活動
8. 災害ボランティア活動
9. その他（ ）

問24-2 ボランティア活動に参加したきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族や友人、知人からの誘い
2. 所属する町内会、団体、学校などの活動の一環
3. 自発的に行動した → 問24-2-1へ進む
4. その他 ()
5. 特になし

問24-2-1 自発的に参加した理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 新しい経験をしたかった
2. 人から感謝されたかった
3. やりがいづくりや生きがいづくりのため
4. 人との協調性を身につけたかった
5. 新しい知識や技術を身につけたかった
6. 知り合いを増やしたかった
7. 社会の役に立ちたかった
8. 視野を広げたかった
9. 自分の経験や知識を活かしたかった
10. その他 ()
11. 特にない

問24-3 ボランティア活動に参加をして、よかった点はどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 新しい経験ができた | 7. 社会の役に立てることに喜びを感じた |
| 2. 人から感謝される幸せを感じた | 8. 視野が広がり、物事の捉え方が変わった |
| 3. やりがいや生きがいを感じた | 9. 今までの自分の経験や知識を活かした |
| 4. 人との協調性が身についた | 10. 人に対して思いやりが持てるようになった |
| 5. 新しい知識や技術が身についた | 11. その他 () |
| 6. 多くの人と知り合いになれた | 12. 特にない |

問24-4 よりよい活動を進める上で改善が求められていること（求められていたこと）はありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 活動に関する情報収集や情報発信をする場、機会が少ない
- 2. 活動の拠点となる場所が少ない
- 3. 他の団体等との連携が難しい
- 4. 参加者がなかなか集まらない
- 5. 活動のリーダー役になる人がいない
- 6. トラブル等が発生したときの責任が重い
- 7. 経済的負担が大きい
- 8. その他（ ）

問25 あなたは、今後、次のような福祉に関わる地域活動やボランティア活動などに参加したいとおもいますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問 など）
 - 2. 障がい福祉（手話や音読・点字訳、外出支援、施設訪問 など）
 - 3. 児童福祉・子育て支援（子育て相談、子育てサークル支援、
子どもの居場所づくり など）
 - 4. 青少年健全育成（登下校時の子どもの見守り、子ども会等への協力 など）
 - 5. 健康づくり（公民館での健康運動教室等の運営協力 など）
 - 6. 防災・防犯（地域防災・防犯活動 など）
 - 7. その他（ ）
 - 8. 参加したくない
 - 9. 参加できない
- 問26へ進む

問25-1へ進む

問25-1 参加したくない、参加できないのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1. 福祉活動に関心がないから
- 2. 時間的に余裕がないから
- 3. 気恥ずかしいから
- 4. 活動に関する情報がないから
- 5. 一緒に参加する仲間がいないから
- 6. 参加するきっかけがないから
- 7. 家族等の理解・協力が得られないから
- 8. 活動に活かせる知識・経験がないから
- 9. 高齢や健康上の理由等で無理だから
- 10. その他（ ）

問26 今後、地域における支え合い、助け合い活動を活発化することが重要になってきます。そのためには、どのようなことが重要だと思えますか。(〇は3つまで)

1. 地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする
2. 地域でボランティアなどの活動拠点となる場所を整備する
3. 地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う
4. リーダーや福祉活動に携わる人を養成する
5. 福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る
6. 困っている人と助けることのできる人をつなぐ人材を育成する
7. 助け合いの場や組織の情報を得やすくする
8. 介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う
9. 学校教育や社会教育での福祉教育を充実する
10. その他 ()
11. 特にない

6. 福祉サービスについておたずねします。

問27 あなたは、現在「福祉サービス」に関する情報を主にどこから(どのようにして)入手していますか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1. 小郡市役所の窓口 | 12. インターネット |
| 2. 市社会福祉協議会の窓口 | 13. 地域包括支援センター |
| 3. 民生委員・児童委員 | 14. 子育て支援センター・つどいの広場 |
| 4. ケアマネジャーやホームヘルパー | 15. 地域活動支援センター・相談支援事業所 |
| 5. 家族や親戚 | 16. 公民館・コミュニティセンター(校区公民館) |
| 6. 近所の人 | 17. 病院や施設 |
| 7. 友人・知人 | 18. 保育所(園)や幼稚園、小中学校 |
| 8. 自治会(行政区)の回覧板 | 19. 情報を得る方法がわからない |
| 9. 広報おごおり | 20. 情報を得る必要がない |
| 10. 社会福祉協議会だより | 21. その他 () |
| 11. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ | |

問28 あなた自身やご家族が、生活上の困りごとを抱えたときや「福祉サービス」の利用が必要となったとき、どこ（誰）に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 市役所等の相談窓口 | 10. 地域活動支援センター・相談支援事業所 |
| 2. 市社会福祉協議会の相談窓口 | 11. 福祉活動をしている民間団体 |
| 3. 民生委員・児童委員 | 12. 家族や親戚 |
| 4. 自治会（行政区）の役員 | 13. 友人・知人 |
| 5. ケアマネジャー | 14. 職場等の同僚 |
| 6. 保育所（園）、幼稚園、小中学校 | 15. 相談するところがない |
| 7. 病院や施設 | 16. 相談はしない |
| 8. 地域包括支援センター | 17. その他（ ） |
| 9. 子育て支援センター・つどいの広場 | |

問29 あなた自身やあなたのご家族は、これまでに、「福祉サービス」の利用に際して不都合を感じたり、不満に思ったりしたことがありますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|-------|----------------|
| 1. ある | 2. ない → 問30へ進む |
|-------|----------------|
- ↓ 問29-1へ進む

問29-1 不都合を感じたり、不満に思ったりしたことはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|--|
| 1. どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった | |
| 2. 利用手続きがわずらわしかった | |
| 3. 窓口の対応が悪かった | |
| 4. 福祉サービスに関する情報が入手しづらかった | |
| 5. 金銭的な負担が大きいので利用しづらかった | |
| 6. 利用したい福祉サービスが利用できなかった | |
| 7. 福祉サービス内容に満足できなかった | |
| 8. その他（ ） | |

問30 福祉サービス利用者が、自分に最適な「福祉サービス」を選び、安心して利用するために、市はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。（〇は3つまで）

1. 福祉サービスに関する情報提供を充実する
2. 福祉サービスの選択についての相談対応を充実する
3. 福祉サービスに関する苦情や福祉サービス事業者とのトラブル解決の支援体制を整える
4. 福祉サービスの内容を評価するしくみを整える
5. 行政や福祉サービス事業者の情報公開を進める
6. 市民が福祉に関する法律や制度等を学習できる機会を増やす
7. 福祉サービス利用者の権利を守るしくみを整える
8. その他（)
9. 特にない

7. これからの福祉のあり方についておたずねします。

問31 子どもたちやその家族が住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（〇は3つまで）

1. 男性向け育児教室など男女ともに家事・育児に参加する意識づくり
2. 安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスの充実
3. 保育サービスのメニュー（乳児保育、一時保育、延長保育など）の充実
4. 働く時間を短縮し、子どもと接する時間を増やす取り組みの充実
5. 育児休業制度や出産後の再雇用制度の充実
6. 育児手当や乳幼児医療費助成など、金銭面の支援の充実
7. 保育所の費用や教育にかかる費用の減額
8. 気軽に子育ての悩みごとなどに関する相談ができる窓口・相談体制の充実
9. 地域ぐるみで子育てを支援する体制の確立
10. 子育て世代が安心して子育てできるような、地域理解を進めるための気運づくり
11. その他（)
12. 特にない

問32 高齢者の人たちが住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。(〇は3つまで)

1. 健康づくりや医療体制の充実
2. 公共施設・道路・交通機関の改善(バリアフリー)
3. 高齢者が住みやすい住宅の整備
4. 在宅福祉サービス(ホームヘルプ・デイサービスなど)の充実
5. 入所施設(特別養護老人ホームなど)の充実
6. 高齢者の働く機会の充実
7. 高齢者のボランティア活動への参加機会の充実
8. 高齢者の文化・スポーツ活動への参加機会の充実
9. 経済的な支援の充実
10. 困ったときの相談体制の充実
11. 高齢者と家族のつながりを深める取り組み(子世帯とのテレビ電話の促進など)の充実
12. 隣近所など、身近な地域で高齢者を支える取り組みの充実
13. その他()
14. 特にない

問33 障がいのある人たちが住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。(〇は3つまで)

1. 自立した生活を送るための教育や生活訓練の充実
2. 職業訓練や働く場の充実
3. 公共施設・道路・交通機関などの改善(バリアフリー)
4. 障がいのある人に対する理解の促進
5. 入所施設の充実
6. 在宅福祉サービス(ホームヘルプ、デイサービスなど)の充実
7. 福祉手当の支給など、金銭面の支援
8. 住みやすい住宅の支援
9. 困ったときの相談体制や情報提供の充実
10. 身近な地域で障がいのある人を支援する体制の充実
11. その他()
12. 特にない

問34 生活困窮者が自立するため、また継続して自立した生活を営めるようにするために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。(〇は3つまで)

1. ハローワーク等との連携による就労支援の充実
2. 職業訓練や生活訓練の充実
3. 家計相談支援の充実
4. プライバシーに配慮した相談窓口の確保
5. 一般就労の前に中間的な就労ができる場の確保
6. 住居確保給付金の支給など住居の確保
7. 生活困窮世帯の子どもの学習支援体制の充実
8. 生活困窮世帯の子どもへの食事提供支援体制の充実
9. 困ったときの相談体制や情報提供の充実
10. ひきこもりの人などの社会参加へのサポート
11. 身近な地域で生活困窮者を支援する体制の充実
12. その他 ()
13. 特にない

問35 地域で健康づくりを進めていくために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。(〇は3つまで)

1. 地域ぐるみの健康づくり運動の推進
2. 健康診断についての周知
3. 健康に関する勉強会や講習会の開催
4. こころや体の健康について、気軽に相談できる取り組みの充実
5. 地域で健康づくりを推進する人の養成
6. 地域で健康づくりを推進するグループの支援
7. 健康に関する情報提供の充実
8. 運動やレクリエーション施設の整備
9. 施設の利用時間の拡大
10. その他 ()
11. 特にない

問36 ひとり親家庭の人たちが住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（○は3つまで）

1. 多様な働き方ができる労働環境の整備促進
2. ハローワーク等との連携による就労支援の充実
3. 資格取得のための支援
4. 家計相談支援の充実
5. プライバシーに配慮した相談窓口の確保
6. 保育サービスのメニュー（乳児保育、一時保育、延長保育など）の充実
7. ヘルパー等による家事育児支援の充実
8. ひとり親同士の交流の場・グループ活動への支援
9. 住居確保給付金の支給など住居の確保
10. 生活困窮世帯の子どもの学習支援体制の充実
11. 生活困窮世帯の子どもへの食事提供支援体制の充実
12. その他（ ）
13. 特にない

問37 市民が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、どのような福祉のあり方が大切だと思いますか。（○は3つまで）

1. 身近なところでの相談窓口の充実
2. 専門性の高い相談支援の充実
3. 福祉に関する情報提供の充実
4. 手当など、個人や家族に対する金銭的な援助の充実
5. 地域活動や地域福祉活動への公的な援助の充実
6. 地域活動や地域福祉活動を担う人材の育成
7. 気軽に集まれる場の充実
8. 市民がともに支え合い、助け合える地域づくりの推進
9. 福祉教育の充実
10. その他（ ）
11. 特にない

問38 私たち一人ひとりが安心して地域のなかで暮らしていくために、市民のひとりとしてあなたができることはどんなことがあるとお考えですか。（ひとつだけ○）

1. 地域活動に積極的に参加する
2. できるだけ地域での出来事に関心を持つ
3. 学校での行事など、家族に関係ある範囲内の活動には参加する
4. まずは家庭内の問題（コミュニケーション不足など）を解決する
5. その他（）
6. 特にない

○ 誰もが住みやすい「地域づくり」を進めていくため、小郡市・小郡市社会福祉協議会に対するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わりです。

ご協力ありがとうございました。

ふくし おごおり福祉トーク！

ちいきふくしけいかく ちいきふくしかつどうけいかく さくてい
～地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定するための
しみん
市民ワークショップ～

おごおりし おごおりししゃがふくしきょうぎかい くわ みな
小郡市と小郡市社会福祉協議会では、このアンケートに加えて、皆さんの
おち おち けいかく ほんえい しみん
のまちへの想いや、アイデアを計画に反映するため、「市民ワークショッ
プ」（全2回）を開催します。

しな いざいにゆう さん が おごおりし げんじょう かだい
市内在住のどなたでもご参加いただけます。小郡市の現状や課題、み
んなでできることなどを自由に語り合いませんか。

だい
第1回

11月18日(日)
午前10時～12時(予定)

だい
第2回

12月1日(土)
午前10時～12時(予定)

かいじう
会場
かくかいじうじう
各回共通

あすてらす1階
たもくてき
多目的ホール

げんそく だい かい だい かい りようほう
原則、第1回と第2回の両方へ
さんか ねが
の参加をお願いします。

※どちらか1回のみ参加も
かのう
可能です。

たくし
託児
あり

しゅわつうやく
手話通訳
あり

【申込方法】

でんわ または ①参加日 ②お名前(ふりがな) ③年齢 ④性別 ⑤住所 ⑥お住まいの小 学区
⑦電話番号 ⑧所属団体(あれば) ⑨手話通訳の希望の有無 ⑩託児の希望の有無を任意の
ようしき めいしき ぼうそく まどくちじさん
様式に明記し、FAX、Eメール、郵送、窓口持参のいずれかでお申 込ください。

※Eメールの場合は、メール本文に必要事項を入力して送信してください。

【申込先】

おごおりししゃがふくしきょうぎかい ちいきふくしがかり でんわ
小郡市社会福祉協議会 地域福祉係 電話：73-1120 FAX：72-5694

Eメールアドレス：o.shakyo.area@lup.bbiq.jp

ゆうそう おごおりしふたもり ばんち ない
郵送：小郡市二森1167番地1(あすてらす内)

※月～土曜日の午前8時30分～午後5時

【申込期限】

11月9日(金)